

(2023 (令和5) 年8月～9月実施)

# 第50回

# 市民アンケート調査報告書

—— あなたと市政を結ぶ ——





# 目 次

## I 調査概要

1	調査目的	1
2	調査内容	1
3	調査の設計	1
4	回収結果	1
5	報告書内のデータの記述について	2
6	図表の数値の統計的な見方	2
7	回答者の属性	4

## II 調査結果

1	「市政運営」について	6
2	あなたご存じですか？	10
3	SDGsの達成に向けて	18
3-1	FSC <sup>®</sup> 森林認証について	18
3-2	カーボンニュートラルについて	23
3-3	多文化共生について	31
3-4	デジタルを活用したまちづくりについて	37
3-5	歩きスマホについて	47
3-6	人権について	54
3-7	文化振興について	60
3-8	スポーツの推進について	66
3-9	ユニバーサルデザイン・男女共同参画について	72
3-10	消費生活について	79
3-11	みどりについて	86
3-12	環境活動の実践について	92
4	浜松市戦略計画 2023 について	98

## 付録 調査票



# I 調査概要

---



## 1 調査目的

本調査は、社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心・ニーズなどを把握するため実施し、1970（昭和 45）年度から始まり、本年度で 50 回目※になります。調査結果は、今後の市政運営に関わるさまざまな基礎資料として活用しています。

※1970（昭和 45）年度 1 回目、1973（昭和 48）年度 2 回目、1975（昭和 50）年度 3 回目、  
1977（昭和 52）年度 4 回目（以降毎年実施）

## 2 調査内容

- (1) 「市政運営」について
- (2) あなたはご存じですか？
- (3) SDGs の達成に向けて
  - (3-1) FSC 森林認証について
  - (3-2) カーボンニュートラルについて
  - (3-3) 多文化共生について
  - (3-4) デジタルを活用したまちづくりについて
  - (3-5) 歩きスマホについて
  - (3-6) 人権について
  - (3-7) 文化振興について
  - (3-8) スポーツの推進について
  - (3-9) ユニバーサルデザイン・男女共同参画について
  - (3-10) 消費生活について
  - (3-11) みどりについて
  - (3-12) 環境活動の実践について
- (4) 浜松市戦略計画 2023 について

## 3 調査の設計

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満 18 歳以上の市民 3,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送、郵送回答および Web 回答の併用
- (5) 調査期間 2023（令和 5）年 8 月 7 日～9 月 15 日
- (6) 調査機関 株式会社 東京商工リサーチ

## 4 回収結果

発送数 3,000 人

有効回収数 1,444 人（48.1%）

## 5 報告書内のデータの記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点第2位以下を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「n」として記載した。比率はこの基数を100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューター処理の都合上、省略している箇所がある。
- (5) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (6) この調査は行政区再編前に実施したものであるため、この報告書における行政区名は再編前の表記としている。

## 6 図表の数値の統計的な見方

《本報告書の調査対象者は市民 670,959 人》

本調査は、住民基本台帳による満 18 歳以上の浜松市在住の人口 670,959 人（=母集団、2023（令和5）年7月1日現在）を対象としている。ただ、全員の意識や実態を調べる全数調査には莫大な費用や労力、時間がかかることから、実際に調査したのは無作為に抽出した 3,000 人である。無作為に標本を抽出する理由は、得られた標本が、調査対象者 670,959 人の性別、年齢別、居住区別などの属性でみた場合、どこかの属性に回答が偏らず、その「縮図」になるようにするためである。有効回答数は 1,444 人だった。

《報告書の調査結果に付随する標本誤差について》

この報告書の集計結果は、あくまで調査対象者の一部を調べた結果であることから、調査対象者である母集団 670,959 人全員の意識や実態の真の値に対してプラスマイナスの誤差（標本誤差）を含んでいる。標本調査は、母集団の真の値を知ることができないが、標本調査の理論では、得られた標本の値が真の値に対してどれだけの範囲の誤差を伴っているかを明らかにすることができる。

標本誤差の計算式は、次のとおり。

標本誤差の計算式

$$\pm 1.96 \times \sqrt{\frac{\text{母集団数} - \text{回答者数}}{\text{母集団数} - 1} \times \frac{\text{回答割合}(\%) \times (1 - \text{回答割合}(\%))}{\text{回答者数}}}$$

※母集団数は、住民基本台帳による満 18 歳以上の浜松市の人口 670,959 人（2023（令和5）年7月1日現在）、回答者数は、図表中に「n」として記載



標本誤差の計算式では、回答者の数（回答者数）、調べたい設問に対する回答者の回答比率（回答割合）などによって誤差が変わることが分かる。【参考表】は、回答者数と回答割合の2つの要素を考慮した場合、調査結果に対する標本誤差が母集団の真の値に対してどの程度の誤差を持っているのかを示した表である。

≪標本誤差の範囲設定の信頼度について≫

また、標本誤差の計算式の冒頭にある「1.96」という値は、各集計結果に含まれる【参考表】で示した標本誤差の範囲設定の信頼度を95%にするための係数である。この係数によって、100回同じ調査を繰り返しても95回は母集団の真の値が、集計結果の±の誤差の範囲の中に存在することを意味している。信頼度を95%に設定することは、国や都道府県などの公的機関や大学など研究機関が行う各種社会調査で通常最もよく用いられている設定値である。

【参考表】各設問に対する回答数（標本 n）及び回答比率（%）に含まれる標本誤差の一覧（±値）

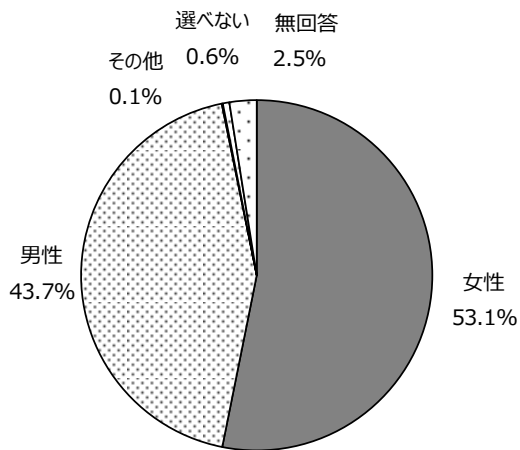
（見方）ある設問のある選択肢の回答数が300人で、その選択肢を選んだ人の割合が25%だった場合、表で網掛けをした標本数（n=300）と回答比率（%）25%が交わる点の標本誤差は「±4.9%」となる。これは浜松市の調査対象全体（母集団）の真の値が、この標本調査の回答比率25%±4.9%の範囲（20.1%～29.9%）の間に存在する確率（信頼度）が95%であることを意味している。

		標本数 (n) ※各設問に対する回答数										
		100	200	300	400	500	700	800	1,000	1,500	1,700	2,000
※各設問に対する回答比率 (p)	5%	4.3%	3.0%	2.5%	2.1%	1.9%	1.6%	1.5%	1.3%	1.1%	1.0%	1.0%
	10%	5.9%	4.2%	3.4%	2.9%	2.6%	2.2%	2.1%	1.9%	1.5%	1.4%	1.3%
	15%	7.0%	4.9%	4.0%	3.5%	3.1%	2.6%	2.5%	2.2%	1.8%	1.7%	1.6%
	20%	7.8%	5.5%	4.5%	3.9%	3.5%	3.0%	2.8%	2.5%	2.0%	1.9%	1.8%
	25%	8.5%	6.0%	4.9%	4.2%	3.8%	3.2%	3.0%	2.7%	2.2%	2.1%	1.9%
	30%	9.0%	6.3%	5.2%	4.5%	4.0%	3.4%	3.2%	2.8%	2.3%	2.2%	2.0%
	35%	9.3%	6.6%	5.4%	4.7%	4.2%	3.5%	3.3%	3.0%	2.4%	2.3%	2.1%
	40%	9.6%	6.8%	5.5%	4.8%	4.3%	3.6%	3.4%	3.0%	2.5%	2.3%	2.1%
	45%	9.7%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	3.7%	3.4%	3.1%	2.5%	2.4%	2.2%
	50%	9.8%	6.9%	5.7%	4.9%	4.4%	3.7%	3.5%	3.1%	2.5%	2.4%	2.2%
	55%	9.7%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	3.7%	3.4%	3.1%	2.5%	2.4%	2.2%
	60%	9.6%	6.8%	5.5%	4.8%	4.3%	3.6%	3.4%	3.0%	2.5%	2.3%	2.1%
	65%	9.3%	6.6%	5.4%	4.7%	4.2%	3.5%	3.3%	3.0%	2.4%	2.3%	2.1%
	70%	9.0%	6.3%	5.2%	4.5%	4.0%	3.4%	3.2%	2.8%	2.3%	2.2%	2.0%
	75%	8.5%	6.0%	4.9%	4.2%	3.8%	3.2%	3.0%	2.7%	2.2%	2.1%	1.9%
	80%	7.8%	5.5%	4.5%	3.9%	3.5%	3.0%	2.8%	2.5%	2.0%	1.9%	1.8%
85%	7.0%	4.9%	4.0%	3.5%	3.1%	2.6%	2.5%	2.2%	1.8%	1.7%	1.6%	
90%	5.9%	4.2%	3.4%	2.9%	2.6%	2.2%	2.1%	1.9%	1.5%	1.4%	1.3%	
95%	4.3%	3.0%	2.5%	2.1%	1.9%	1.6%	1.5%	1.3%	1.1%	1.0%	1.0%	

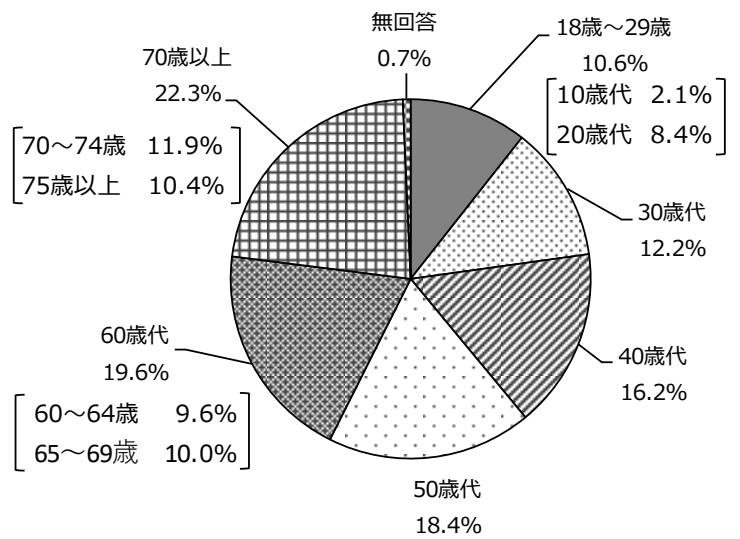
## 7 回答者の属性

n=1,444

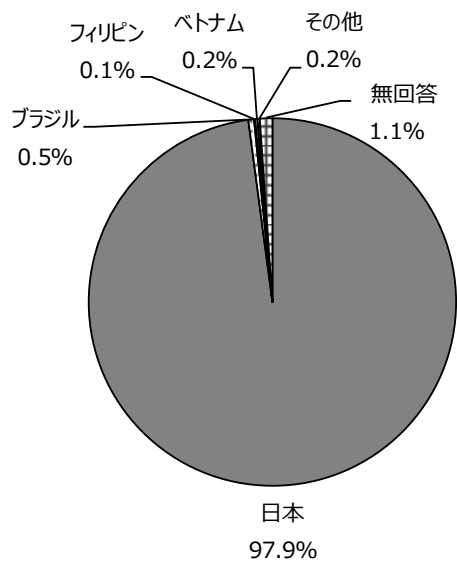
### (1) 性別



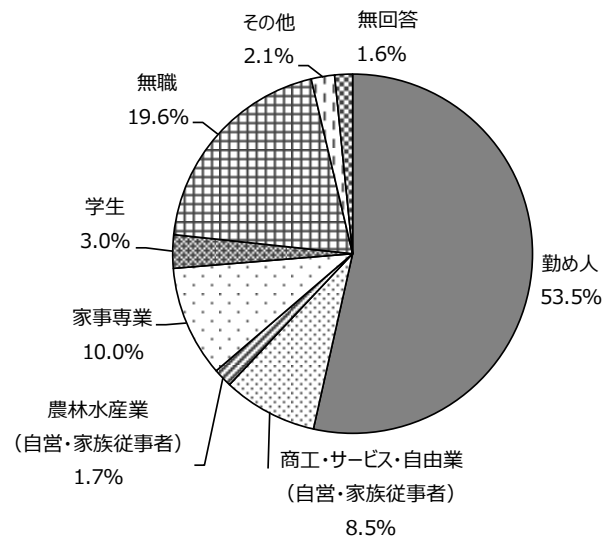
### (2) 年代



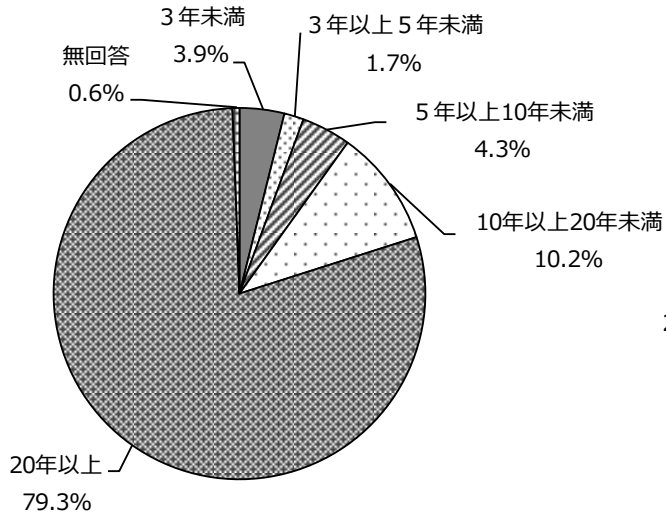
### (3) 国籍



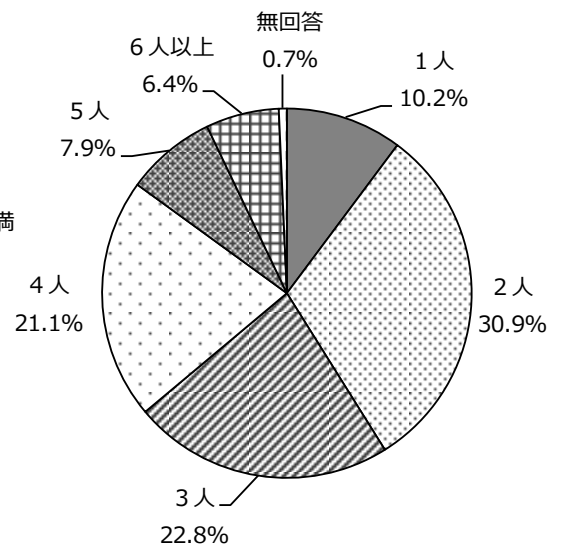
### (4) 職業



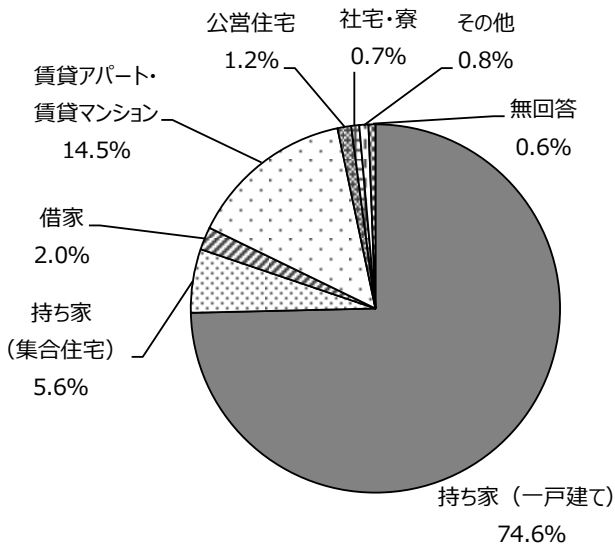
### (5) 居住年数



### (6) 家族数

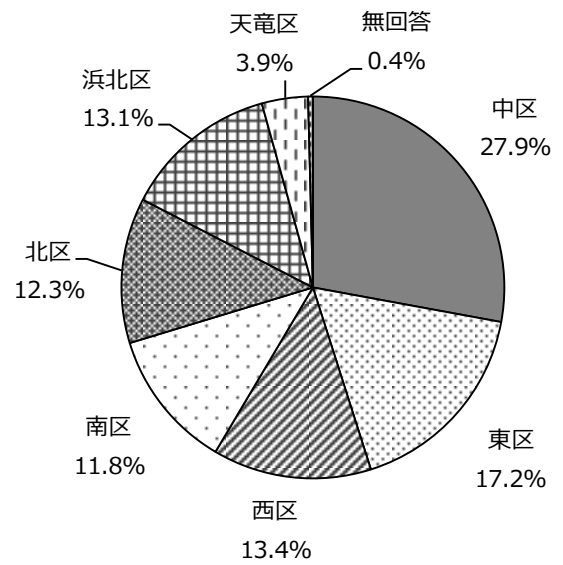


(7) 居住形態

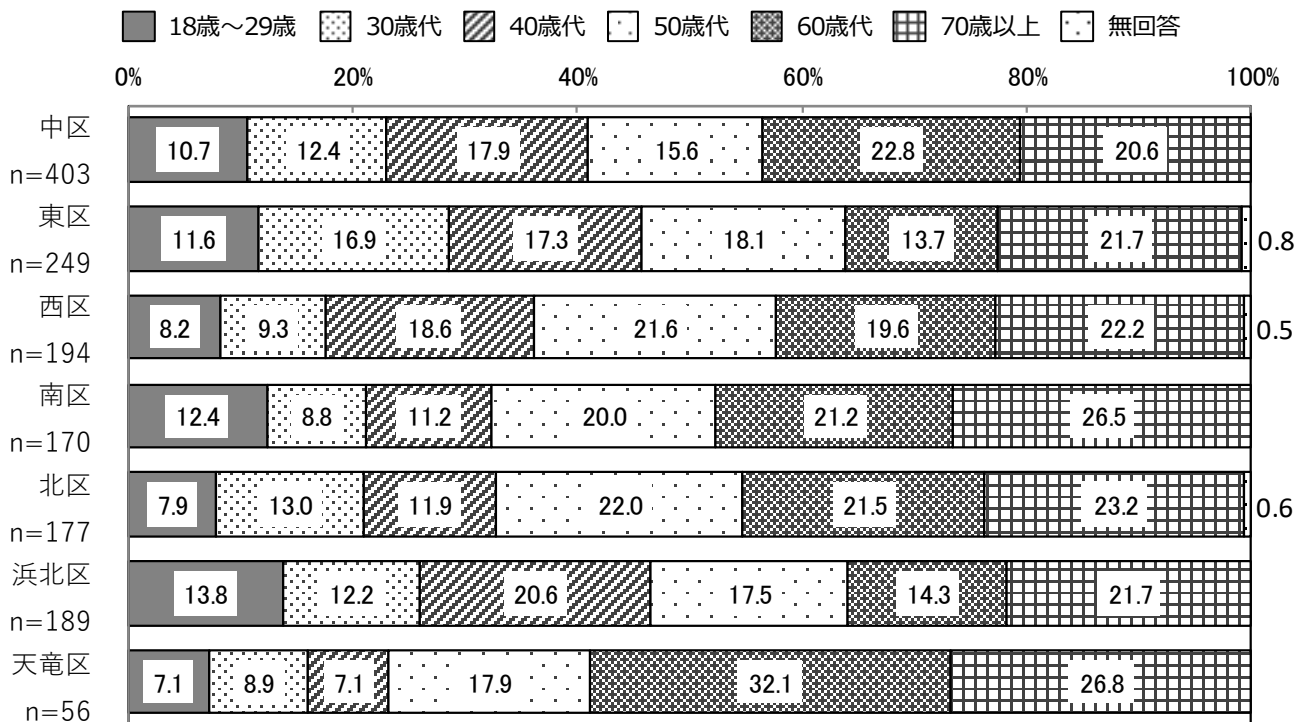


(8) 行政区

n=1,444



(9) 行政区別年代





## II 調查結果

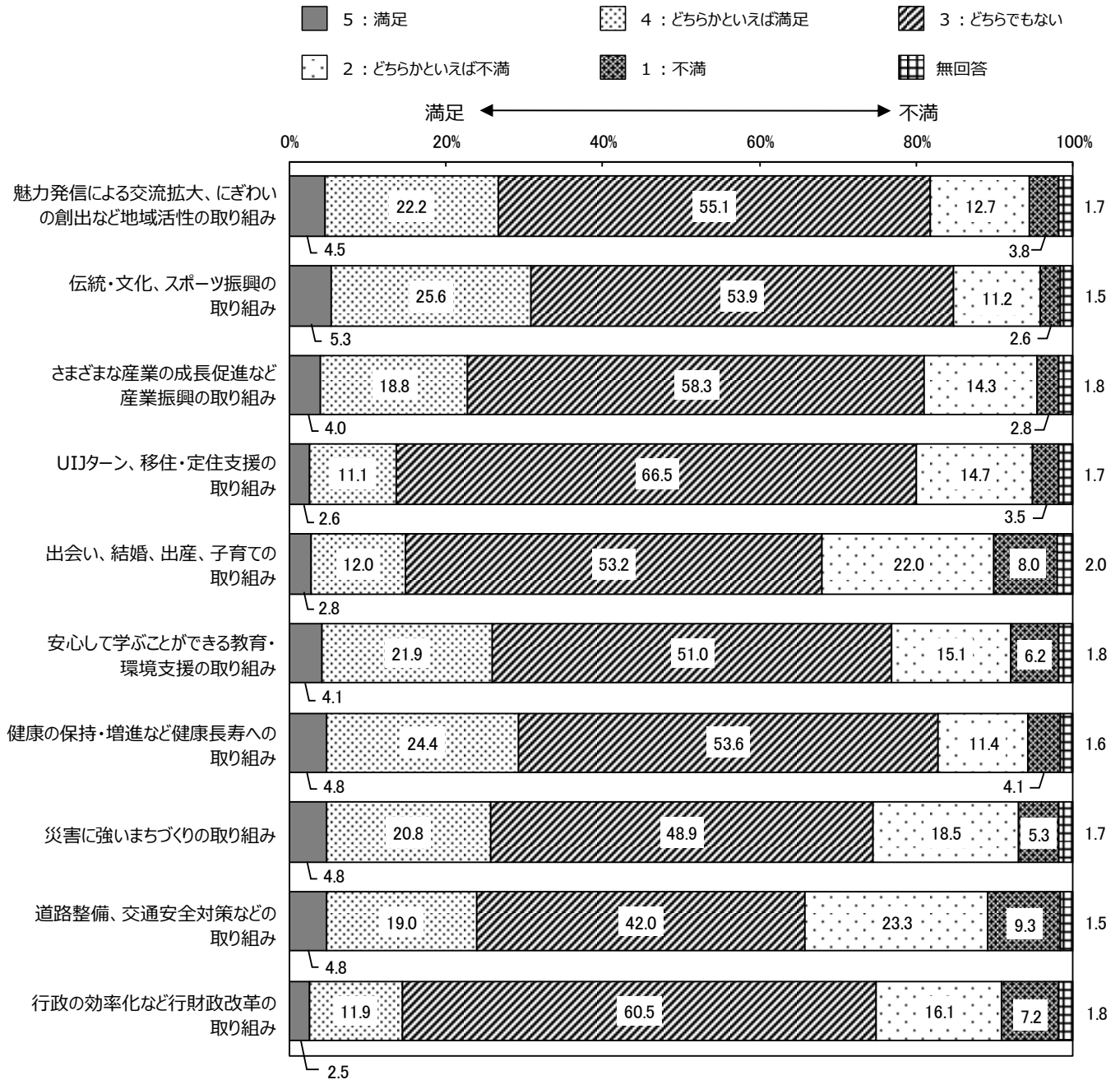
---

# 1 「市政運営」について

問1 次にあげる取り組みについて、あなたは、どの程度満足していると感じていますか。また、今後の取り組みとしてはどの程度重要だと思えますか。各項目の満足度、今後の重要度それぞれについて、1～5のうちから1つずつ選び○を付けてください。

## ① 現在の満足度

n=1,444



- 評価が「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』の割合が最も高かった項目は、「伝統・文化、スポーツ振興の取り組み」の30.9%だった。最も低かったのは「UIターン、移住・定住支援の取り組み」の13.7%だった。

【性別・年代別・行政区別】

◎=6点以上 \* =4点以下 (単位:点)

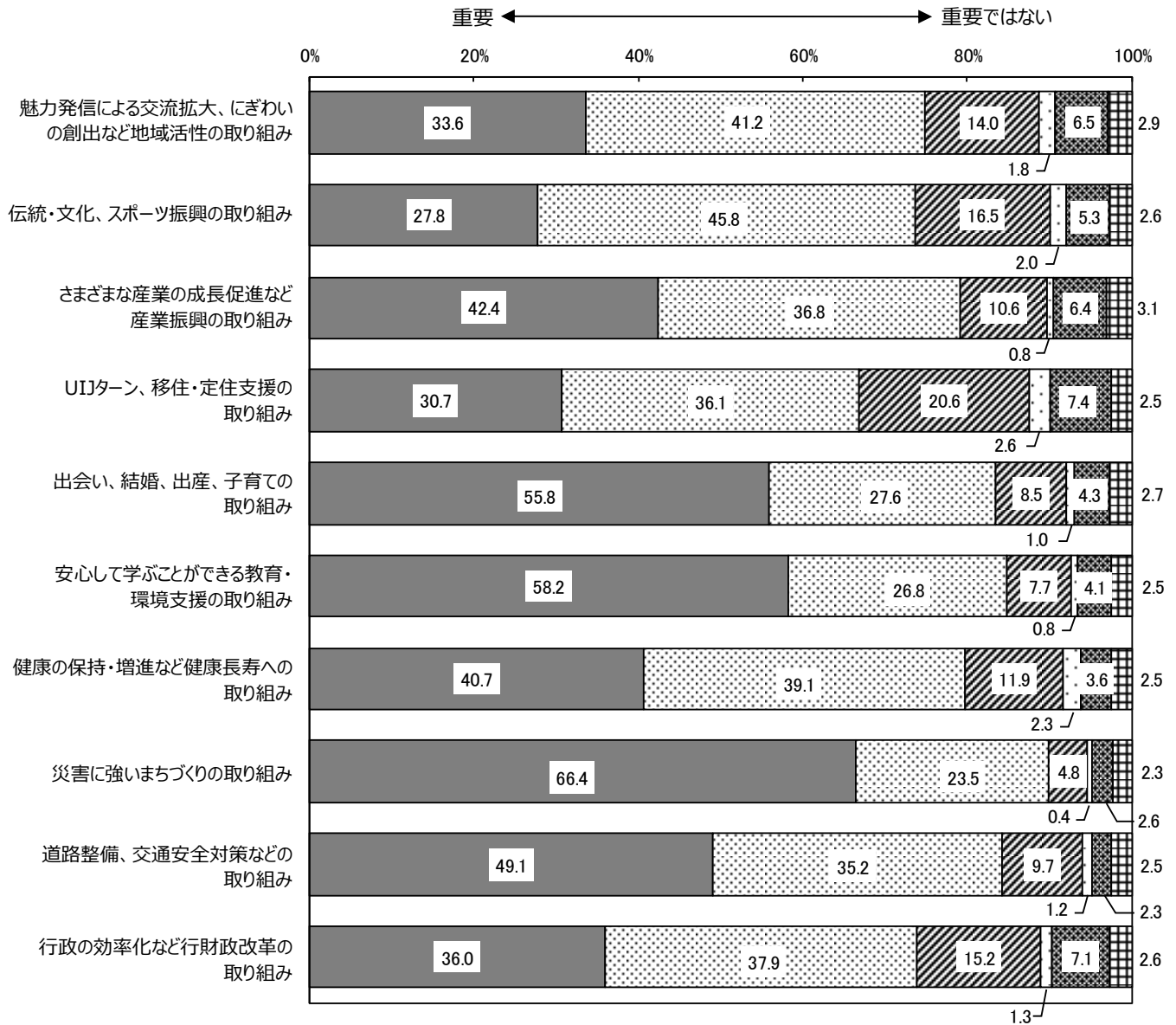
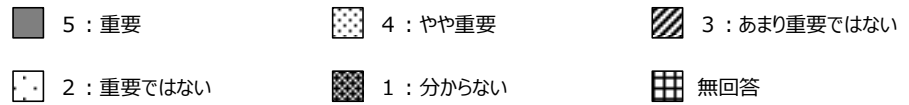
		地域活性		産業振興	移住・定住支援	子育て	教育	くらし	安心・安全		持続可能な都市
		の魅力発信など地域活性の取り組みにぎわい	伝統・文化、スポーツ振興の取り組み	さまざまな産業の成長促進など	Uターン、移住・定住支援の取り組み	出会い、結婚、出産、子育ての取り組み	安心して学ぶことができる教育・環境支援の取り組み	健康の保持・増進など健康長寿への取り組み	災害に強いまちづくりの取り組み	道路整備、交通安全対策などの取り組み	行政の効率化など行財政改革の取り組み
性別	女性	5.4	5.7	5.4	4.9	4.6	5.1	5.5	5.1	4.8	4.7
	男性	5.1	5.3	5.0	4.8	4.4	5.1	5.3	5.0	4.5	4.6
	その他	5.0	5.0	5.0	5.0	*0.0	*2.5	*0.0	5.0	*2.5	*0.0
	選べない	5.6	4.7	4.7	4.7	4.4	*3.8	4.1	5.0	*3.1	4.4
年代	10歳代	◎6.5	◎6.9	◎6.5	5.4	5.0	5.5	◎6.4	◎6.3	4.9	5.4
	20歳代	5.8	◎6.1	5.6	4.7	4.1	5.2	5.7	5.1	5.2	4.7
	30歳代	5.3	5.8	5.1	5.1	4.1	4.9	5.6	5.2	4.8	4.7
	40歳代	5.5	5.4	5.1	5.0	4.4	5.0	5.4	5.2	4.6	4.7
	50歳代	5.3	5.3	5.0	4.6	4.4	4.8	5.0	4.8	4.3	4.6
	60～64歳	4.9	5.2	4.9	4.7	4.5	4.9	5.2	4.8	4.5	4.2
	65～69歳	4.8	5.0	4.8	4.7	4.4	4.8	5.1	4.6	4.1	4.3
	70～74歳	5.1	5.6	5.4	5.2	4.8	5.5	5.5	5.1	4.9	5.0
75歳以上	5.2	5.7	5.4	4.9	5.0	5.6	5.7	5.3	5.1	5.0	
行政区	中区	5.3	5.7	5.3	4.9	4.7	5.3	5.5	5.3	4.9	4.7
	東区	5.4	5.5	5.2	5.1	4.7	5.1	5.3	5.0	4.7	4.8
	西区	5.3	5.4	5.1	4.8	4.4	4.8	5.4	4.8	4.7	4.7
	南区	5.2	5.5	5.3	4.8	4.1	5.2	5.3	5.1	4.4	4.8
	北区	5.2	5.3	5.1	4.7	4.1	4.9	5.3	4.9	4.7	4.3
	浜北区	5.2	5.7	5.4	5.1	4.5	5.0	5.5	5.1	4.7	4.8
	天竜区	4.5	5.0	*4.0	4.2	4.1	4.6	4.5	*3.9	*3.2	*3.9

※ 評価が「満足」を10点、「どちらかといえば満足」を7.5点、「どちらでもない」を5点、「どちらかといえば不満」を2.5点、「不満」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど満足度が高くなる指数である。

- 年代別でみると、40歳代以外のすべての年代において「伝統・文化、スポーツ振興の取り組み」の指数が最も高い。
- 行政区別でみると、天竜区はすべての項目において指数が最も低い。

## ②今後の重要度

n=1,444



- 評価が「重要」と「やや重要」を合わせた『重要である』の割合が最も高かった項目は、「災害に強いまちづくりの取り組み」の89.9%であり、次いで「安心して学ぶことができる教育・環境支援の取り組み」の85.0%となった。



## 【性別・年代別・行政区別】

◎=6点以上 \* =4点以下 (単位:点)

		地域活性		産業振興	移住・定住支援	子育て	教育	くらし	安心・安全		持続可能な都市
		の魅力発信などによる交流の拡大にぎわい	伝統・文化、スポーツ振興の取り組み	さまざまな産業の成長促進など	Uターン、移住・定住支援の取り組み	出会い、結婚、出産、子育ての取り組み	安心して学ぶことができる教育・環境支援の取り組み	健康の保持・増進など健康長寿への取り組み	災害に強いまちづくりの取り組み	道路整備、交通安全対策などの取り組み	行政の効率化など行財政改革の取り組み
性別	女性	◎7.4	◎7.2	◎7.8	◎7.0	◎8.4	◎8.7	◎7.9	◎9.1	◎8.3	◎7.6
	男性	◎7.1	◎6.7	◎7.8	◎6.7	◎8.2	◎8.1	◎7.1	◎8.5	◎7.6	◎7.1
	その他	*0.0	*0.0	*0.0	*0.0	◎10.0	◎10.0	◎10.0	◎10.0	◎6.7	◎10.0
	選べない	5.4	4.8	5.8	◎6.7	◎7.5	◎6.7	◎7.6	◎7.9	◎7.5	5.8
年代	10歳代	◎7.9	◎7.7	◎7.6	◎7.5	◎8.5	◎8.8	◎7.4	◎9.2	◎8.7	◎7.6
	20歳代	◎7.0	◎6.8	◎7.5	◎6.6	◎8.7	◎8.5	◎7.6	◎8.9	◎7.9	◎7.3
	30歳代	◎7.1	◎6.6	◎8.1	◎6.9	◎9.0	◎8.9	◎6.9	◎8.9	◎7.8	◎7.2
	40歳代	◎7.2	◎6.8	◎7.5	◎6.5	◎8.4	◎8.5	◎7.0	◎8.7	◎7.9	◎7.0
	50歳代	◎7.1	◎6.9	◎7.7	◎7.0	◎8.0	◎8.3	◎7.7	◎9.0	◎7.9	◎7.2
	60～64歳	◎7.2	◎7.0	◎7.8	◎7.0	◎8.0	◎8.3	◎8.0	◎8.7	◎8.0	◎7.6
	65～69歳	◎7.0	◎6.8	◎7.6	◎6.9	◎8.1	◎8.1	◎7.8	◎8.5	◎8.2	◎7.4
	70～74歳	◎7.8	◎7.5	◎8.0	◎6.9	◎8.1	◎8.4	◎7.9	◎8.7	◎8.4	◎7.7
75歳以上	◎7.6	◎7.1	◎8.0	◎7.0	◎8.1	◎8.3	◎7.7	◎8.6	◎7.6	◎7.7	
行政区	中区	◎7.4	◎7.1	◎8.0	◎7.0	◎8.5	◎8.4	◎7.5	◎8.7	◎7.8	◎7.5
	東区	◎6.9	◎6.8	◎7.6	◎6.4	◎8.0	◎8.4	◎7.5	◎8.9	◎8.0	◎7.2
	西区	◎7.0	◎6.6	◎7.7	◎6.8	◎8.2	◎8.3	◎7.4	◎8.6	◎7.5	◎7.1
	南区	◎7.3	◎6.8	◎7.6	◎6.9	◎8.2	◎8.2	◎7.5	◎8.7	◎8.0	◎7.4
	北区	◎7.2	◎6.8	◎7.7	◎6.9	◎8.3	◎8.6	◎7.4	◎8.8	◎8.0	◎7.3
	浜北区	◎7.7	◎7.5	◎8.1	◎7.1	◎8.6	◎8.8	◎7.7	◎9.0	◎8.5	◎7.5
	天竜区	◎7.7	◎6.6	◎7.5	◎7.3	◎7.7	◎7.8	◎8.0	◎9.1	◎9.0	◎7.5

※ 評価が「重要」を10点、「やや重要」を20/3点、「あまり重要ではない」を10/3点、「重要ではない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

- 年代別で見ると、30歳代以外のすべての年代において「災害に強いまちづくりの取り組み」の指数が最も高い。

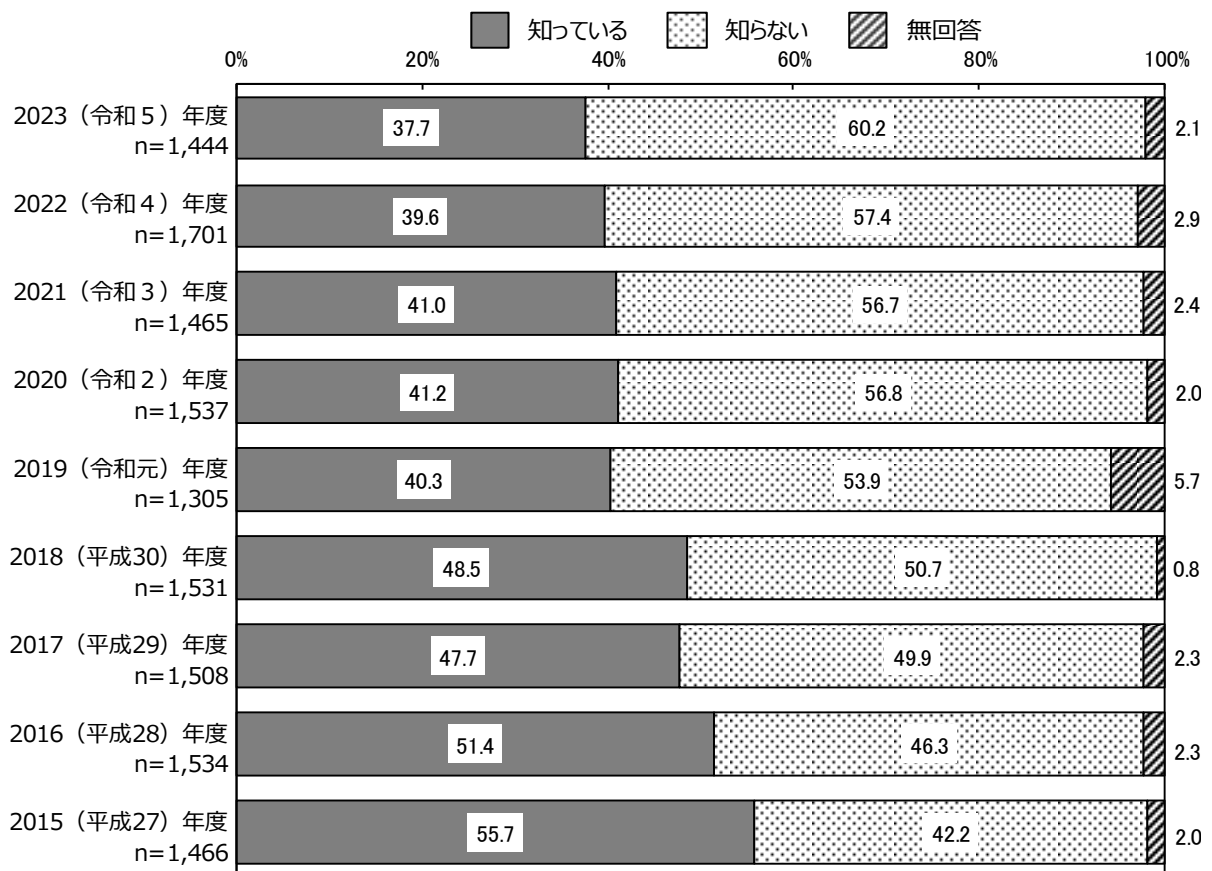
## 2 あなたはご存じですか？

問2 次の項目について、あなたをご存じですか。1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

### ① 市制記念日

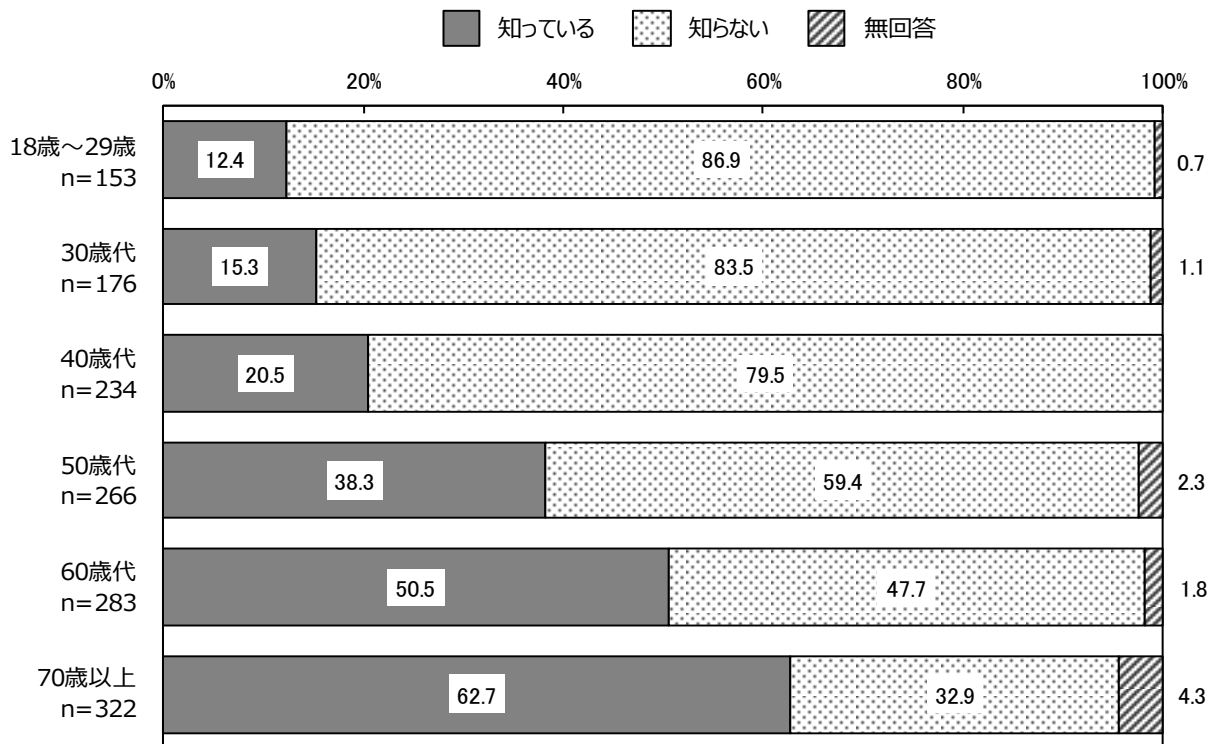
※ 浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。

「市制記念日」を「知っている」人は37.7%

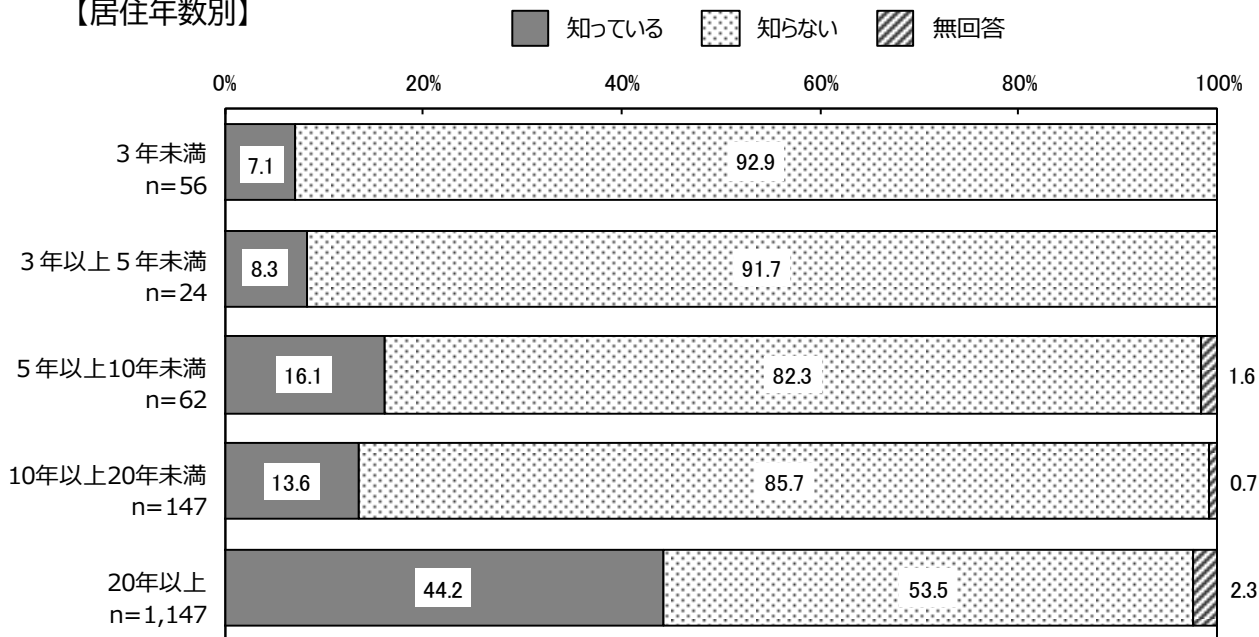


- 「知っている」が37.7%となり、「知らない」の60.2%を22.5ポイント下回った。2022（令和4）年度との比較では、「知っている」が1.9ポイント減少した。
- 年代別でみると、「知っている」と回答した割合は、70歳以上の62.7%が最も高く、次いで60歳代が50.5%となった。年齢が高いほど「知っている」割合が高い傾向がみられたが、30歳代以下は8割以上が「知らない」と回答しており、若い世代の認知度が低い。
- 居住年数別でみると、「知っている」と回答した割合は「20年以上」の44.2%が最も高く、次いで「5年以上10年未満」の16.1%となった。居住年数が高いほど「知っている」割合が高い傾向がみられたが、20年未満ではいずれも「知らない」割合が8割を超えた。
- 若い世代を主として市民全体の認知度を向上させていく取り組みが求められる。そのため、学校教育などを通じてふるさとについて学ぶ機会を増やし、若い世代に対し地域への愛着や市政についての関心を深めることを中心に、さまざまな年代や地域に向けた情報の発信を継続する必要がある。

【年代別】



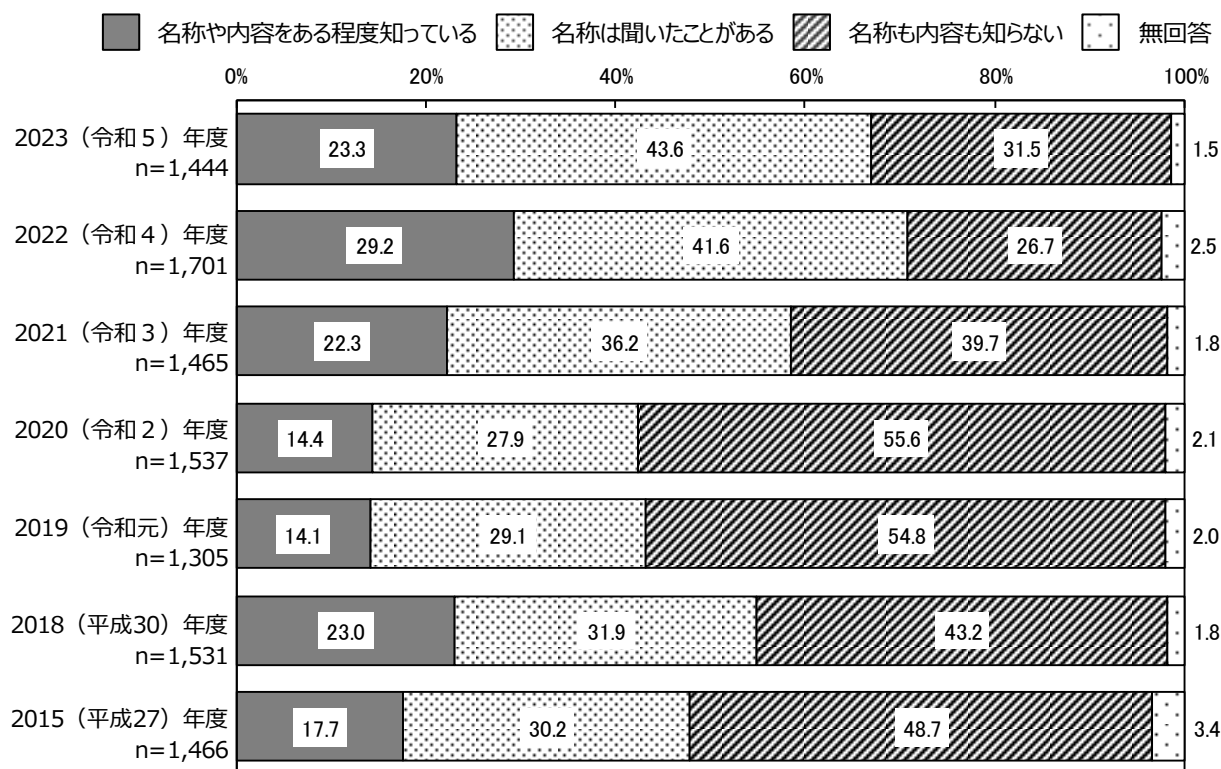
【居住年数別】



## ② 生物多様性

※ 生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。全ての生き物には違い(「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」)があり、互いにつながり合い支え合って生きています。

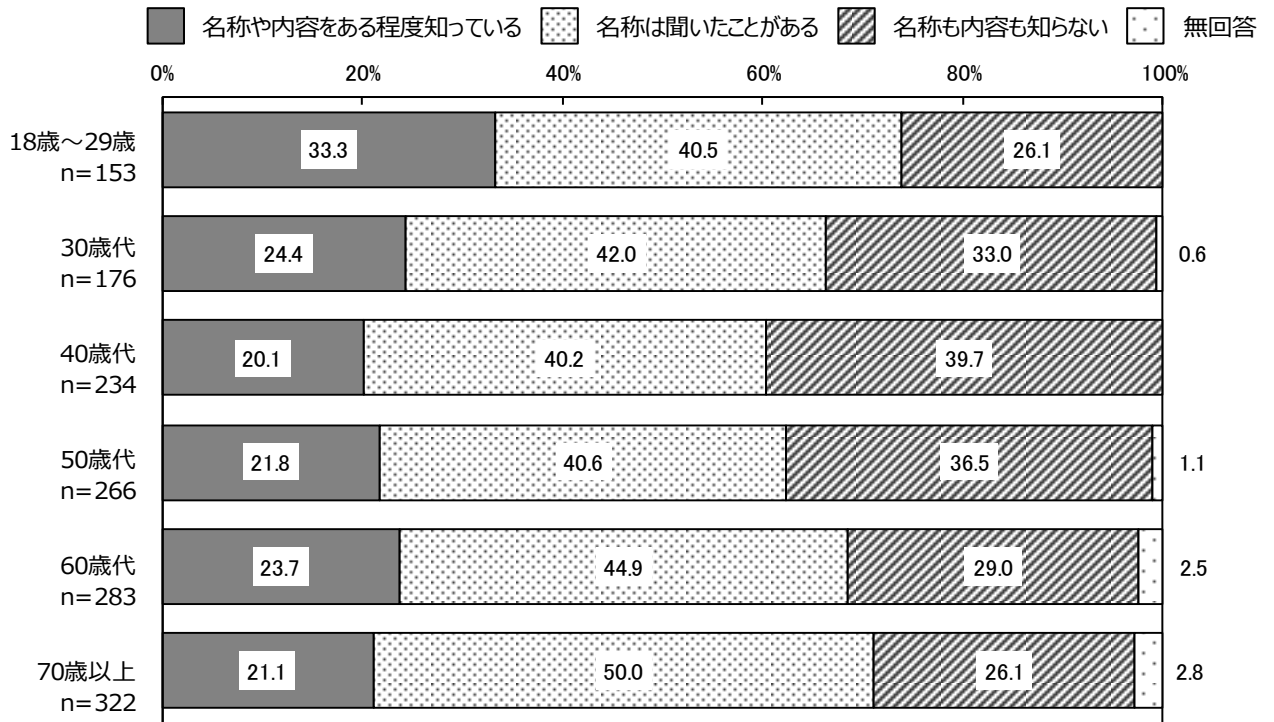
「生物多様性」を『知っている』人は 66.9%



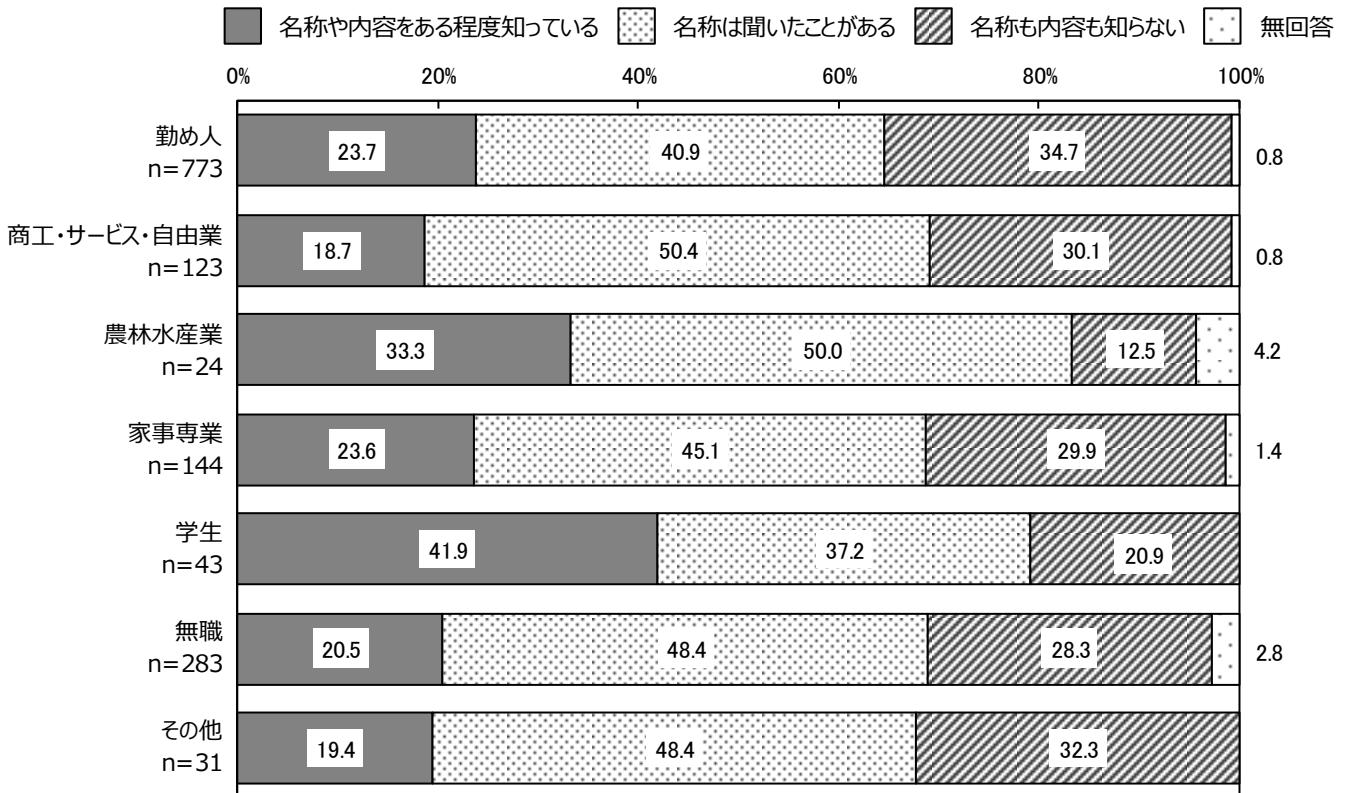
※ 2021 (令和3) 年度以前の調査では、「名称や内容のある程度知っている」は「名称も内容も知っている」、「名称は聞いたことがある」は「名称だけは知っている」となっている。

- 「名称や内容のある程度知っている」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『知っている』は 66.9%となり、「名称も内容も知らない」の 31.5%を 35.4 ポイント上回った。
- 年代別でみると、「名称や内容のある程度知っている」と回答した割合は 18 歳～29 歳の 33.3% が最も高く、次いで 30 歳代が 24.4%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は 40 歳代が 39.7%と最も高かった。
- 職業別でみると、『知っている』は農林水産業が 83.3%、次いで学生が 79.1%となった。最も低い勤め人が 64.6%となり、最も高い農林水産業とは 18.7 ポイントの差がみられた。

【年代別】



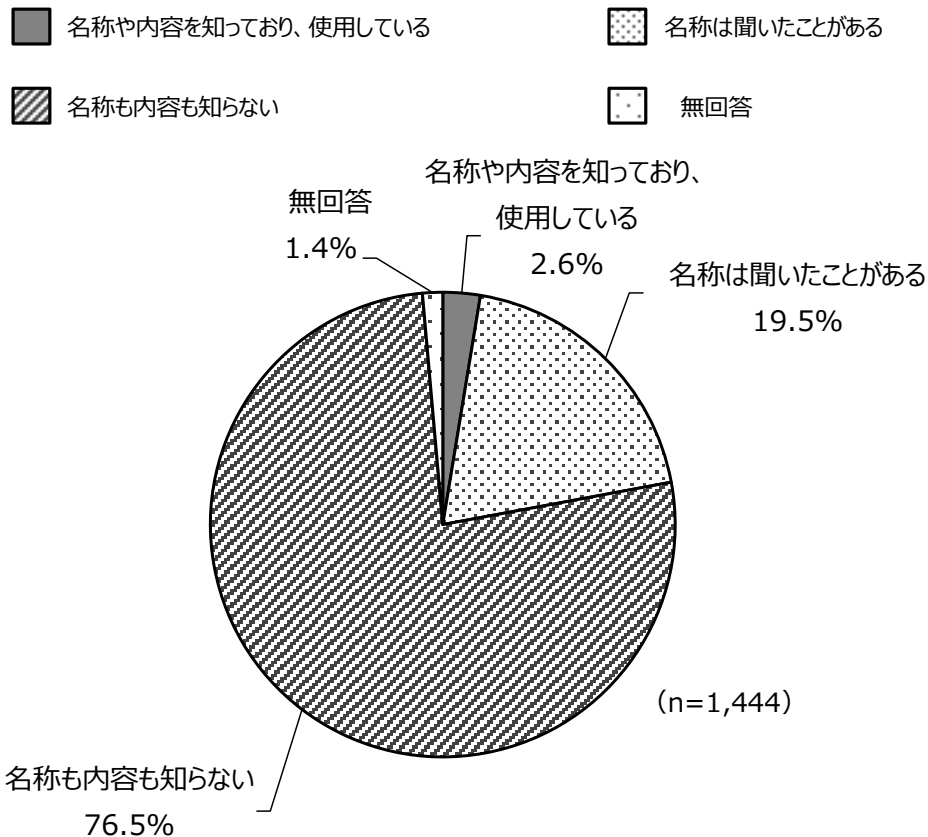
【職業別】



### ③ 浜松市公式ヘルスケアアプリ「はままつ健幸クラブ」

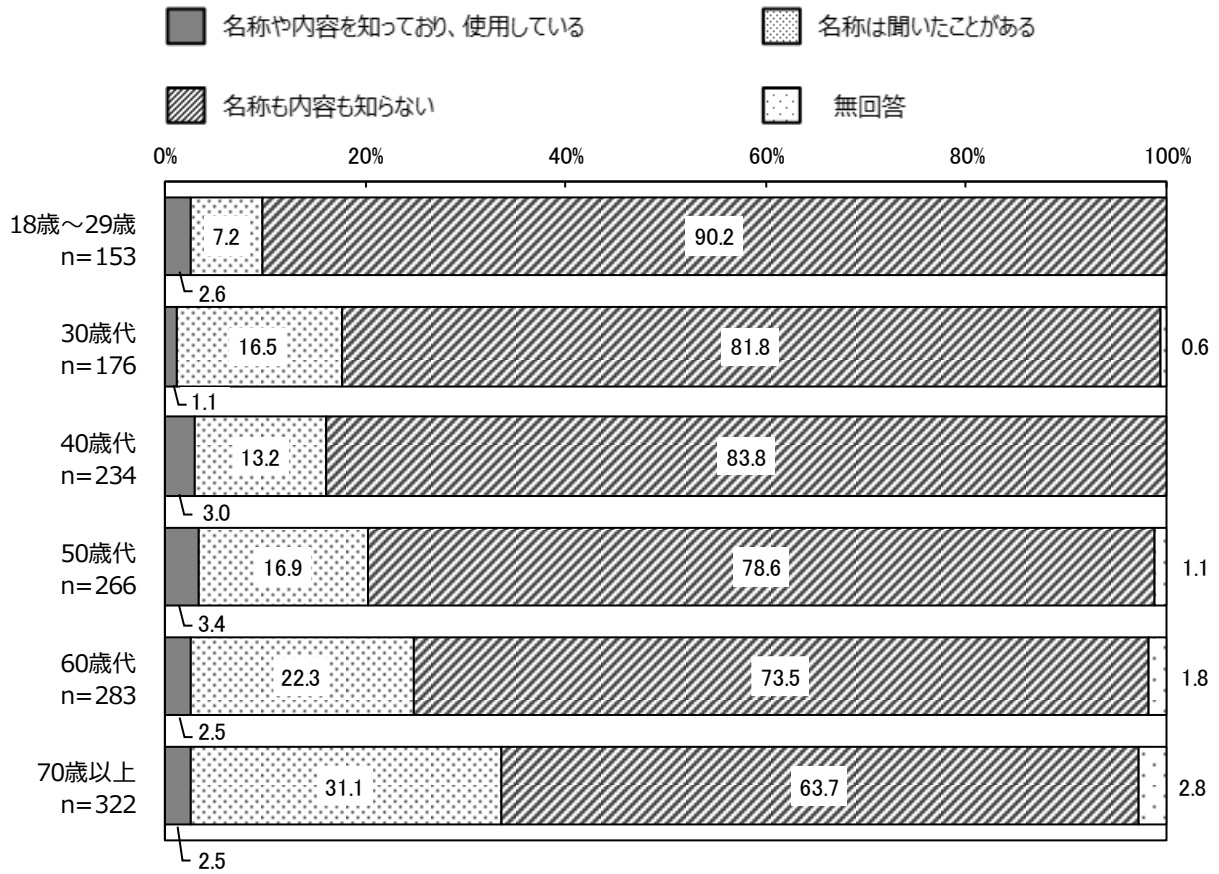
※ 浜松市では「予防・健幸都市」の実現を目指す中、2022（令和4）年10月から「はままつ健幸クラブ」の運用を開始しました。毎日の歩数計測のほか、指定する健康イベントへの参加などでポイントがたまり、抽選で浜松市の特産品などが当たります。

浜松市公式ヘルスケアアプリ「はままつ健幸クラブ」を『知っている』人は22.1%

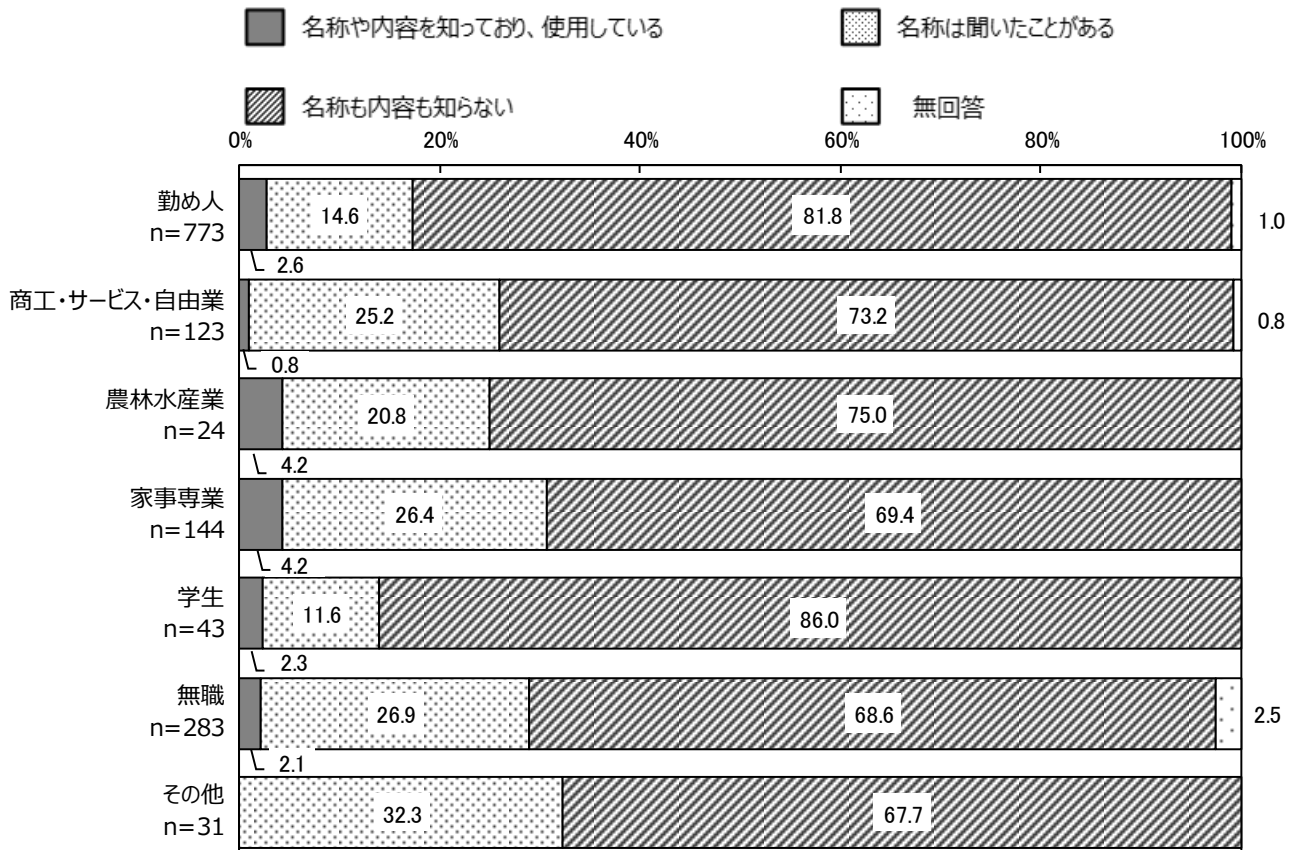


- 「名称や内容を知っており、使用している」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『知っている』は22.1%となり、「名称も内容も知らない」の76.5%を54.4ポイント下回った。
- 年代別で見ると、『知っている』は70歳以上の33.6%が最も高く、次いで60歳代が24.8%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は18歳～29歳が90.2%と、唯一9割を超えた。
- 職業別にみると、『知っている』は、家事専業が30.6%、次いで無職が29.0%となった。最も低い学生が13.9%となり、最も高い家事専業とは16.7ポイントの差がみられた。

【年代別】



【職業別】

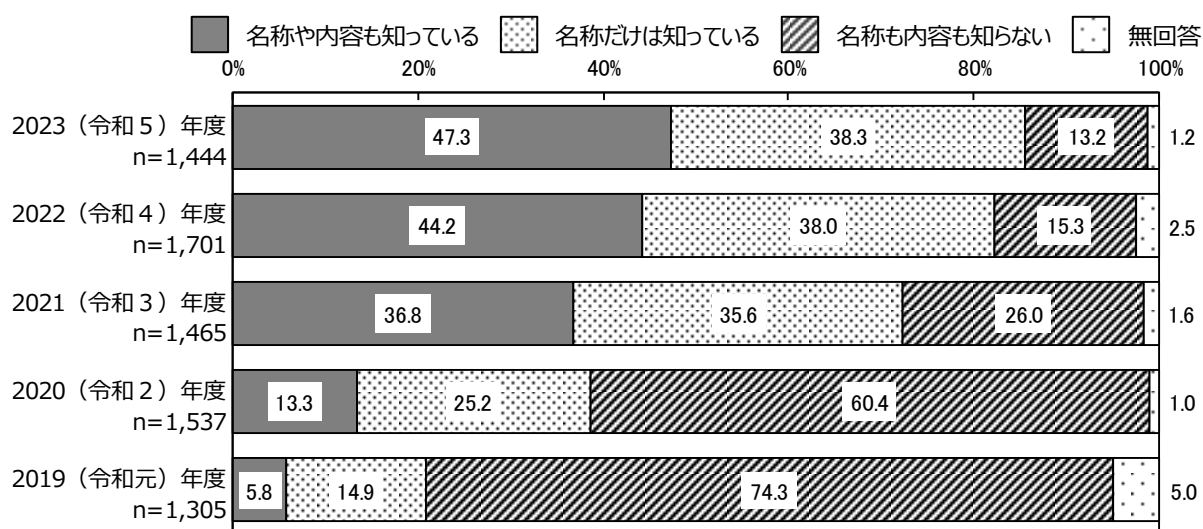


#### ④ SDGs (Sustainable Development Goals)

※ 2015（平成 27）年に開催された国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標」のことで、2030（令和 12）年までに達成すべき 17 の国際社会共通の目標です。

※ 貧困や飢餓、経済成長、気候変動など、21 世紀の世界が抱える問題を、世界中の人々、企業などが連携して解決することを目指しています。

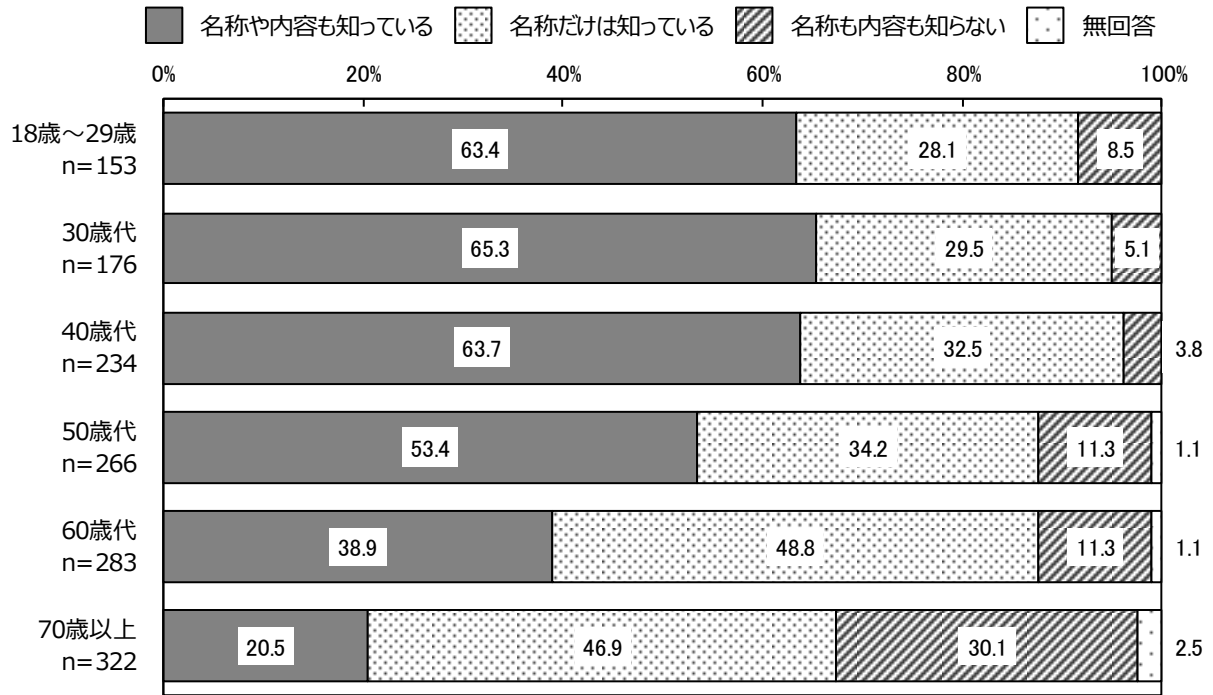
「SDGs」を『知っている』人は 85.6%



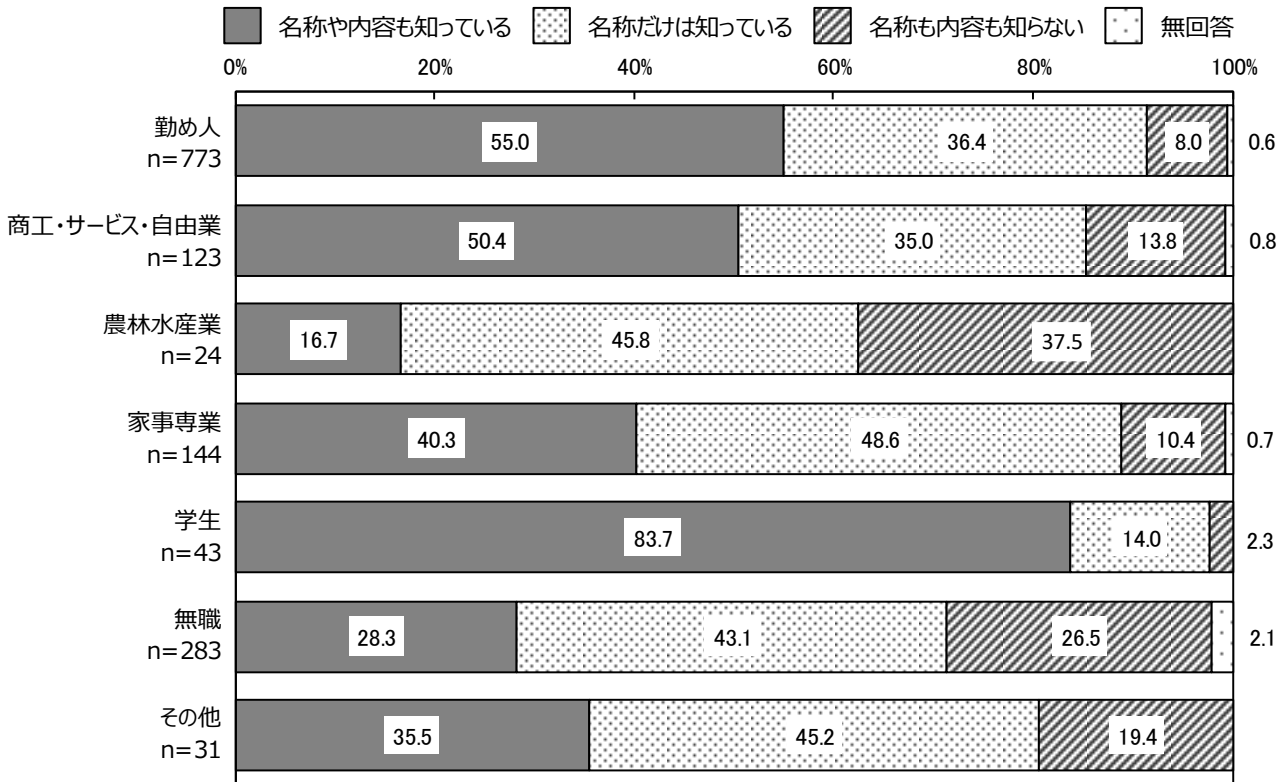
- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は 85.6% となり、「名称も内容も知らない」の 13.2% を 72.4 ポイント上回った。2022（令和 4）年度との比較では、『知っている』は 3.4 ポイント増加となった。
- 年代別で見ると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は 30 歳代の 65.3% が最も高く、次いで 40 歳代が 63.7% となった。最も低い 70 歳以上が 20.5% となり、最も高い 30 歳代とは、44.8 ポイントの差がみられた。
- 職業別で見ると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は学生の 83.7% が最も高く、次いで勤め人が 55.0% となった。「商工・サービス・自由業」は 50.4% であり、2022（令和 4）年度と比較して 13.6 ポイント増加している。
- SDGs を『知っている』は近年高まっている。2022（令和 4）年度と比較して 40 歳代では 8.2 ポイント増、30 歳代では 4.8 ポイント増、18 歳～29 歳では 3.0 ポイントの増加となっており、学校教育や社会における SDGs の浸透がみられる。



【年代別】



【職業別】



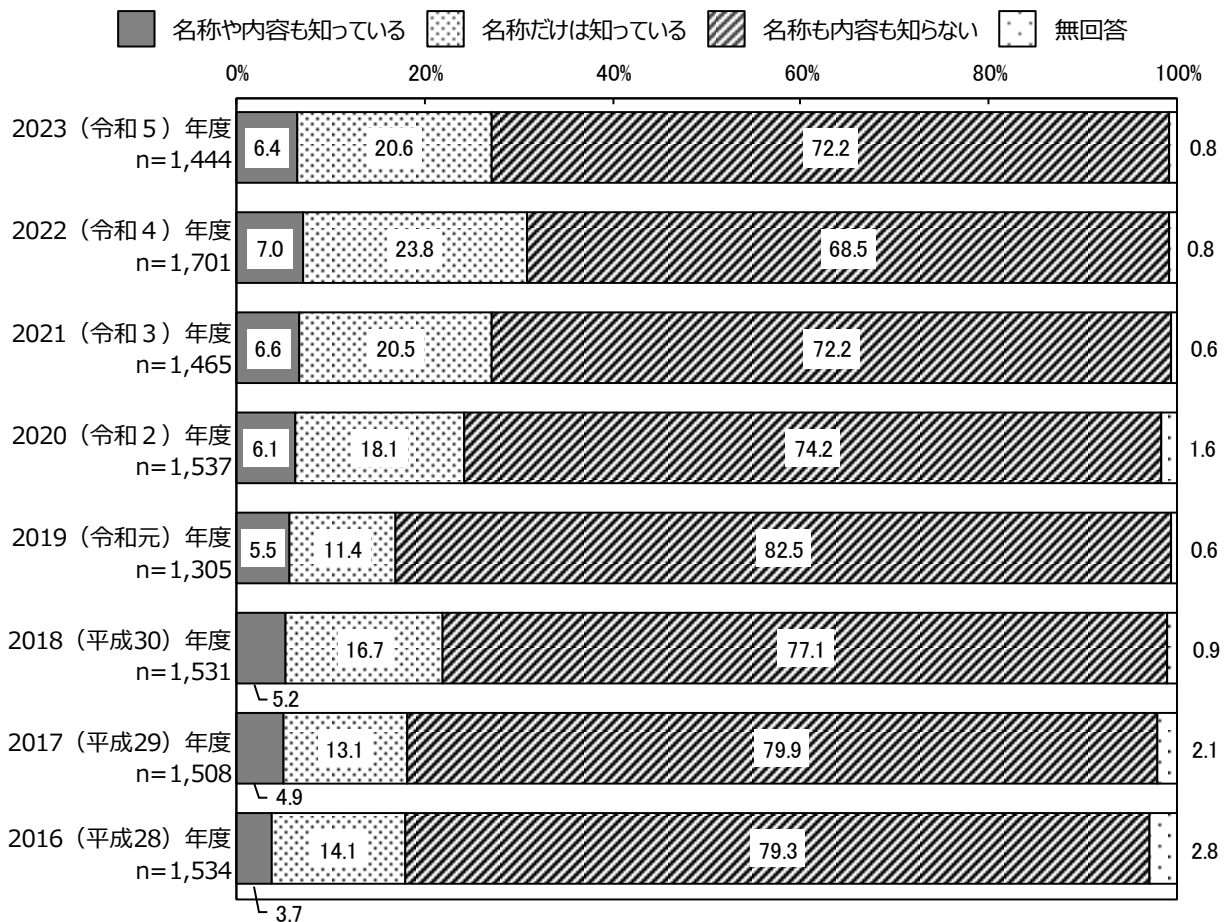
### 3 SDGsの達成に向けて

#### 3-1 FSC森林認証について

問3 あなたは「FSC森林認証※」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

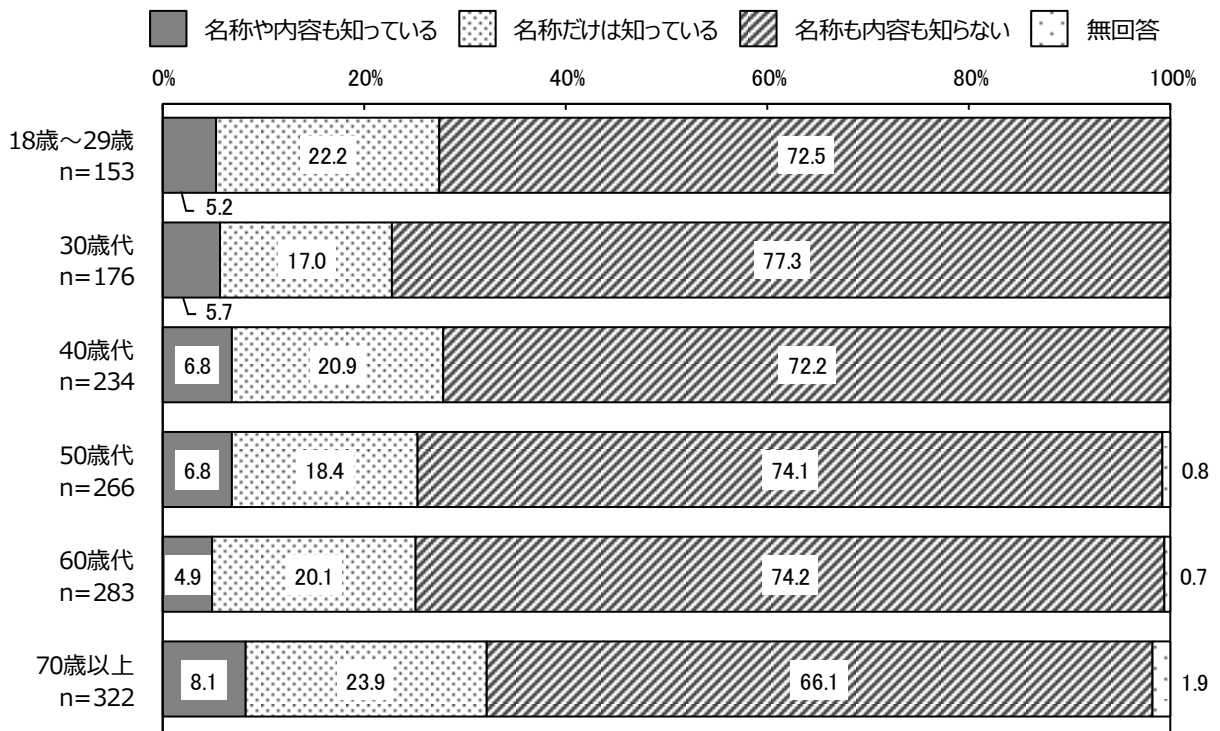
※ 「FSC森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

「FSC森林認証」を『知っている』人は27.0%

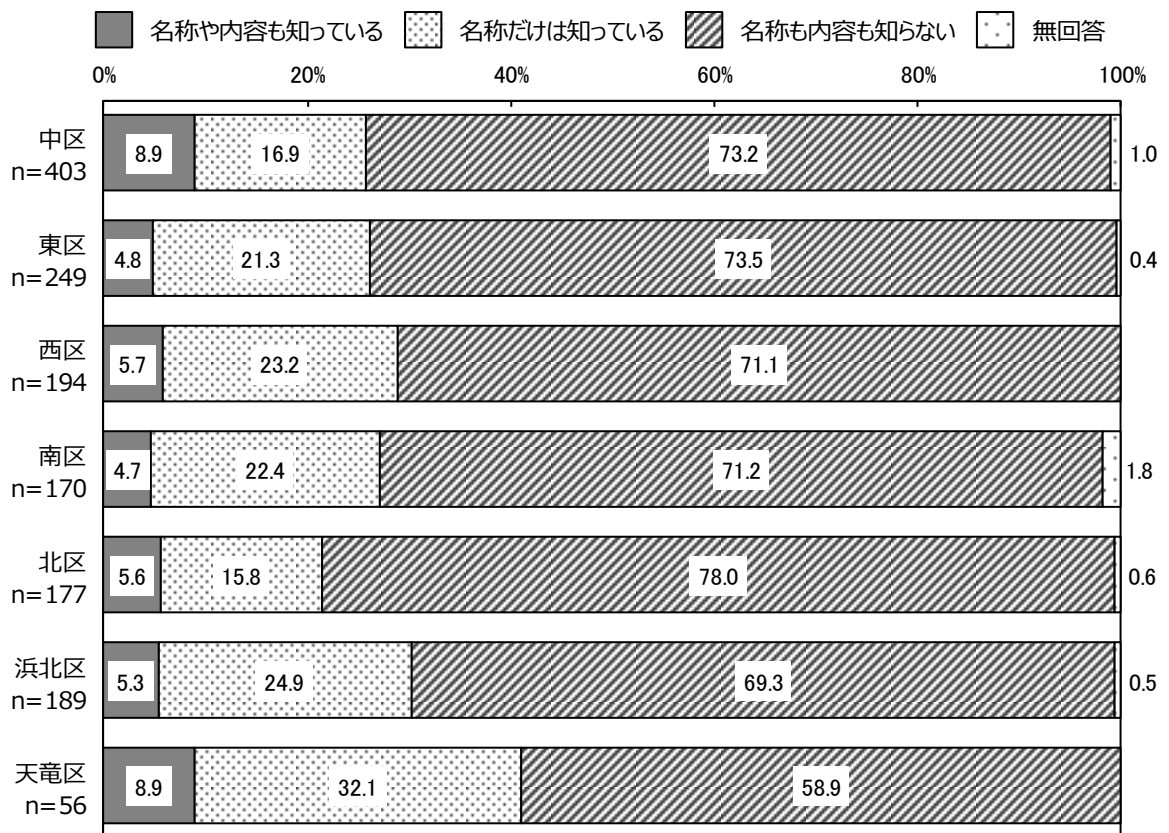


- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は27.0%となり、「名称も内容も知らない」の72.2%を45.2ポイント下回った。2022（令和4）年度との比較では、『知っている』は3.8ポイント減少となった。
- 年代別で見ると、『知っている』の割合は、70歳以上が32.0%と最も高く、次いで40歳代が27.7%となった。最も低い30歳代が22.7%となり、最も高い70歳以上とは、9.3ポイントの差がみられた。
- 行政区別で見ると、天竜区の『知っている』が41.0%と最も高い。天竜区は森林や木材が身近でFSC森林認証に関連が強い地域であるためと考えられる。次いで浜北区が30.2%、西区が28.9%と続いた。近年FSCマークはさまざまな商品に印字され、目にする機会が増えている。今後も引き続き、認証マークの正しい知識や情報共有を促進し、認知度の向上に努める必要がある。

【年代別】



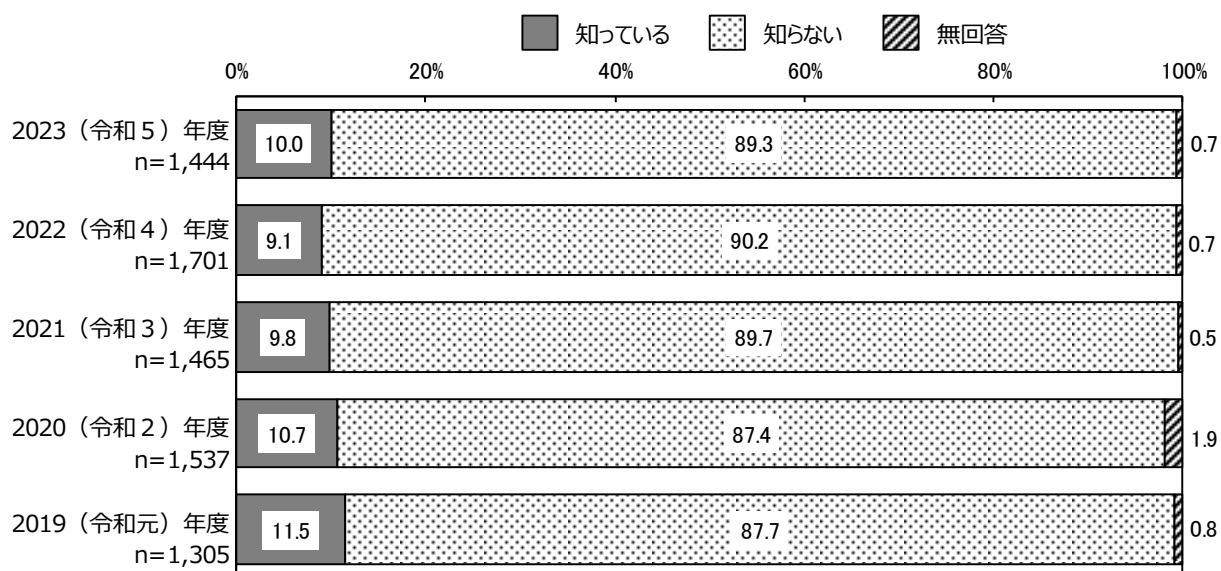
【行政区別】



問4 あなたは「F S C森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積  
 (約 49,538ha※) を有していることをご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

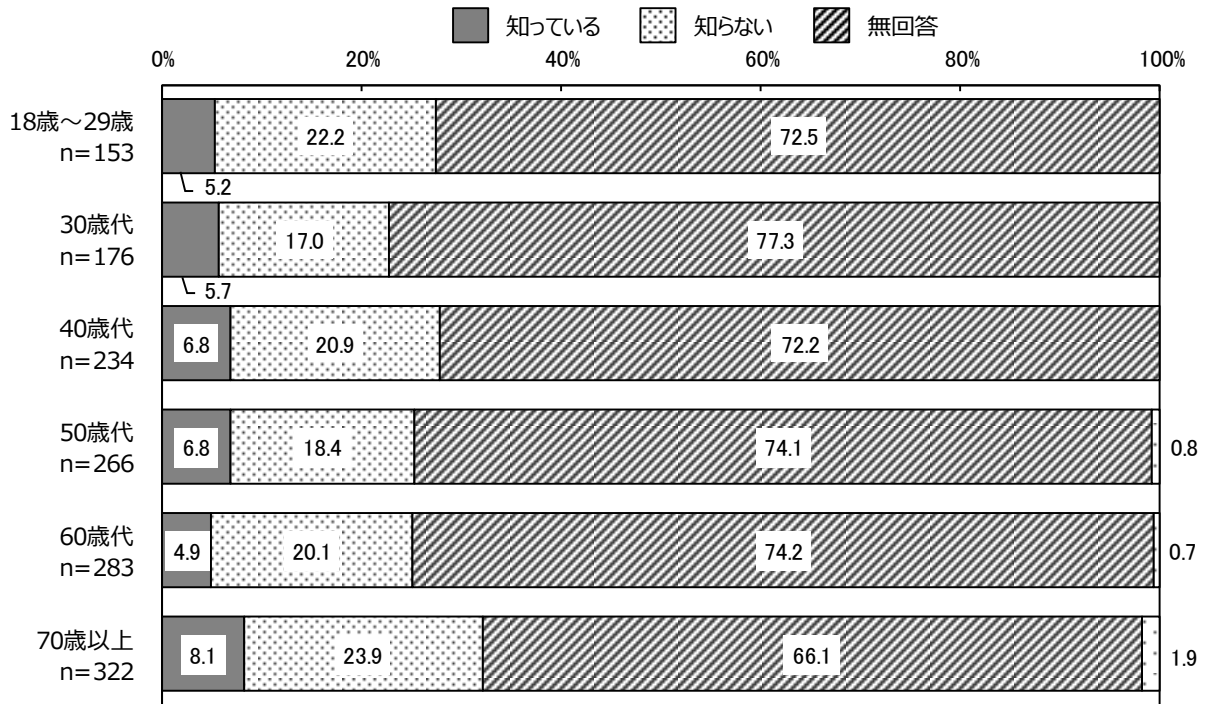
※ 2023(令和5)年4月1日現在

浜松市が市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることを「知っている」人は  
 10.0%

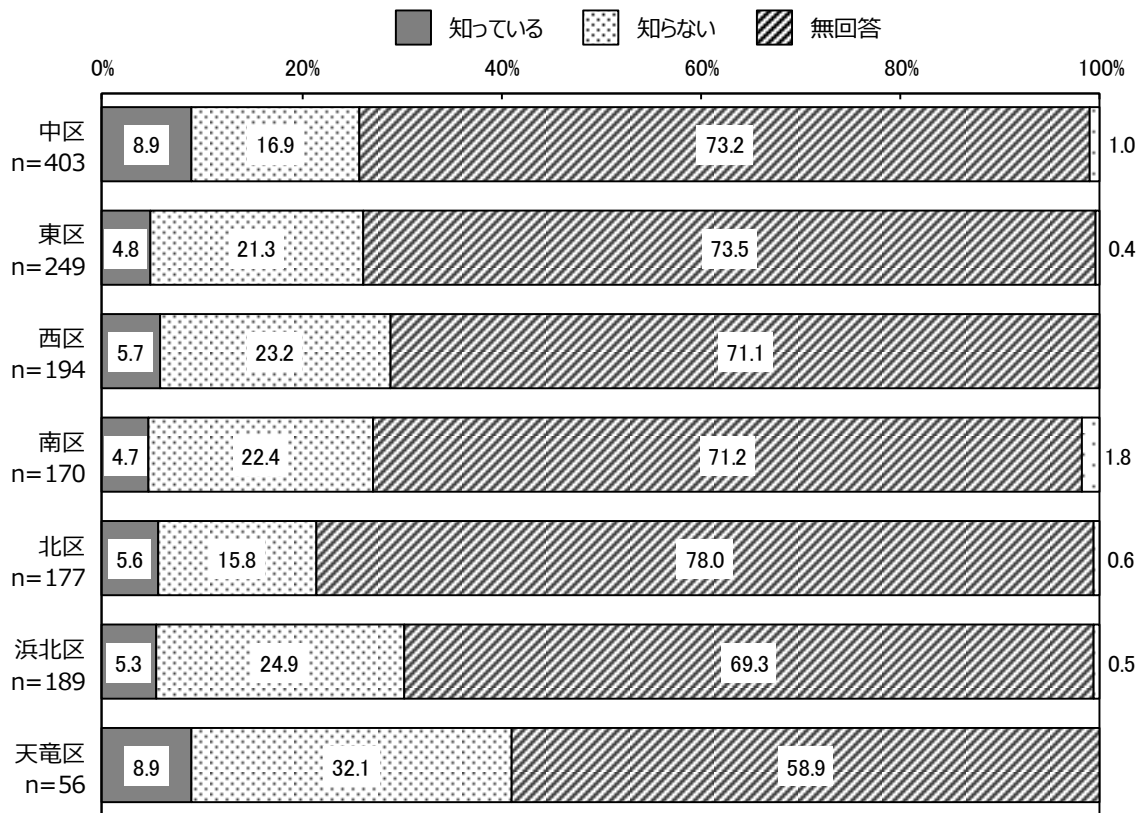


- 「知っている」が10.0%となり、「知らない」の89.3%を79.3ポイント下回った。2022(令和4)年度との比較では、「知っている」が0.9ポイント増加となった。
- 年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は70歳以上の18.0%が最も高く、次いで60歳代が9.9%となった。
- 行政区別で見ると、「知っている」と回答した割合は天竜区の26.8%が最も高く、他の行政区ではおおむね1割未満となった。
- F S C森林認証の認知度と、市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることの認知度の関連性は高く、F S C森林認証の認知度を高めていくことが必要である。

【年代別】



【行政区別】

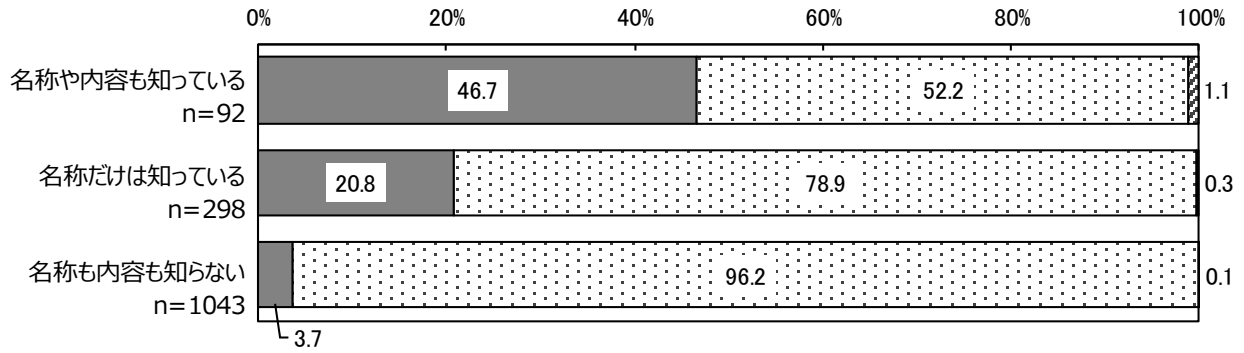


【問3と問4の設問間クロス集計】

【問4 浜松市が市町村別で最も広い FSC 森林認証面積を有していることの認知度】

■ 知っている    ▨ 知らない    ▩ 無回答

【問3 FSC の認知度】



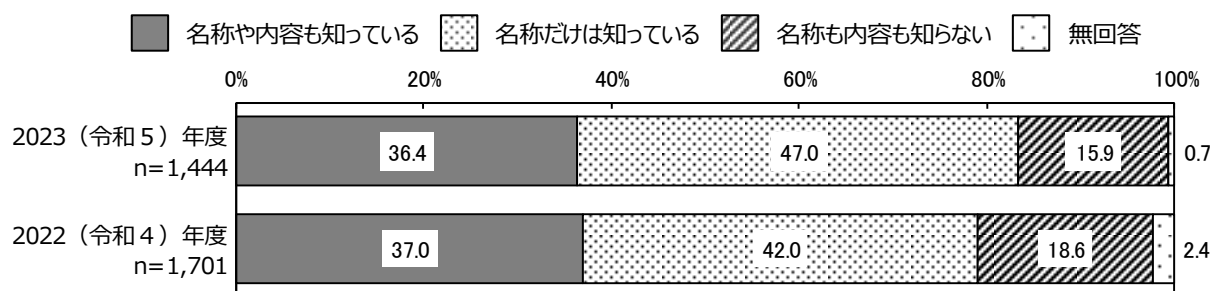
## 3-2 カーボンニュートラルについて

問5 あなたは「カーボンニュートラル※」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

※ 温室効果ガスの排出量と森林などが吸収する温室効果ガスの吸収量を相殺し、地域全体で実質ゼロにする取り組みです。

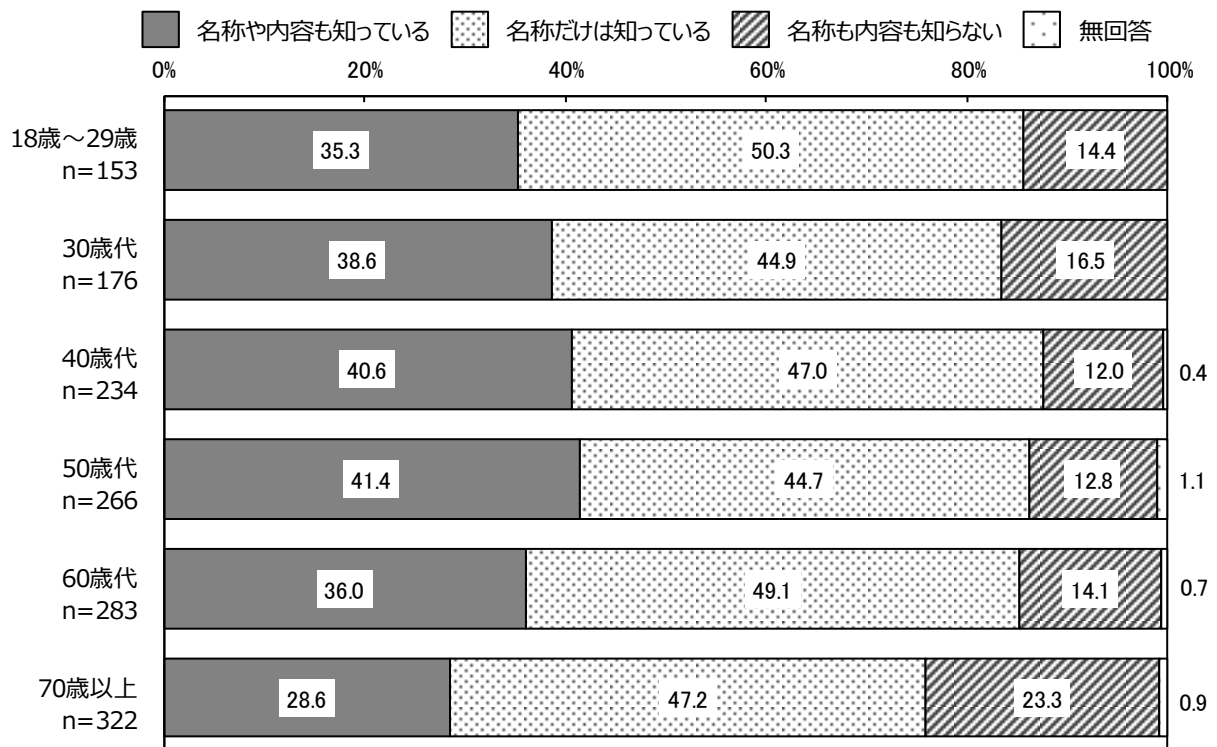
※ 浜松市でも、国が目指す 2050 年脱炭素社会の実現のため脱炭素政策を推進し、持続可能な社会の構築を進めていきます。

「カーボンニュートラル」を『知っている』人は 83.4%

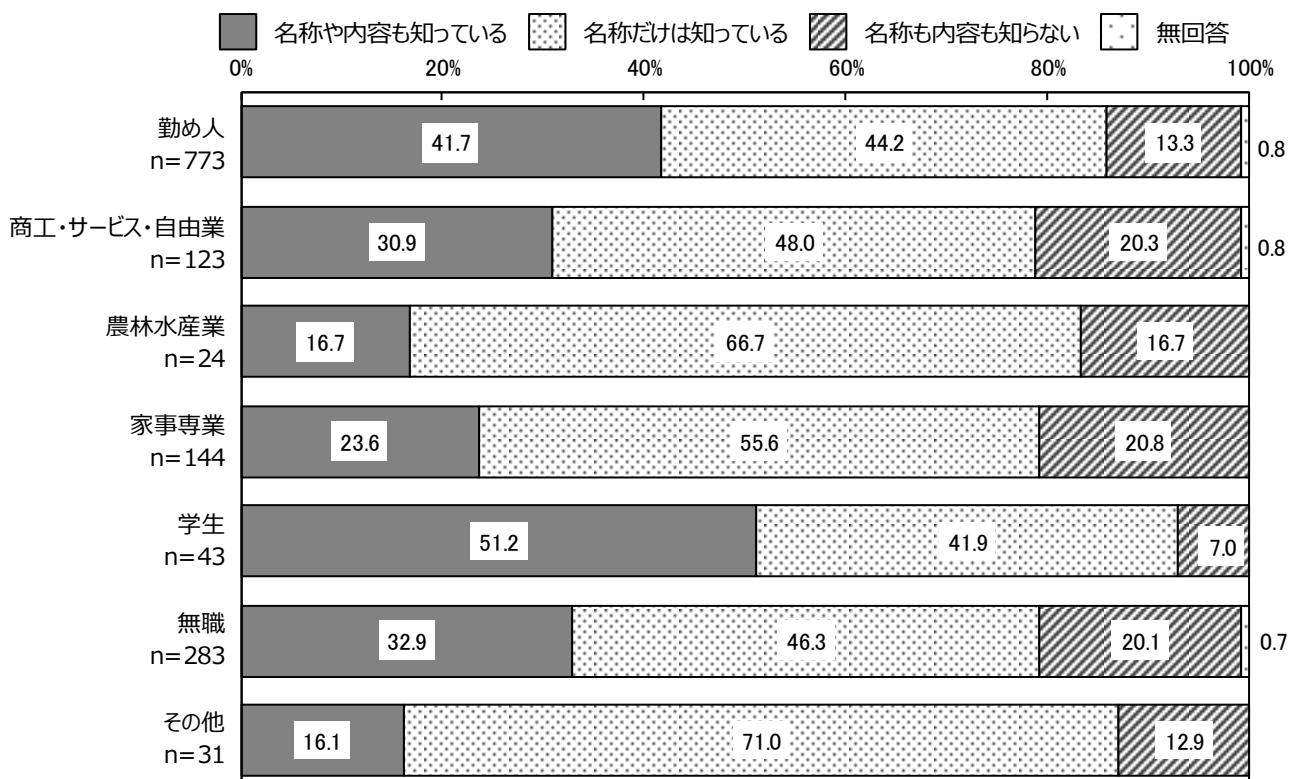


- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は 83.4% となり、「名称も内容も知らない」の 15.9% を 67.5 ポイント上回った。
- 年代別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は 50 歳代の 41.4% が最も高く、次いで 40 歳代が 40.6% となった。70 歳以上では 2 割以上が「名称も内容も知らない」と回答しており、他の世代と比較して認知度がやや低い。
- 職業別でみると、『知っている』は学生の 93.1% が最も高く、次いでそのほかが 87.1% となった。最も低い商工・サービス・自由業が 78.9% となり、最も高い学生とは、14.2 ポイントの差がみられた。

【年代別】



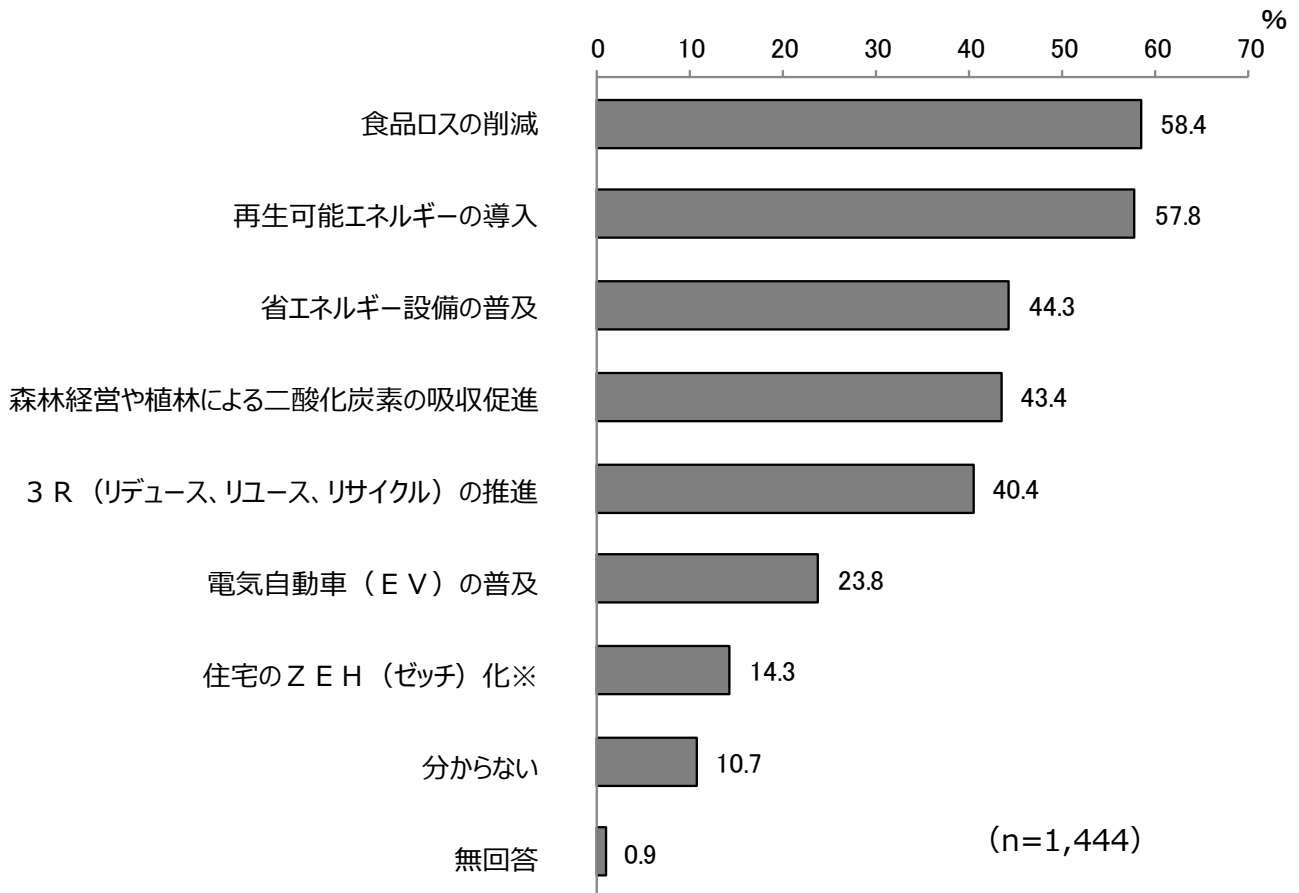
【職業別】





問6 あなたは、浜松市が行っているカーボンニュートラルの取り組みのうち、力を入れるべきものはどれだと考えますか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

力を入れるべき取り組みは「食品ロスの削減」が58.4%



※ZEHとはネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略語で「エネルギー収支を実質ゼロ以下にする家」のことです。

- 「食品ロスの削減」が58.4%と最も高く、次いで「再生可能エネルギーの導入」が57.8%、「省エネルギー設備の普及」が44.3%となった。
- 年代別で見ると、30歳代、40歳代ならびに70歳以上では「食品ロスの削減」が最も高い。18歳～29歳と50歳代、60歳代では「再生可能エネルギーの導入」が最も高い。「住宅のZEH (ゼッチ) 化」は、40歳代のみ唯一2割を超えた。
- 職業別で見ると、家事専業と無職、その他で「食品ロスの削減」が最も高い。農林水産業と学生では「電気自動車 (E V) の普及」が4割程度と、他の職業と比較して高い。

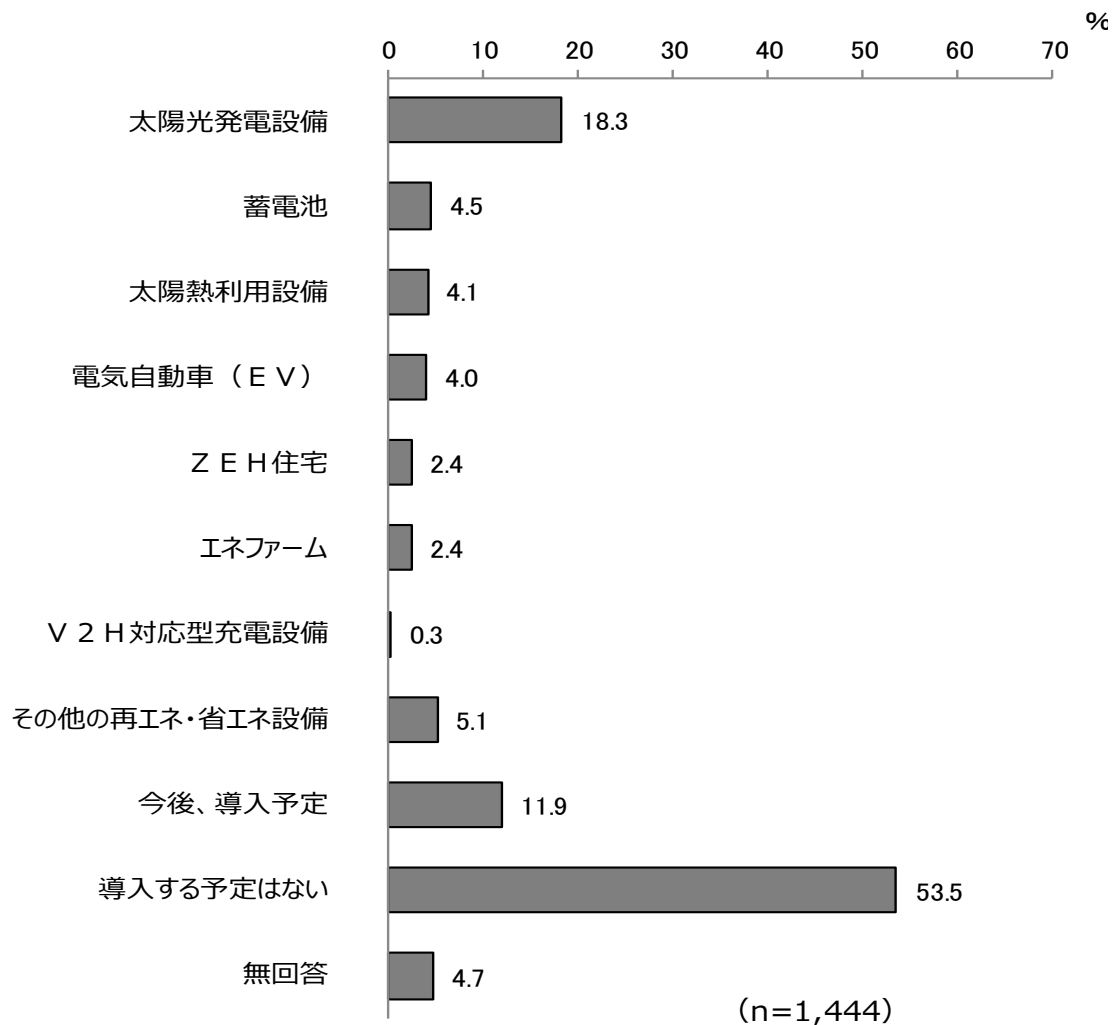
【年代別・職業別】

(単位：%)

		食品ロスの削減	再生可能エネルギーの導入	省エネルギー設備の普及	森林経営や植林による二酸化炭素の吸収促進	3R（リデュース、リサイクル、リユース）の推進	電気自動車（EV）の普及	住宅のZEH（ゼッチ）化	分からない	無回答
年代	18歳～29歳 n=153	53.6	56.9	43.8	37.9	38.6	28.8	11.8	11.1	0.0
	30歳代 n=176	53.4	51.1	42.6	38.6	34.1	22.2	19.3	10.8	0.6
	40歳代 n=234	60.7	53.0	46.2	42.3	45.7	23.9	21.8	6.8	0.0
	50歳代 n=266	56.8	60.5	44.4	45.5	43.2	21.4	14.7	10.2	0.8
	60歳代 n=283	61.8	63.3	43.8	45.6	44.5	22.3	13.1	9.5	1.4
	70歳以上 n=322	59.9	59.3	44.4	45.7	36.0	25.8	8.7	14.9	1.6
職業	勤め人 n=773	56.7	58.5	46.2	43.7	41.3	24.3	16.9	9.6	0.6
	商工・サービス・自由業 n=123	57.7	60.2	37.4	40.7	41.5	22.8	17.1	13.8	1.6
	農林水産業 n=24	45.8	50.0	37.5	45.8	25.0	41.7	25.0	4.2	8.3
	家事専業 n=144	68.8	57.6	43.1	47.9	49.3	18.1	11.8	7.6	0.0
	学生 n=43	53.5	67.4	41.9	41.9	37.2	39.5	16.3	4.7	0.0
	無職 n=283	58.3	54.8	44.5	39.9	35.7	22.6	7.4	15.5	0.7
	その他 n=31	64.5	54.8	35.5	51.6	41.9	22.6	9.7	9.7	3.2

問7 あなたのご家庭では、省エネルギー性能の高い住宅や「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用など）、電気自動車（EV）を導入していますか。  
（あてはまるものすべてに○を付けてください）

導入済みの中では「太陽光発電設備」が18.3%



- 導入済みの中では「太陽光発電設備」が18.3%と最も高く、次いで「その他の再エネ・省エネ設備」が5.1%、「蓄電池」が4.5%となった。全体では「導入する予定はない」が53.5%と最も高く、「今後、導入予定」は11.9%となった。
- 年代別で見ると、導入済みの中ではすべての年代で「太陽光発電設備」が最も高い。導入済み以外も含めるとすべての年代で「導入する予定はない」が最も高い。
- 職業別で見ると、導入済みの中ではすべての職業で「太陽光発電設備」が最も高い。無職では「導入する予定はない」が63.3%と、他の職業と比較して高い。

【年代別・職業別】

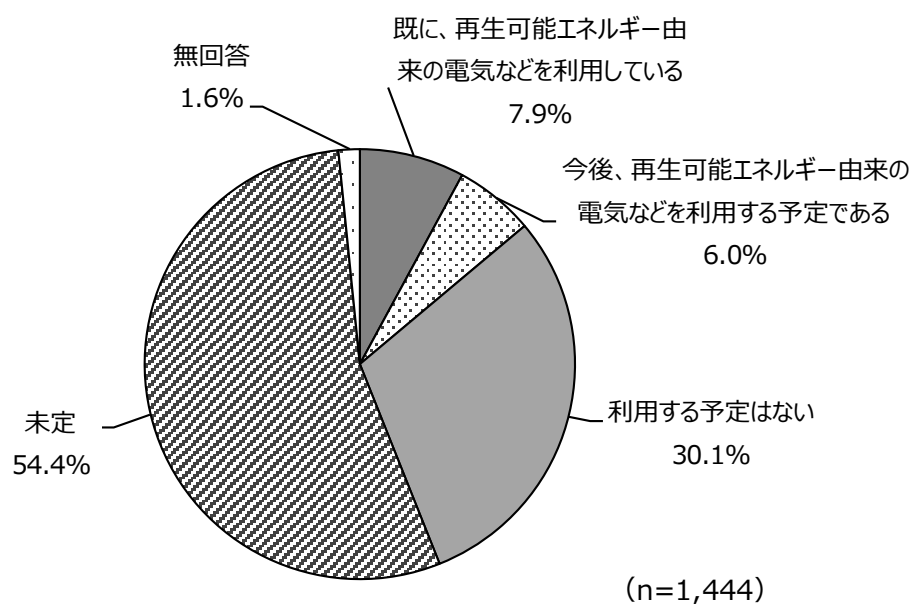
(単位：%)

		太陽光発電設備	蓄電池	太陽熱利用設備	電気自動車（EV）	ZEH住宅	エネファーム	V2H対応型充電設備	省エネ設備	その他の再エネ・	今後、導入予定	導入する予定はない	無回答
年代	18歳～29歳 n=153	22.2	2.6	4.6	2.6	2.6	1.3	0.7	5.2	13.1	54.9	0.7	
	30歳代 n=176	26.1	10.8	4.0	4.0	10.8	0.0	0.0	3.4	11.4	51.1	1.7	
	40歳代 n=234	26.9	3.4	3.0	4.3	3.0	3.4	0.4	5.6	12.4	45.3	2.1	
	50歳代 n=266	15.4	3.8	2.3	3.8	0.0	3.0	0.0	5.3	13.5	57.1	2.3	
	60歳代 n=283	13.8	3.9	4.9	6.0	0.7	2.8	0.7	5.7	11.7	53.0	9.2	
	70歳以上 n=322	12.1	4.0	5.3	3.1	0.9	2.5	0.3	5.0	10.2	58.4	7.8	
職業	勤め人 n=773	21.0	4.4	3.4	4.5	3.5	2.8	0.3	5.4	12.5	51.0	2.6	
	商工・サービス・自由業 n=123	21.1	5.7	4.9	2.4	2.4	1.6	0.0	6.5	10.6	52.0	5.7	
	農林水産業 n=24	29.2	4.2	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	
	家事専業 n=144	14.6	4.2	5.6	3.5	1.4	2.1	0.7	5.6	12.5	55.6	7.6	
	学生 n=43	20.9	2.3	7.0	4.7	2.3	0.0	0.0	4.7	14.0	55.8	0.0	
	無職 n=283	9.2	3.9	3.9	2.8	0.7	2.5	0.4	4.2	9.5	63.3	9.2	
	その他 n=31	12.9	6.5	3.2	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.1	54.8	6.5	

問8 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー由来の電気※」などを利用する予定はありますか。(1つだけ○を付けてください)

※電力会社が提供しているいわゆる「CO<sub>2</sub>フリープラン」など、再生可能エネルギー由来の電気などを利用することで家庭の脱炭素化(CO<sub>2</sub>排出量削減)ができます。

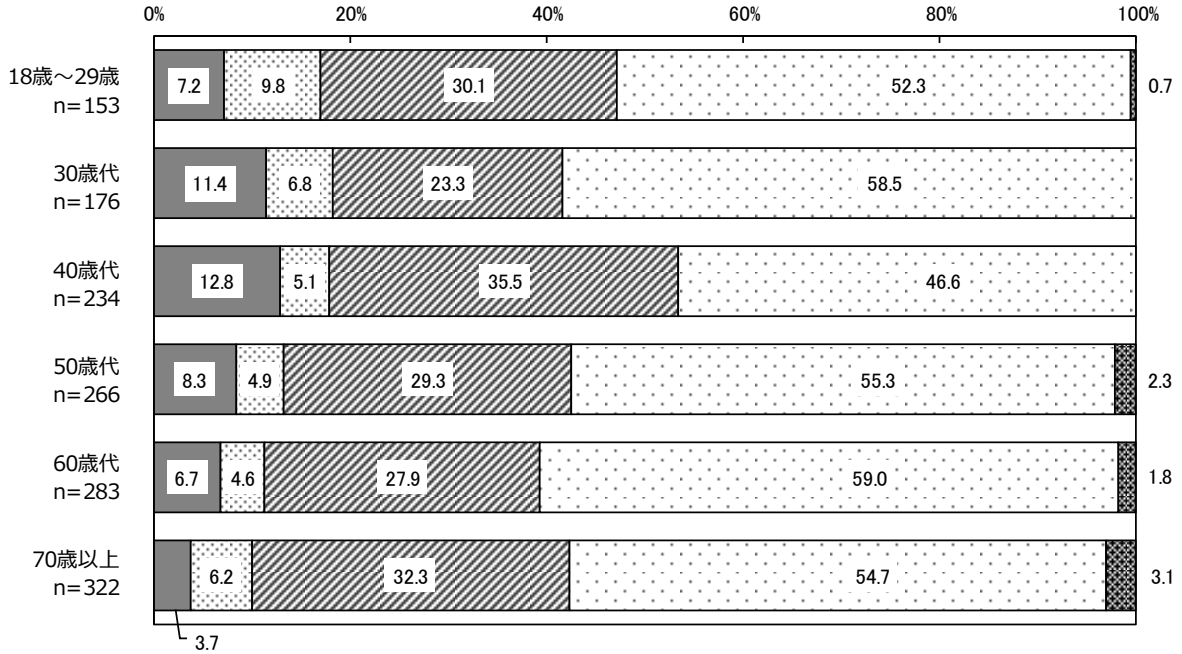
再生可能エネルギー由来の電気の導入は「未定」が54.4%



- 「未定」が54.4%と最も高く、次いで「利用する予定はない」が30.1%、「既に、再生可能エネルギー由来の電気などを利用している」が7.9%となった。
- 年代別で見ると、40歳代で「既に、再生可能エネルギー由来の電気などを利用している」が12.8%と他の年代と比べて最も高い。「今後、再生可能エネルギー由来の電気などを利用する予定である」は18歳～29歳が9.8%と他の年代と比べて最も高い。
- 職業別で見ると、「既に、再生可能エネルギー由来の電気などを利用している」は商工・サービス・自由業で10.6%と他の職業と比べて最も高い。「今後、再生可能エネルギー由来の電気などを利用する予定である」は学生が14.0%と他の職業と比べて最も高い。

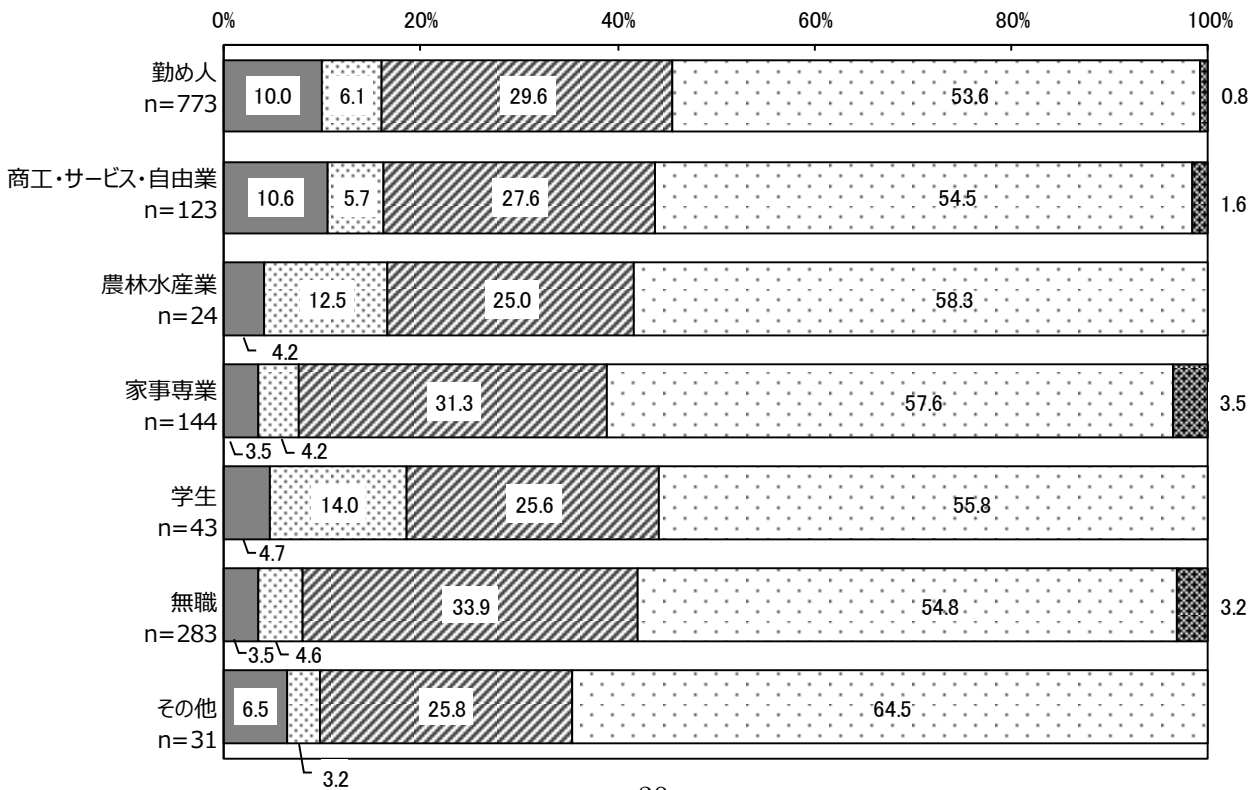
### 【年代別】

- 既に、再生可能エネルギー由来の電気などを利用している
- ▨ 今後、再生可能エネルギー由来の電気などを利用する予定である
- ▩ 利用する予定はない
- 未定
- 無回答



### 【職業別】

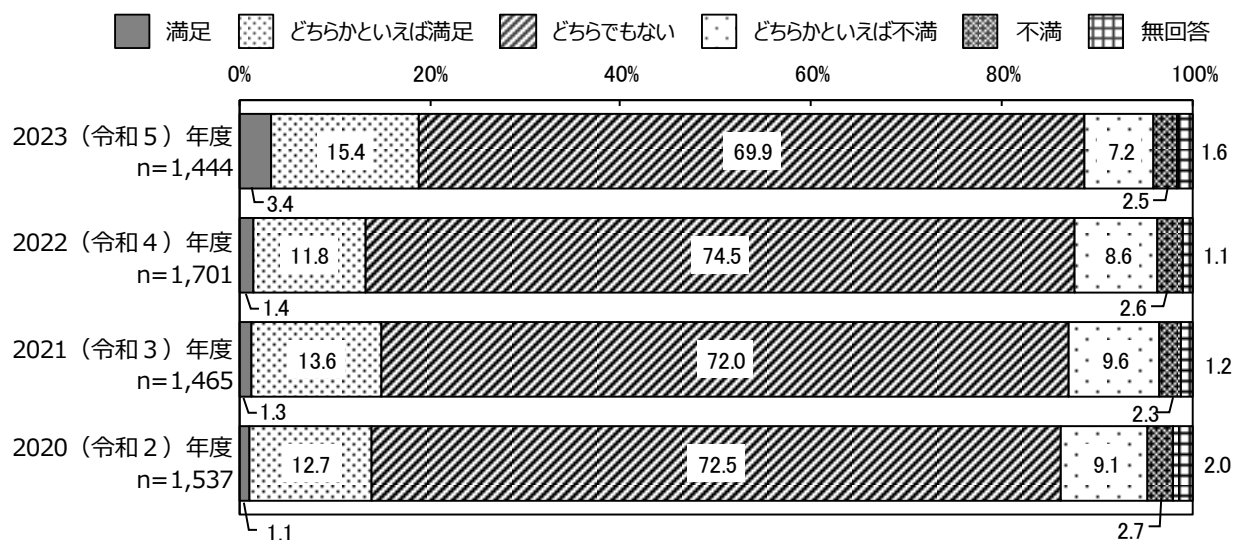
- 既に、再生可能エネルギー由来の電気などを利用している
- ▨ 今後、再生可能エネルギー由来の電気などを利用する予定である
- ▩ 利用する予定はない
- 未定
- 無回答



### 3-3 多文化共生について

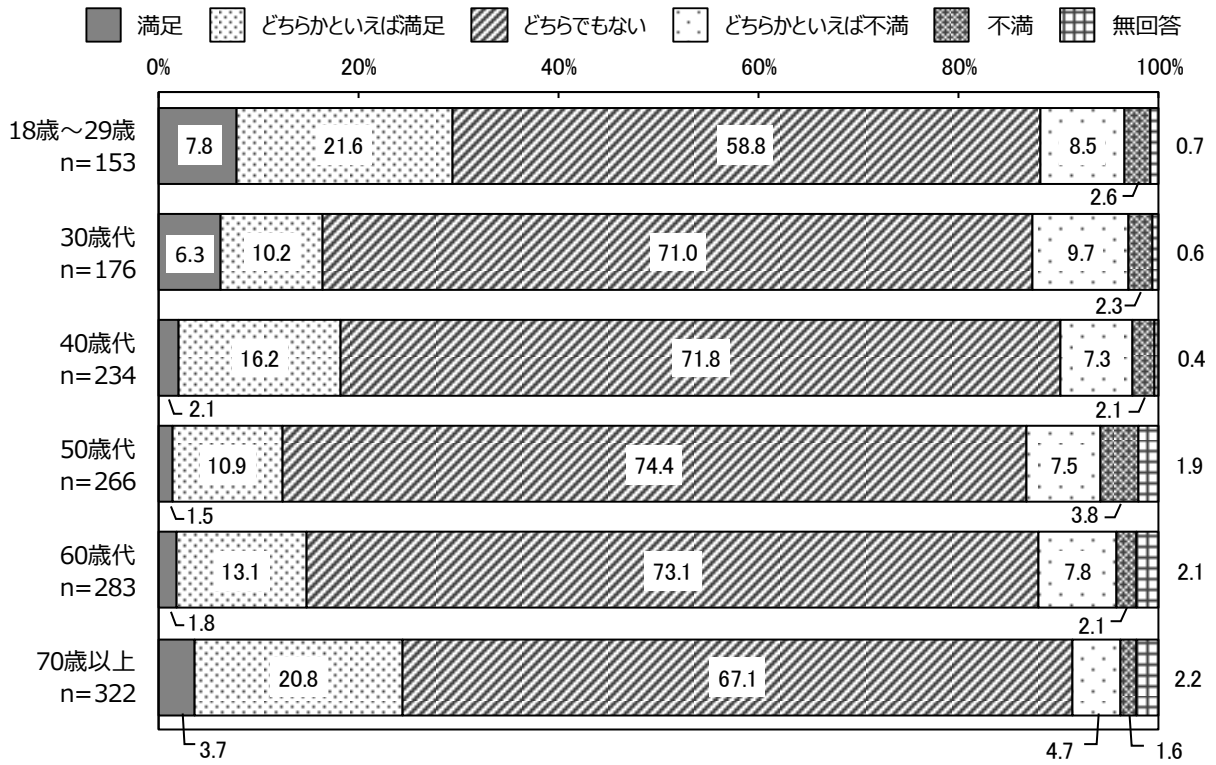
問9 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みについてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

外国人市民との共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みに『満足している』人は18.8%

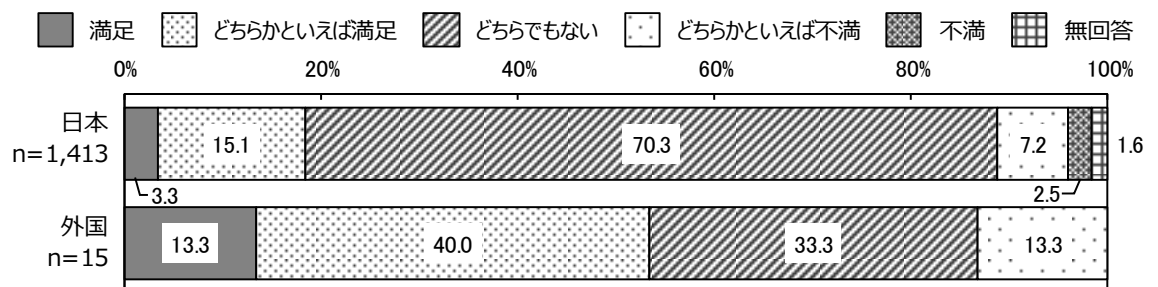
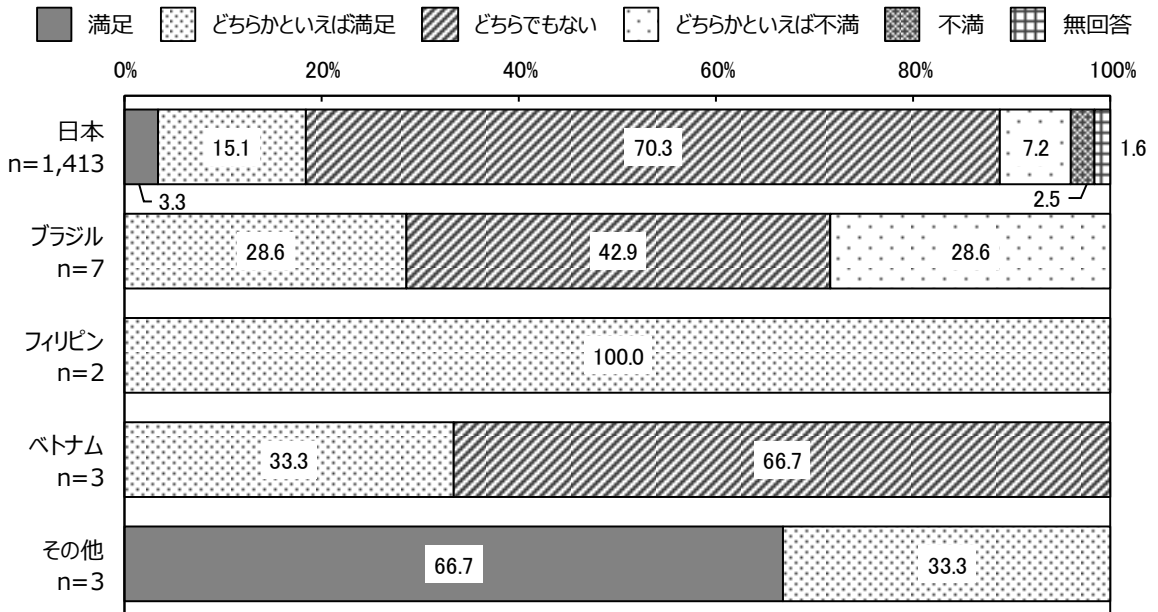


- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は18.8%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は9.7%となり、『満足している』が『不満である』を9.1ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は69.9%を占めた。2022(令和4)年度との比較では、『満足している』が5.6ポイント増加した。
- 年代別で見ると、『満足している』の割合は18歳~29歳が29.4%と最も高く、次いで70歳以上の24.5%となった。一方で、『不満である』の割合は30歳代が12.0%と最も高く、次いで50歳代の11.3%となった。
- 国籍別で見ると、日本人以外の回答が少ないので留意が必要だが、『満足している』と回答した割合は、日本人が18.4%、外国人が53.3%となり、外国人からみた満足度は日本人と比べて高いことがうかがえる。

【年代別】



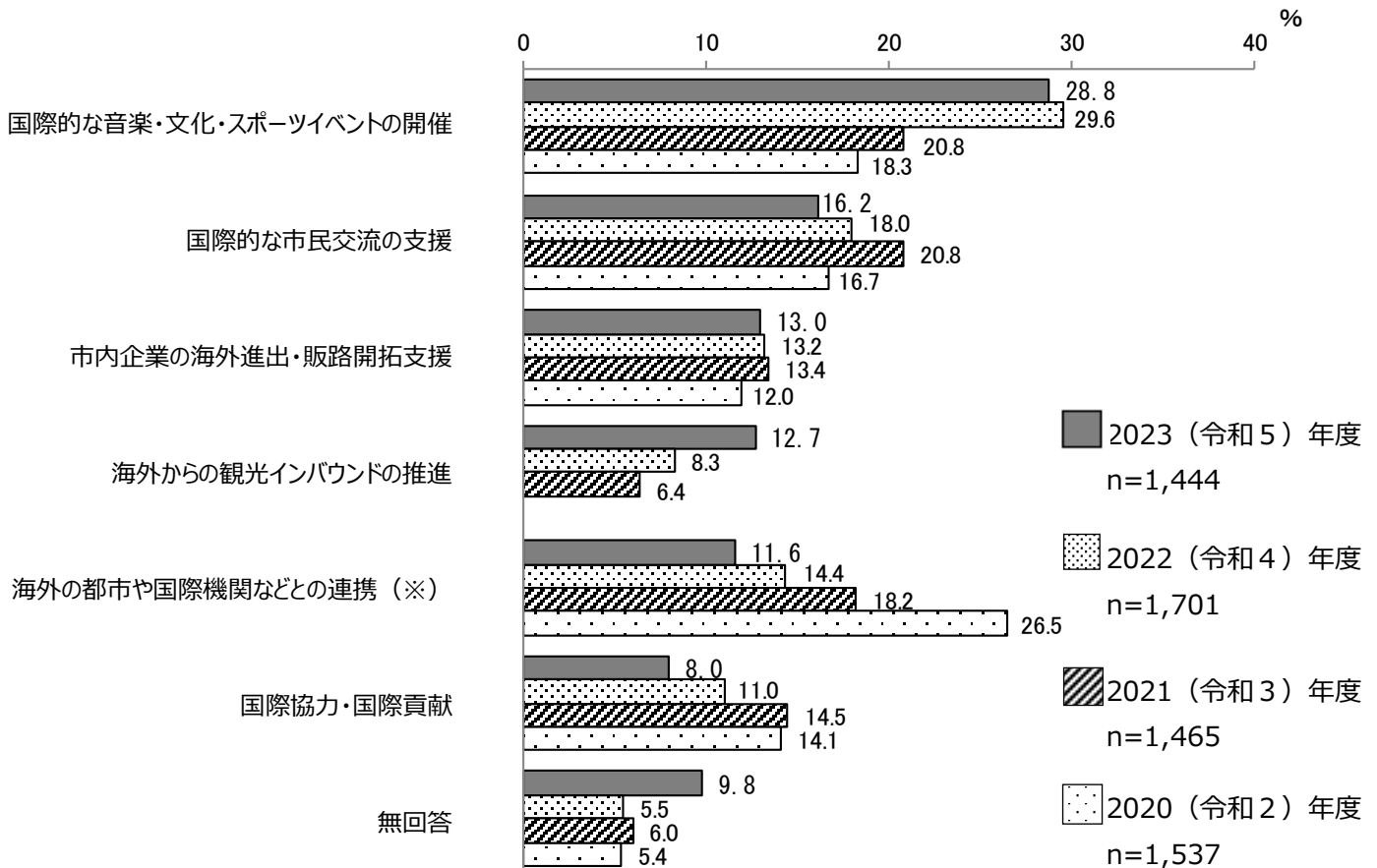
【国籍別】





問10 あなたは、浜松市が行っている国際化の取り組みのうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。(1つだけ○を付けてください)

最も力を入れるべき取り組みは「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」が28.8%



※ 2020（令和2）年度調査では「国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携」、2021（令和3）年度調査では「海外諸都市や国際機関等との連携」となっている。

- 「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」が28.8%と最も高く、次いで「国際的な市民交流の支援」が16.2%、「市内企業の海外進出・販路開拓支援」が13.0%となった。
- 年代別で見ると、すべての年代で「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」が最も高い。「国際的な市民交流の支援」は70歳以上で最も高く、「市内企業の海外進出・販路開拓支援」は30歳代で最も高い。
- 職業別で見ると、その他以外のすべての職業で「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」が最も高い。「海外からの観光インバウンドの推進」は農林水産業が20.8%と他の職業と比べて高くなっている。

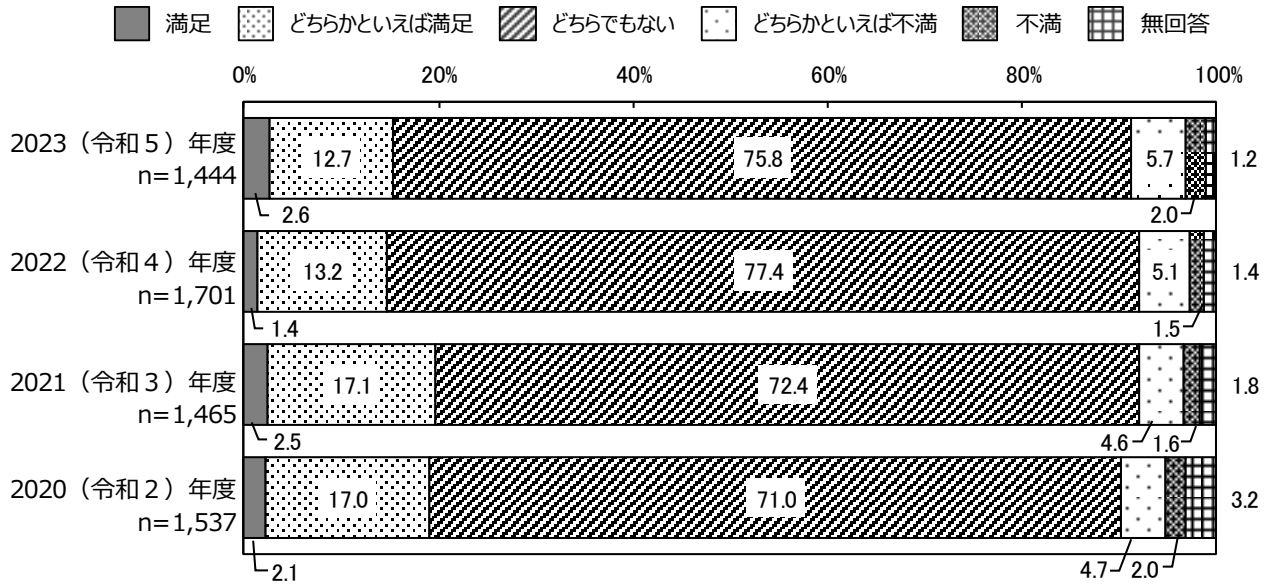
【年代別・職業別】

(単位：%)

		国際的な音楽・文化の開催	国際的な市民交流の支援	市内企業の海外進出・販路開拓支援	海外からの観光インバウンドの推進	海外の都市や国際機関などとの連携	国際協力・国際貢献	無回答
年代	18歳～29歳 n=153	32.7	11.1	15.0	13.1	10.5	9.8	7.8
	30歳代 n=176	27.3	17.0	19.9	13.6	12.5	4.5	5.1
	40歳代 n=234	27.8	17.1	12.8	15.0	15.0	5.6	6.8
	50歳代 n=266	27.1	16.2	15.8	13.9	9.0	6.0	12.0
	60歳代 n=283	30.0	12.7	11.7	13.1	13.1	9.5	9.9
	70歳以上 n=322	28.6	20.8	7.5	9.3	9.9	11.5	12.4
職業	勤め人 n=773	29.8	14.1	14.4	14.5	12.7	6.5	8.2
	商工・サービス・自由業 n=123	28.5	18.7	15.4	11.4	9.8	4.9	11.4
	農林水産業 n=24	20.8	12.5	16.7	20.8	8.3	8.3	12.5
	家事専業 n=144	24.3	22.9	10.4	6.9	14.6	9.7	11.1
	学生 n=43	27.9	11.6	16.3	11.6	11.6	14.0	7.0
	無職 n=283	30.4	18.0	7.4	12.4	9.5	10.6	11.7
	その他 n=31	12.9	22.6	29.0	3.2	6.5	16.1	9.7

問11 姉妹都市や友好都市などの世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みに『満足している』人は15.3%



- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は15.3%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は7.7%となり、『満足している』が『不満である』を7.6ポイント上回った。一方で、「どちらでもない」は75.8%を占めた。2022(令和4)年度との比較では、『満足している』は0.7ポイント増加となった。
- 年代別で見ると、『満足している』と回答した割合は18歳～29歳の24.8%が最も高く、次いで70歳以上の23.0%となった。すべての年代で『満足している』が『不満である』を上回った。
- 職業別で見ると、『満足している』と回答した割合は学生の32.6%が最も高く、次いで農林水産業の25.0%となった。勤め人が11.9%と最も低くなり、最も高い学生とは、20.7ポイントの差がみられた。

【年代別・職業別】

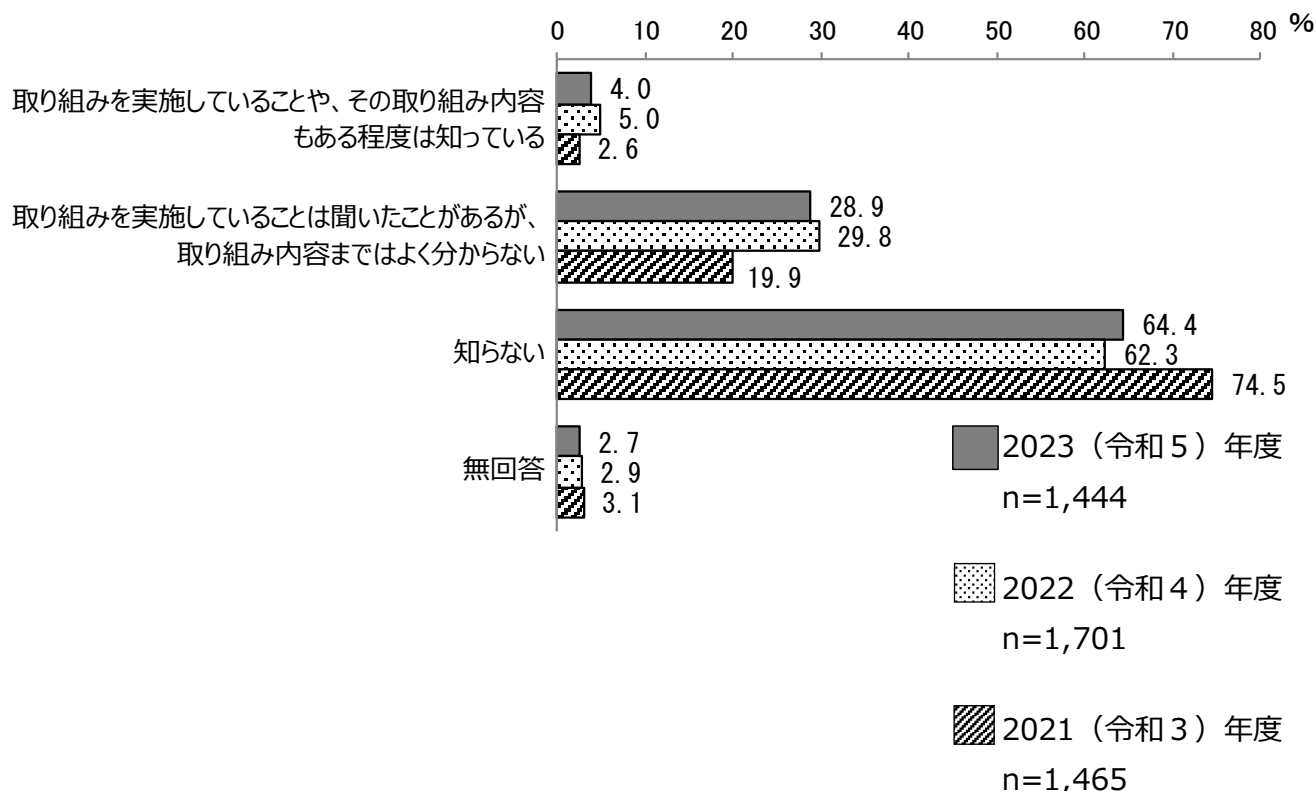
(単位：%)

		満足	どちらかといえ ば満足	どちら でもない	どちらかといえ ば不満	不満	無 回 答
年代	18歳～29歳 n=153	5.2	19.6	68.0	5.9	0.7	0.7
	30歳代 n=176	5.1	8.5	80.7	4.5	1.1	0.0
	40歳代 n=234	2.1	10.3	78.2	6.4	3.0	0.0
	50歳代 n=266	1.9	7.9	81.2	4.5	3.0	1.5
	60歳代 n=283	1.1	9.2	78.4	8.1	2.1	1.1
	70歳以上 n=322	2.5	20.5	68.3	4.7	1.6	2.5
職業	勤め人 n=773	2.3	9.6	79.0	6.2	2.3	0.5
	商工・サービス・自由業 n=123	4.9	10.6	74.8	4.9	2.4	2.4
	農林水産業 n=24	0.0	25.0	66.7	0.0	4.2	4.2
	家事専業 n=144	1.4	19.4	72.2	4.9	0.7	1.4
	学生 n=43	9.3	23.3	58.1	9.3	0.0	0.0
	無職 n=283	2.5	15.9	73.1	4.2	2.1	2.1
	その他 n=31	3.2	16.1	74.2	6.5	0.0	0.0

### 3-4 デジタルを活用したまちづくりについて

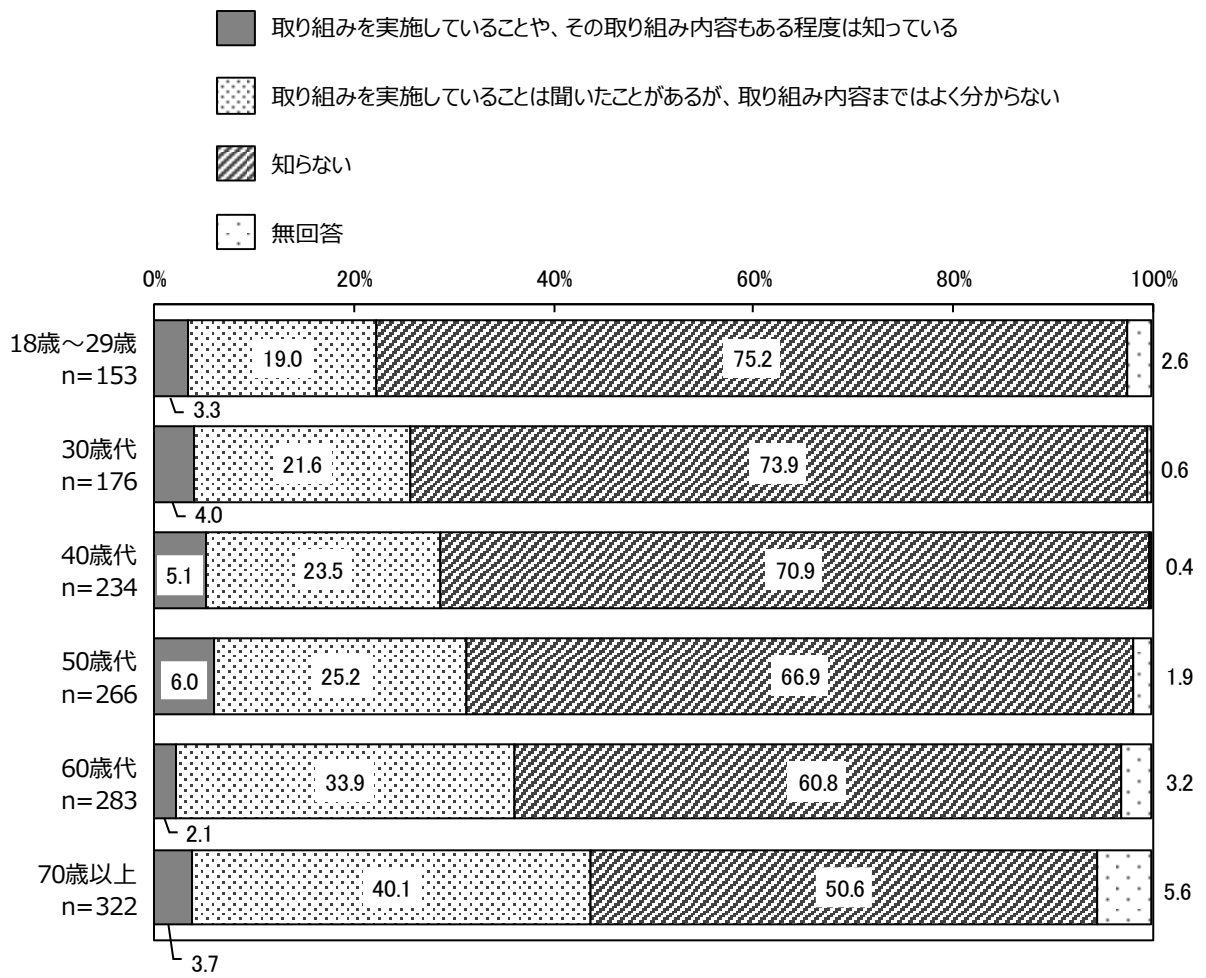
問12 あなたは、2022（令和4）年7月に「デジタルを活用したまちづくり推進条例」を策定するなど、浜松市が「デジタルを活用したまちづくり」に取り組んでいることをご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

デジタル・スマートシティ政策を推進していることを『知っている』人は32.9%







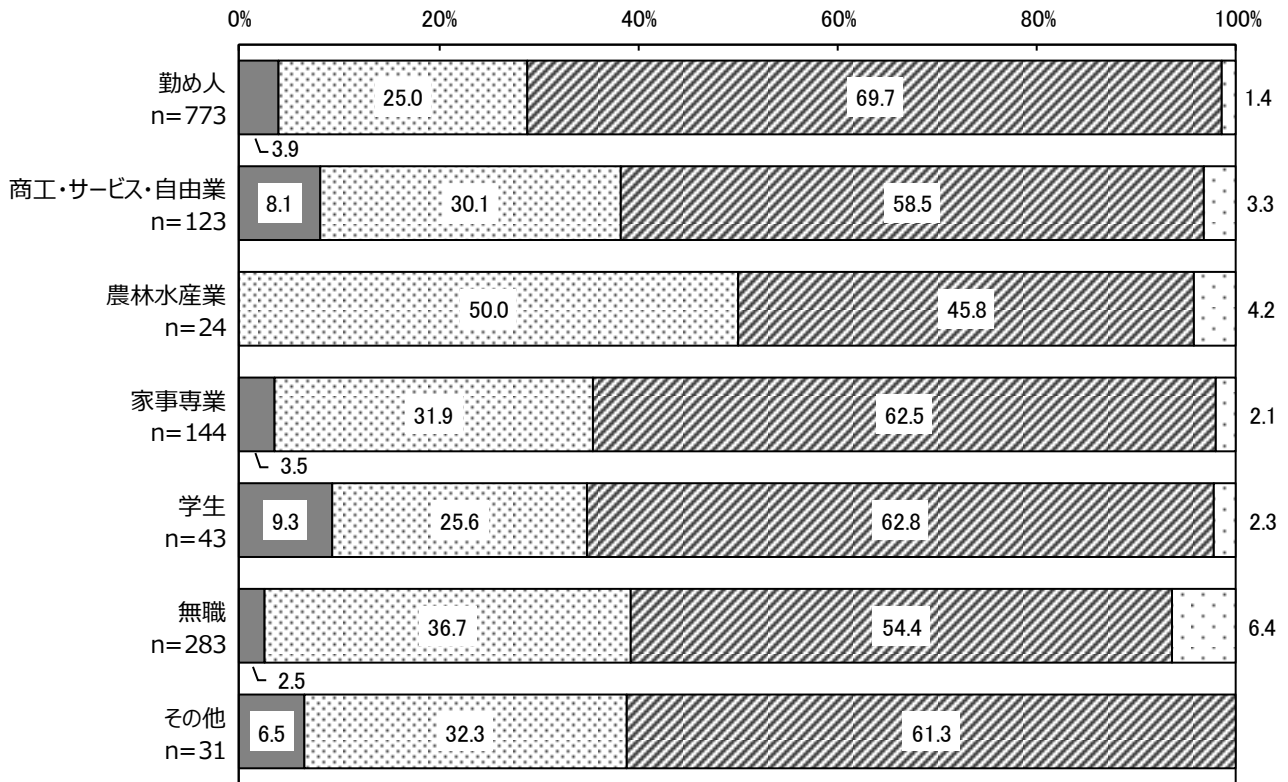
- 「取り組みを実施していることや、その取り組み内容もある程度は知っている」と「取り組みを実施していることは聞いたことがあるが、取り組み内容まではよく分からない」を合わせた『知っている』は、32.9%となった一方で、64.4%は「知らない」と回答している。
- 年代別で見ると、『知っている』は70歳以上の43.8%が最も高く、次いで60歳代の36.0%となった。「知らない」と回答した割合は40歳代以下の年代で7割を超え、18歳～29歳の75.2%が最も高い。
- 職業別で見ると、『知っている』は農林水産業の50.0%が最も高く、次いで無職の39.2%となった。「知らない」と回答した割合は農林水産業以外の職業で5割を超え、勤め人の69.7%が最も高い。

【年代別】



【職業別】

-  取り組みを実施していることや、その取り組み内容もある程度は知っている
-  取り組みを実施していることは聞いたことがあるが、取り組み内容まではよく分からない
-  知らない
-  無回答



【問12と問13のクロス集計】

- 問13の「デジタルを活用したまちづくり」についての考え別でみると、取り組みを『知っている』人では「仕事や趣味、市民活動などの場面でさまざまな人とつながることができる」の39.7%が最も高く、次いで「オンライン授業など、子供や学生の教育方法に選択肢ができる」の38.9%となった。また、「大都市圏のIT企業に資本が集中する」は28.1%となり、「その他」を除いた項目の中で最も低い。

(単位：%)

		問12 デジタル・スマートシティ政策を推進していることの認知度			
		知っている 取り組み あり み 実 内 容 し も て あ い る 程 度 と は 、	聞いて は よ く 分 か ら な い 、 取 り 組 み は 内 容	知らない	無回答
問13 「デジタルを活用したまちづくり」についての考え	暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる n=530	5.1	31.3	61.7	1.9
	キャッシュレスによる買い物・送金・納付などで生活が便利になる n=410	5.9	25.9	66.8	1.5
	対面ではなくリモートワークなどで仕事や暮らしの交流がしやすくなる n=148	6.8	29.1	62.8	1.4
	仕事や趣味、市民活動などの場面でさまざまな人とつながることができる n=166	6.0	33.7	56.0	4.2
	産業や観光の国内外への情報発信が広がって市場が開拓され活性化し地域経済が豊かになる n=167	6.0	25.7	67.1	1.2
	中山間地域でのオンライン診療、画像診断など医療の地域格差を緩和することができる n=282	3.9	31.9	63.1	1.1
	オンライン授業など、子供や学生の教育方法に選択肢ができる n=244	5.3	33.6	59.4	1.6
	個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある n=524	3.6	31.7	62.8	1.9
	デジタル化が進むことについていけない n=282	1.8	33.0	62.1	3.2
	デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる n=717	2.9	29.3	65.3	2.5
	人と人との対面での直接的な交流が少なくなる n=294	2.7	29.3	65.6	2.4
大都市圏のIT企業に資本が集中する n=64	0.0	28.1	68.8	3.1	
その他 n=29	3.4	17.2	79.3	0.0	



【問 12 と問 14 のクロス集計】

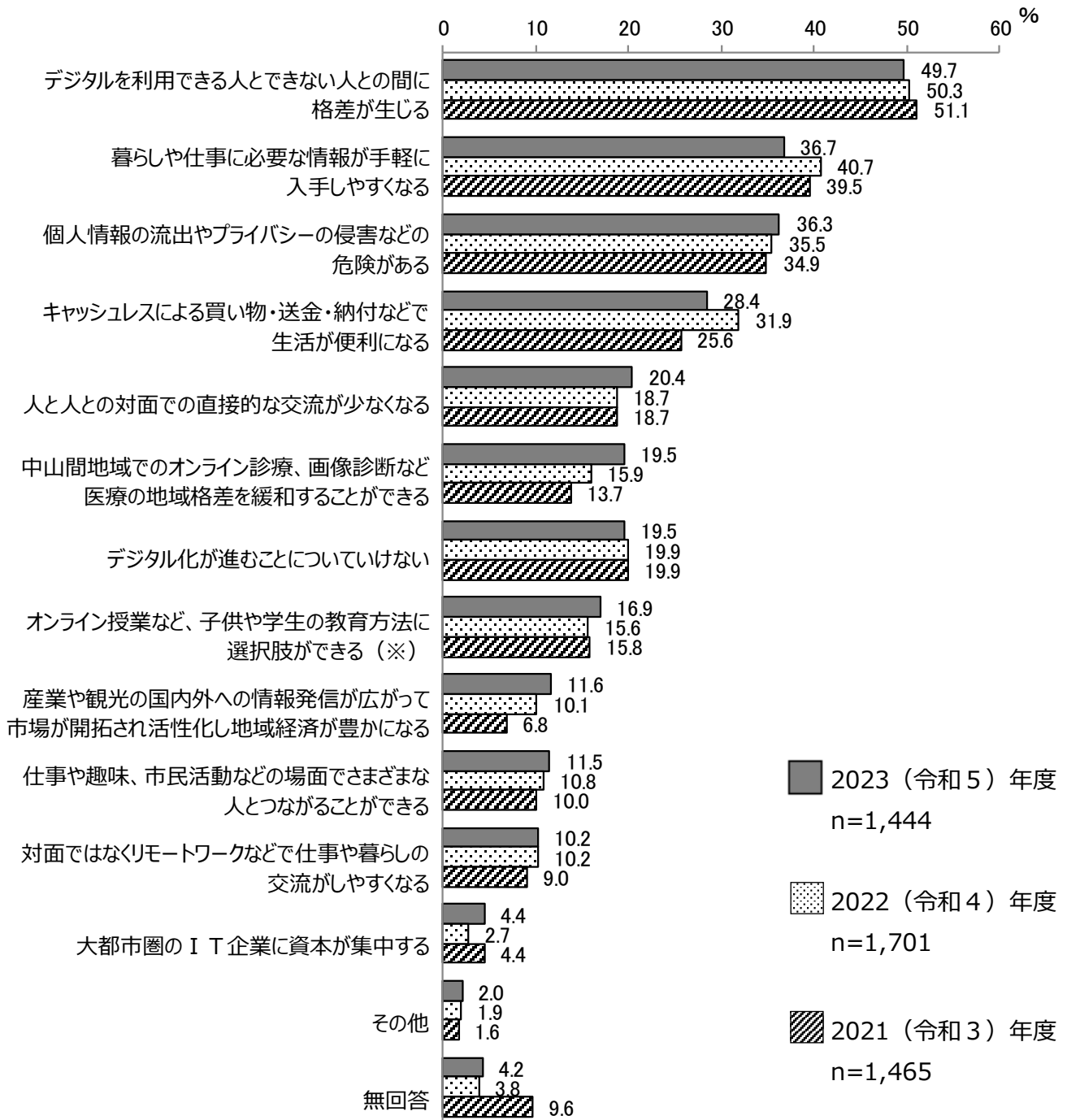
- 問 14 の先端技術やデータを活用すべきだと思う分野別でみると、取り組みを『知っている』人では「移住・定住（オンラインでの移住相談など）」の 43.8%が最も高く、次いで「産業（データや AI を活用した工場の生産性向上など）」の 36.8%となった。また、「文化・スポーツ・生涯学習（スマートフォンの講習など）」は 28.5%と最も低い。

(単位：%)

	問12 デジタル・スマートシティ政策を推進していることの認知度					
	知っ て取 り組 み を 実 施 し て あ る 程 度 は	そ の 取 組 み を 実 施 し て あ る 程 度 は や	ま だ 取 り 組 み を 実 施 し て あ る 程 度 は な い	取 り 組 み を 実 施 し て あ る 程 度 は な い	無 回 答	
健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など） n=865	3.6		30.5	64.2	1.7	
防災・安全（センサーを活用した高齢者の見守りなど） n=791	3.8		32.0	61.4	2.8	
問 14 先 端 技 術 や デ ー タ を 活 用 す べ き だ と 思 う 分 野	教育・子育て（オンラインでの子育て相談など） n=359	3.6		28.7	66.3	1.4
交通（自動運転・ドローン配送など） n=248	4.4		26.2	67.3	2.0	
観光・商業（人流データを活用した観光施策など） n=139	5.8		26.6	64.0	3.6	
エネルギー・環境・ごみ（利用データを活用したエネルギーの効率的な運用など） n=301	2.3		33.9	60.8	3.0	
農林業（ドローンによる農業散布など） n=139	7.2		24.5	66.9	1.4	
産業（データやAIを活用した工場の生産性向上など） n=155	6.5		30.3	62.6	0.6	
文化・スポーツ・生涯学習（スマートフォンの講習など） n=140	1.4		27.1	68.6	2.9	
労働（テレワークの促進など） n=122	5.7		30.3	63.1	0.8	
移住・定住（オンラインでの移住相談など） n=32	9.4		34.4	53.1	3.1	
市役所の各種手続き（行政手続きのオンライン化など） n=533	3.9		28.9	65.9	1.3	
その他 n=15	6.7		26.7	66.7	0.0	

問13 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのようにお考えですか。  
(3つまで○を付けてください)

「デジタルを活用したまちづくり」について、「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」と考える人は36.7%、一方で「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」と考える人は49.7%



※ 2021 (令和3) 年度調査では、「コロナ禍でのオンライン授業など、子供や学生の教育方法に選択肢ができる」となっている。

- 「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が49.7%と最も高く、次いで「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」が36.7%、「個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある」が36.3%となった。
- 年代別でみると、30歳代以下では「キャッシュレスによる買い物・送金・納付などで生活が便利になる」、40歳代以上では「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」がそれぞれ最も高い。高齢になるほど「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が高くなる一方で、若年になるほど「キャッシュレスによる買い物・送金・納付などで生活が便利になる」が高くなる傾向にある。
- 職業別でみると、学生以外の職業では「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が最も高い。「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」を除いた項目でみると、勤め人、商工・サービス・自由業では「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」、学生では「キャッシュレスによる買い物・送金・納付などで生活が便利になる」が最も高い。また農林水産業、家事専業、無職、その他では「個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある」が高い。

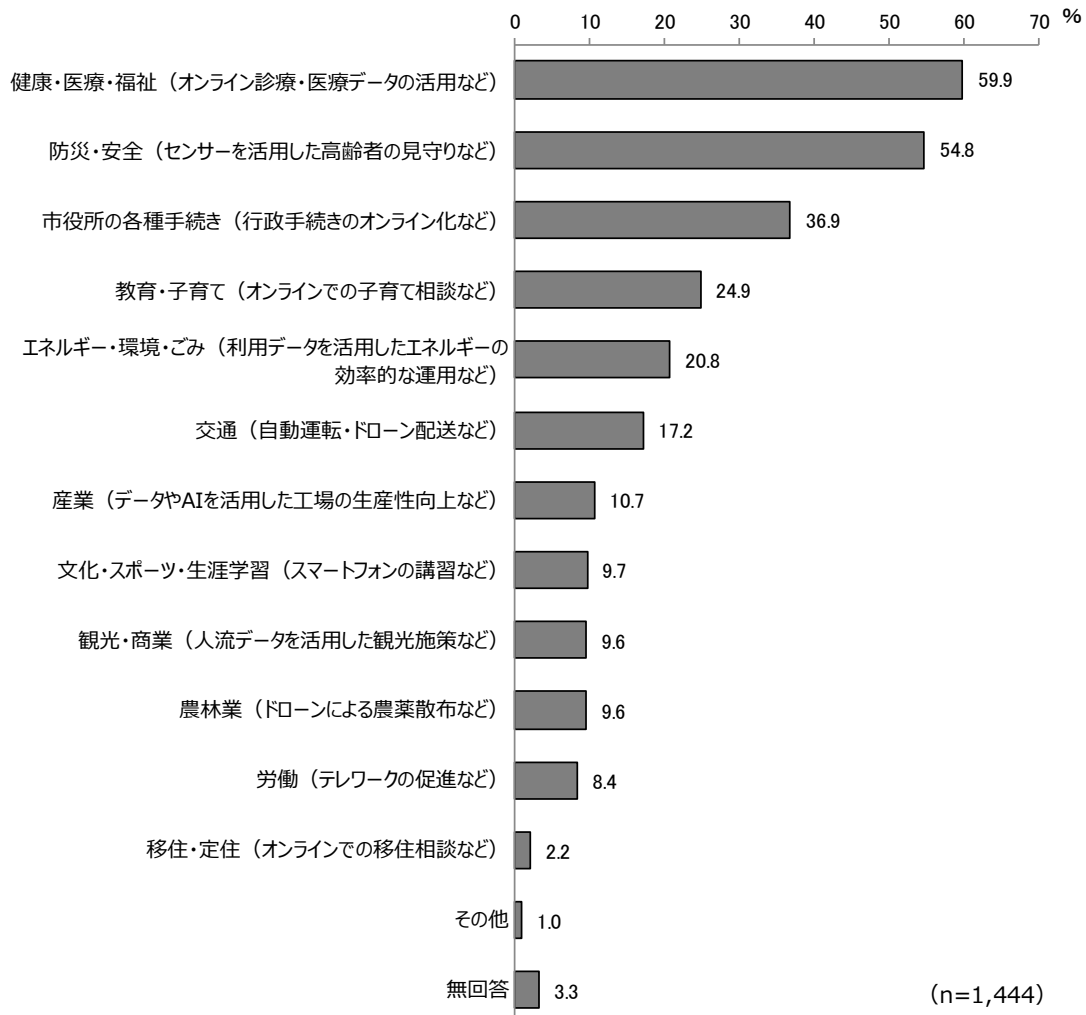
【年代別・職業別】

(単位：%)

		との間に格差が生じる	デジタル格差を利用できる人できない人	入手しやすくなる	暮らしや仕事に必要な情報が手軽に	暮らしやすくなる	個人情報の流出やプライバシーの侵害	個人情報の流出やプライバシーの侵害	納付などで生活が便利になる	キャッシュレスによる買い物・送金・	少なくなる	人と人との対面での直接的な交流が	中山間地域のオンライン診療、画像診断	など医療の地域格差を緩和することができる	デジタル化が進むことについていけない	選択肢ができる	オンライン授業など、子供や学生の教育方法に	市場が開拓され活性化し地域経済が豊かになる	産業や観光の国内外への情報発信が広がっている	さまざまな人とならがることのできる	仕事や趣味、市民活動などの場面で	暮らしの交流がしやすくなる	対面ではなくリモートワークなどで仕事や	大都市圏のIT企業に資本が集中する	その他	無回答
年代	18歳～29歳 n=153	30.1	44.4	27.5	52.3	13.7	11.8	5.9	20.9	10.5	23.5	17.0	6.5	1.3	3.3											
	30歳代 n=176	32.4	39.8	35.8	47.7	11.4	20.5	7.4	25.0	15.3	10.2	18.8	3.4	4.5	1.7											
	40歳代 n=234	43.6	41.9	35.0	35.9	17.1	20.5	8.5	25.2	14.1	11.5	13.2	4.7	1.7	3.0											
	50歳代 n=266	54.5	40.2	37.6	25.6	18.4	21.8	15.8	15.4	9.0	8.3	8.6	4.1	1.9	5.3											
	60歳代 n=283	59.4	35.0	40.6	17.7	23.3	21.9	26.1	12.4	10.2	10.2	7.1	3.2	1.1	4.9											
	70歳以上 n=322	60.2	27.3	37.3	12.1	30.4	18.3	38.5	9.6	11.5	10.2	4.0	4.7	1.9	5.0											
職業	勤め人 n=773	46.2	40.5	36.1	34.0	18.5	21.2	12.8	18.6	12.2	11.1	11.6	4.1	1.8	3.4											
	商工・サービス・自由業 n=123	48.0	36.6	33.3	21.1	19.5	19.5	24.4	15.4	12.2	13.8	11.4	3.3	1.6	3.3											
	農林水産業 n=24	62.5	29.2	33.3	20.8	29.2	29.2	25.0	4.2	8.3	12.5	12.5	8.3	0.0	0.0											
	家事専業 n=144	56.3	28.5	36.1	24.3	22.2	18.8	34.0	18.8	11.1	9.0	6.3	2.1	2.1	4.9											
	学生 n=43	18.6	48.8	30.2	60.5	14.0	14.0	0.0	30.2	9.3	18.6	20.9	9.3	0.0	2.3											
	無職 n=283	60.1	31.1	39.6	14.8	25.4	15.2	30.0	11.0	11.0	11.7	5.7	6.0	2.5	6.4											
	その他 n=31	58.1	25.8	48.4	25.8	22.6	16.1	29.0	12.9	6.5	12.9	6.5	3.2	6.5	3.2											

問 14 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのような分野に先端技術やデータを活用すべきだとお考えですか。（3つまで○を付けてください）

先端技術やデータを活用すべき分野は、「健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など）」と考える人は 59.9%



- 「健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など）」が 59.9%と最も高く、次いで「防災・安全（センサーを活用した高齢者の見守りなど）」が 54.8%、「市役所の各種手続き（行政手続きのオンライン化など）」が 36.9%となった。
- 年代別で見ると、60 歳代以下では「健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など）」、70 歳以上では「防災・安全（センサーを活用した高齢者の見守りなど）」がそれぞれ最も高い。30 歳代以上では、高齢になるほど「防災・安全（センサーを活用した高齢者の見守りなど）」が高くなる一方で、若年になるほど「教育・子育て（オンラインでの子育て相談など）」が高くなる傾向にある。
- 職業別で見ると、無職ならびにその他以外のすべての職業で「健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など）」が最も高い。学生では「防災・安全（センサーを活用した高齢者の見守りなど）」が 30.2%と他の職業と比べて最も低く、「教育・子育て（オンラインでの子育て相談など）」が 41.9%と他の職業と比べて最も高い。

【年代別・職業別】

(単位：%)

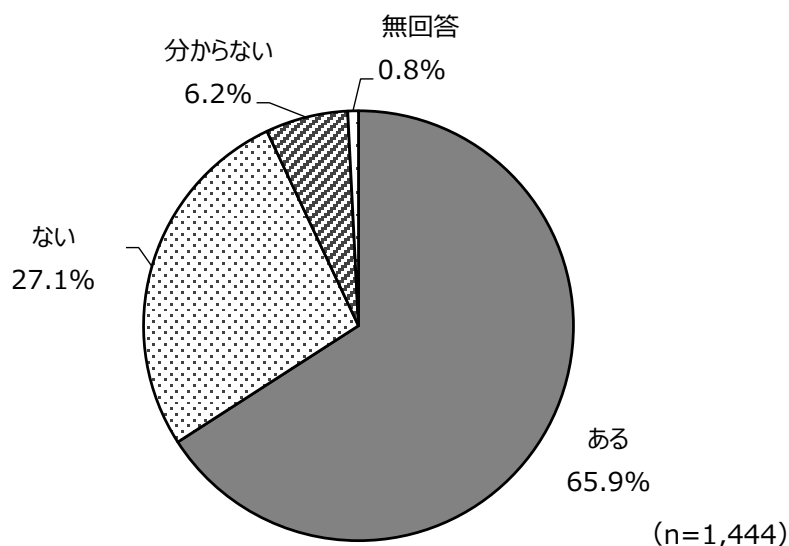
		医療データ の活用など	健康・医療・福祉 (オンライン診療・ 見守りなど)	防災・安全 (センサーを活用した 高齢者の)	オンライン化 など)	市役所の各種 手続き(行政手 続きの)	相談など	教育・子育て (オンラインでの 子育て)	活用したエネ ルギーの効率 的な運用など	エネルギー・ 環境・ごみ(利 用データを)	交通(自動運 転・ドローン配 送など)	産業(データ やAIを活用し た工場の)	生産性向上 など)	文化・スポ ーツ・生涯学 習(スマートフ ォンの)	観光・商業 (人流データ を活用した観 光施策)	農林業(ド ローンによる 農薬散布な ど)	労働(テレ ワークの促進 など)	移住・定住 (オンライン での移住相 談など)	その他	無回答
年代	18歳～29歳 n=153	64.1	41.8	34.0	34.6	16.3	17.0	9.2	7.2	15.7	10.5	18.3	2.6	0.7	1.3					
	30歳代 n=176	63.1	36.9	44.3	36.9	9.7	19.9	17.6	5.1	9.1	15.3	13.1	3.4	0.6	2.3					
	40歳代 n=234	60.7	55.1	42.7	28.6	17.5	19.2	11.5	8.1	10.3	6.0	11.5	1.3	0.9	3.4					
	50歳代 n=266	57.1	57.1	44.0	20.3	20.7	18.8	11.3	5.3	9.4	10.5	6.4	2.6	0.4	2.3					
	60歳代 n=283	65.0	59.7	36.0	21.9	27.6	14.5	10.2	10.6	7.8	8.5	6.0	1.8	0.7	2.5					
	70歳以上 n=322	54.0	64.6	25.2	17.7	26.4	14.6	7.5	17.1	8.4	8.7	2.5	2.2	2.5	5.6					
職業	勤め人 n=773	62.6	52.4	42.3	27.3	18.4	18.4	11.0	7.4	9.4	9.1	9.4	1.6	0.8	2.1					
	商工・サービス・自由業 n=123	56.1	54.5	32.5	23.6	23.6	20.3	12.2	9.8	9.8	12.2	6.5	1.6	1.6	2.4					
	農林水産業 n=24	70.8	58.3	33.3	12.5	12.5	16.7	4.2	16.7	12.5	33.3	8.3	0.0	0.0	4.2					
	家事専業 n=144	59.0	59.0	26.4	27.8	24.3	16.7	6.9	13.2	7.6	7.6	6.9	4.2	0.0	4.9					
	学生 n=43	72.1	30.2	20.9	41.9	14.0	18.6	14.0	14.0	11.6	14.0	23.3	7.0	0.0	0.0					
	無職 n=283	53.7	62.5	34.3	18.0	24.7	14.1	11.0	11.3	9.9	8.1	5.7	2.8	1.8	5.3					
	その他 n=31	48.4	54.8	32.3	6.5	38.7	9.7	22.6	16.1	19.4	12.9	3.2	0.0	3.2	3.2					

### 3-5 歩きスマホについて

問15 あなたは、あなた以外の人「歩きスマホ※」で危険や迷惑を感じたことはありますか。  
(1つだけ○を付けてください)

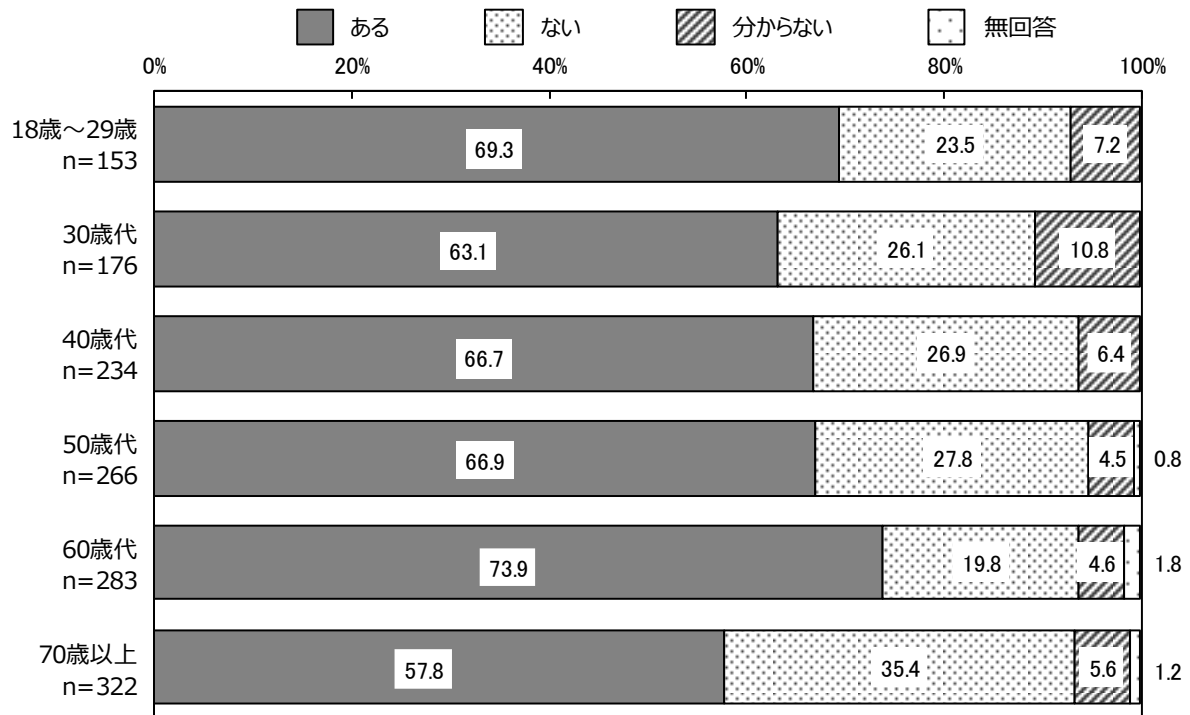
※スマートフォンや携帯電話、タブレットを注視しながら走ったり歩いたりすることを指します。

「歩きスマホ」で危険や迷惑を感じたことが「ある」人は65.9%

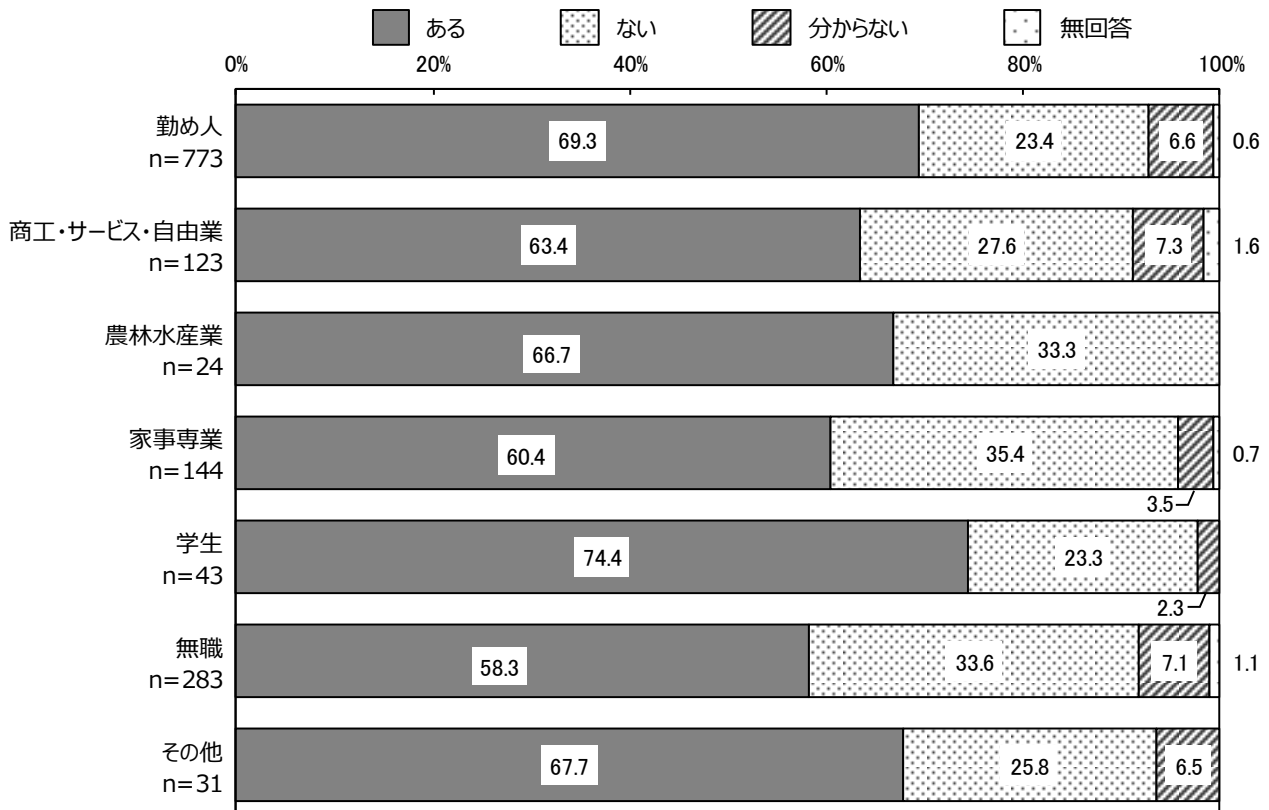


- 「歩きスマホ」で危険や迷惑を感じたことが「ある」が65.9%、「ない」が27.1%となった。
- 年代別でみると、「ある」と回答した割合は60歳代の73.9%が最も高く、次いで18歳~29歳が69.3%となった。最も低い70歳以上が57.8%となり、最も高い60歳代とは、16.1ポイントの差がみられた。
- 職業別でみると、「ある」と回答した割合は学生の74.4%が最も高く、次いで勤め人が69.3%となった。無職のみ6割を下回っている。

【年代別】



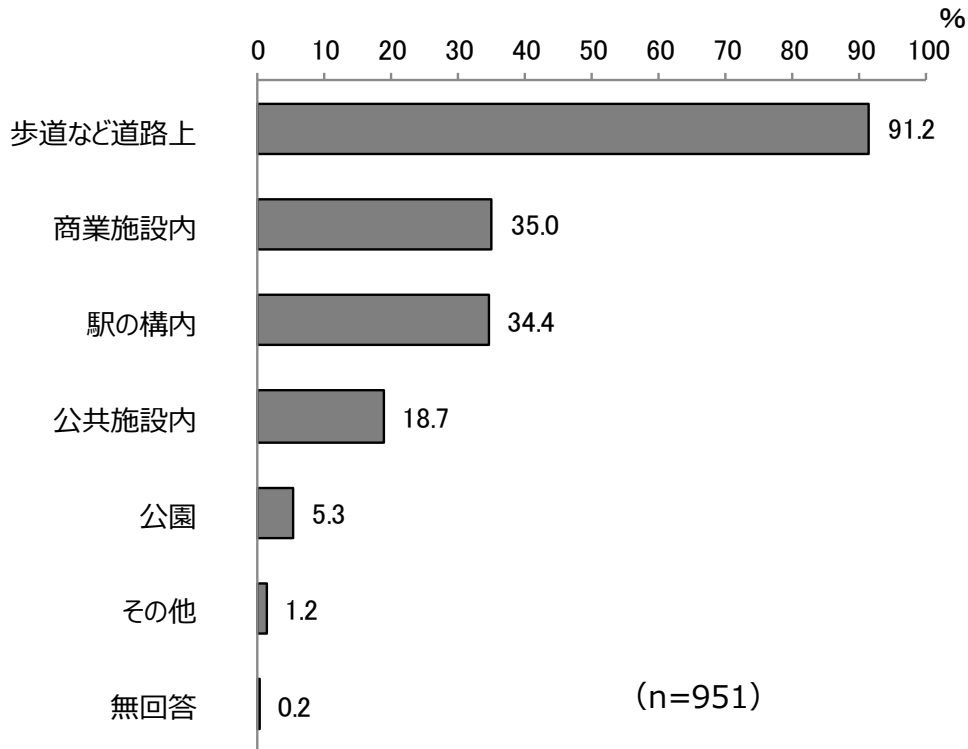
【職業別】





問 16 問 15 で「1.ある」と回答された方にお聞きします。どこでそのように感じましたか。  
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

危険を感じた場所は「歩道など道路上」が 91.2%



- 「歩道など道路上」が 91.2%と最も高く、次いで「商業施設内」が 35.0%、「駅の構内」が 34.4%となった。
- 年代別で見ると、すべての年代で「歩道など道路上」が最も高く、30 歳代以外で9割を超えた。「歩道など道路上」を除いた項目で見ると、30 歳代以下と 60 歳代では「駅の構内」、40 歳代と 50 歳代と 70 歳以上では「商業施設内」が最も高かった。
- 職業別で見ると、すべての職業で「歩道など道路上」が最も高い。「歩道など道路上」を除いた項目で見ると、「商業施設内」は商工・サービス・自由業で 39.7%、「駅の構内」は学生で 50.0%と他の職業と比較して最も高い。

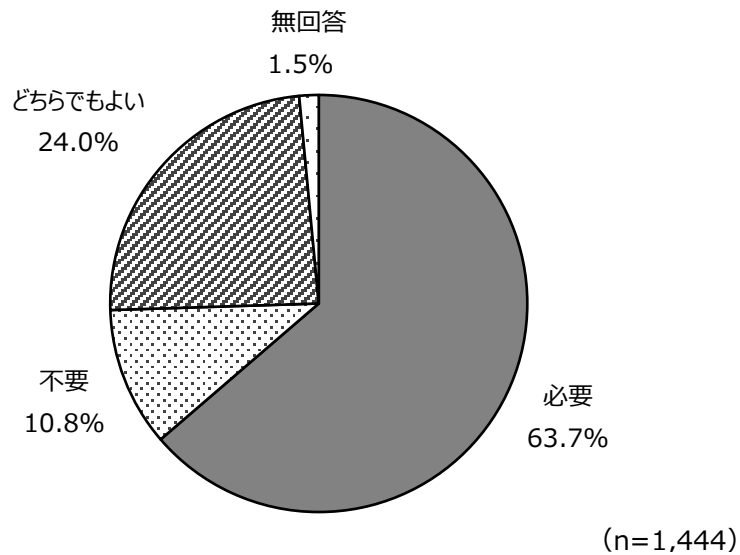
【年代別・職業別】

(単位：%)

		歩道 など 道路 上	商 業 施 設 内	駅 の 構 内	公 共 施 設 内	公 園	そ の 他	無 回 答
年 代	18歳～29歳 n=106	90.6	30.2	43.4	25.5	6.6	0.9	0.0
	30歳代 n=111	86.5	41.4	43.2	27.0	4.5	0.0	0.0
	40歳代 n=156	94.2	39.7	36.5	14.1	5.8	0.6	0.0
	50歳代 n=178	91.0	37.1	29.2	17.4	4.5	2.2	0.0
	60歳代 n=209	92.3	29.2	30.1	17.7	4.3	1.0	0.0
	70歳以上 n=186	90.9	33.9	31.7	15.6	5.9	1.1	1.1
職 業	勤め人 n=536	92.0	35.4	35.4	19.0	4.7	1.3	0.0
	商工・サービス・自由業 n=78	94.9	39.7	30.8	26.9	3.8	0.0	0.0
	農林水産業 n=16	93.8	37.5	25.0	12.5	6.3	0.0	0.0
	家事専業 n=87	86.2	33.3	31.0	14.9	10.3	1.1	0.0
	学生 n=32	87.5	21.9	50.0	25.0	9.4	0.0	0.0
	無職 n=165	90.3	30.3	30.3	11.5	4.8	0.6	1.2
	その他 n=21	90.5	61.9	42.9	38.1	0.0	0.0	0.0

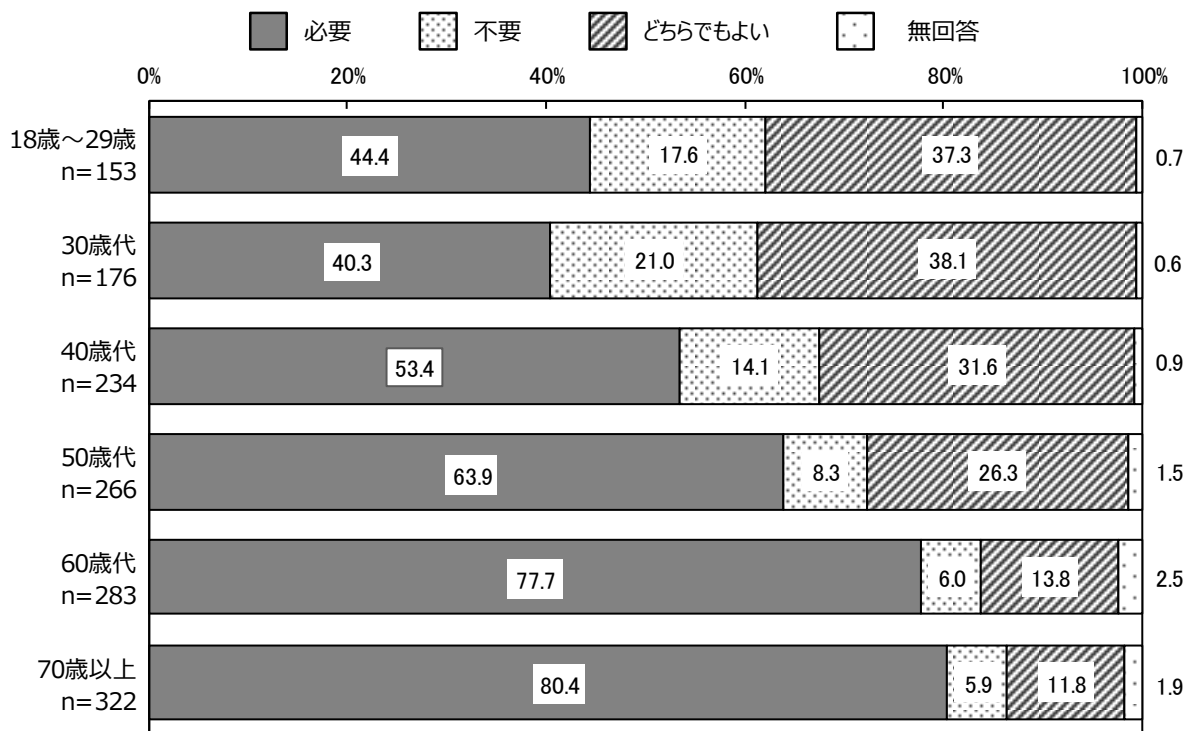
問17 あなたは、公共の場所での「歩きスマホ」を制限する必要を感じますか。  
(1つだけ○を付けてください)

公共の場所での「歩きスマホ」を制限は「必要」が63.7%

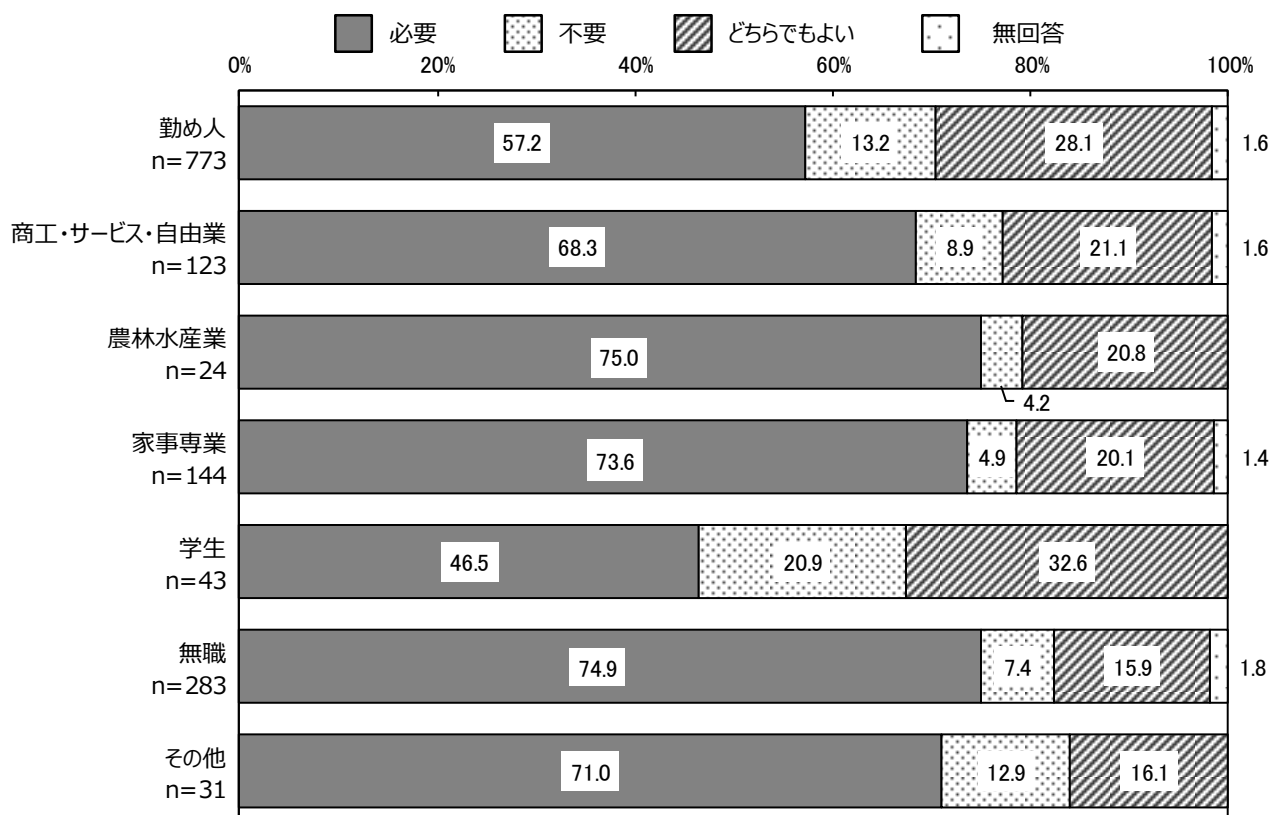


- 「必要」が63.7%と最も高く、次いで「どちらでもよい」が24.0%、「不要」が10.8%となった。
- 年代別で見ると、すべての年代で「必要」が最も高い。30歳代以上では年齢が高いほど回答した割合も高い傾向がみられ、70歳以上で8割を超えた。「不要」は30歳代のみ2割を超えた。
- 職業別で見ると、すべての職業で「必要」が最も高いが、学生のみ46.5%と唯一5割を下回っている。「不要」は学生で20.9%と他の職業と比べて最も高かった。

### 【年代別】

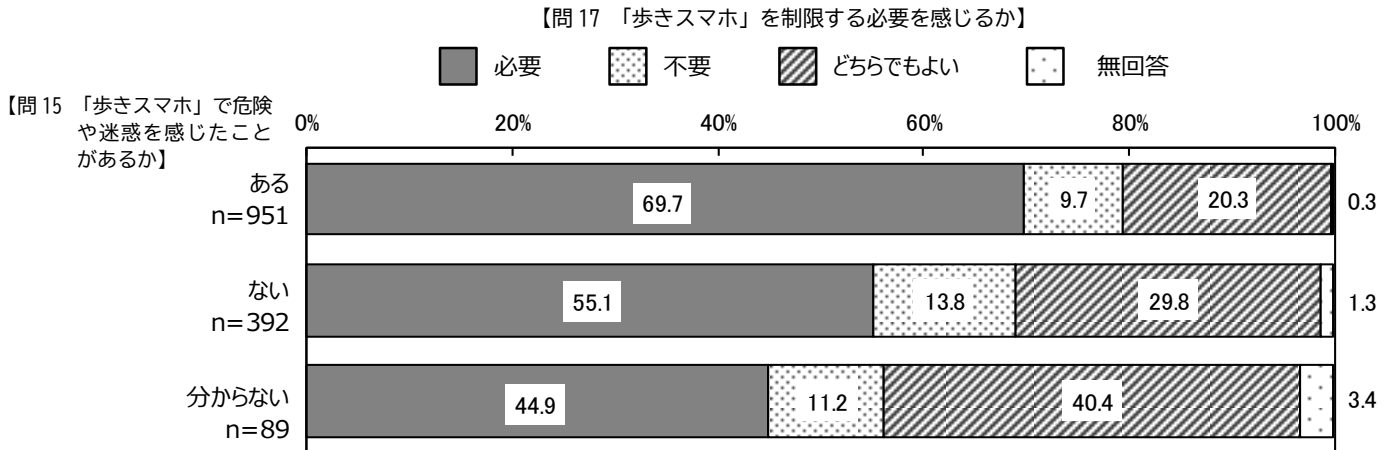


### 【職業別】



【問 15 と問 17 の設問間クロス集計】

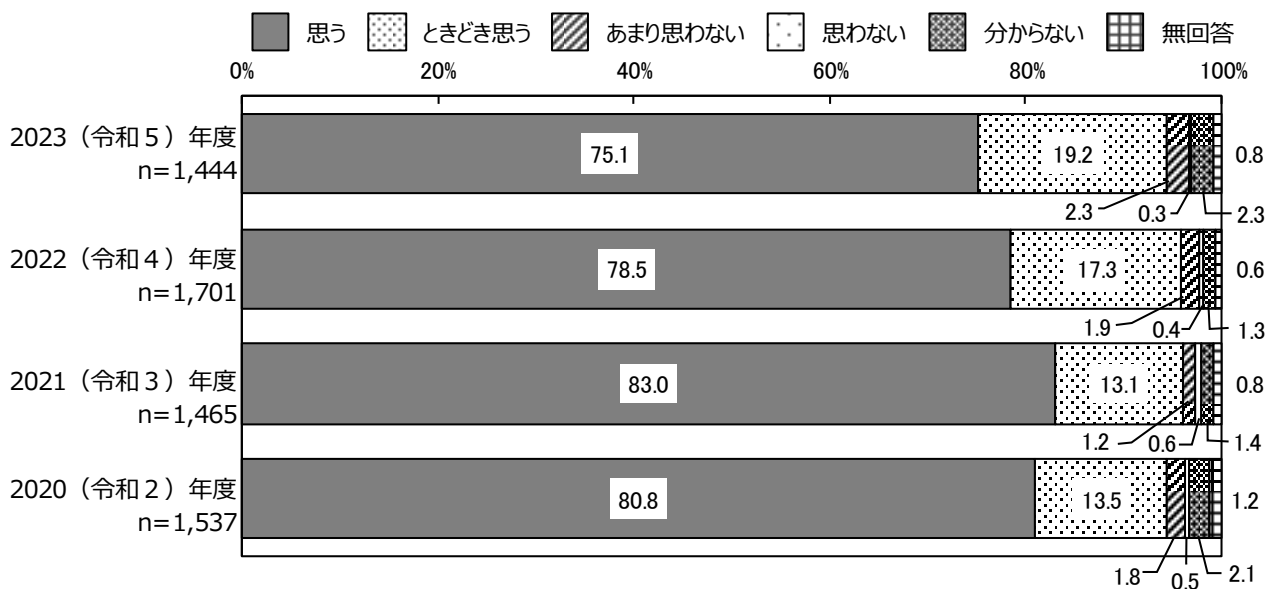
- 問 15 の「歩きスマホ」で危険や迷惑を感じたことの有無別で見ると、危険や迷惑を感じたことのある人では「必要」が 69.7%となり、危険や迷惑を感じたことのない人で「必要」と回答した人と比べて 14.6 ポイント高くなった。



### 3-6 人権について

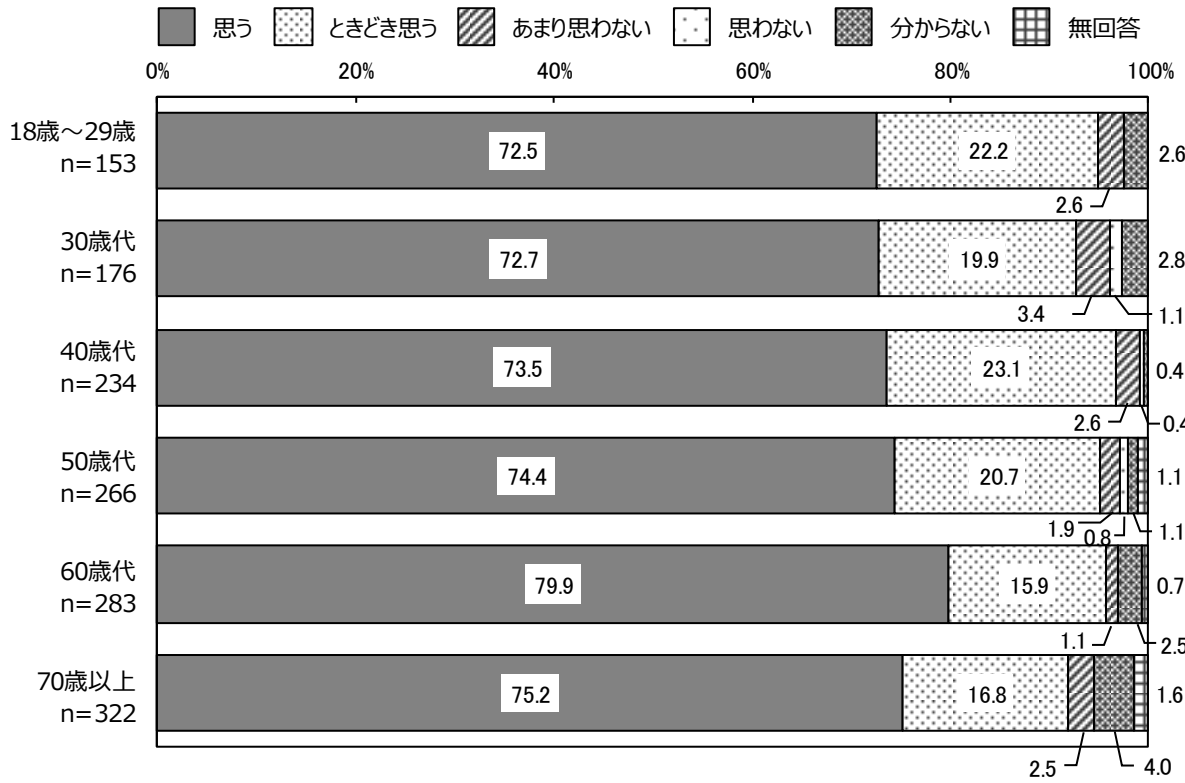
問 18 あなたは、人権は重要なことだと思いますか。(1つだけ○を付けてください)

人権は『重要である』と思う人は 94.3%

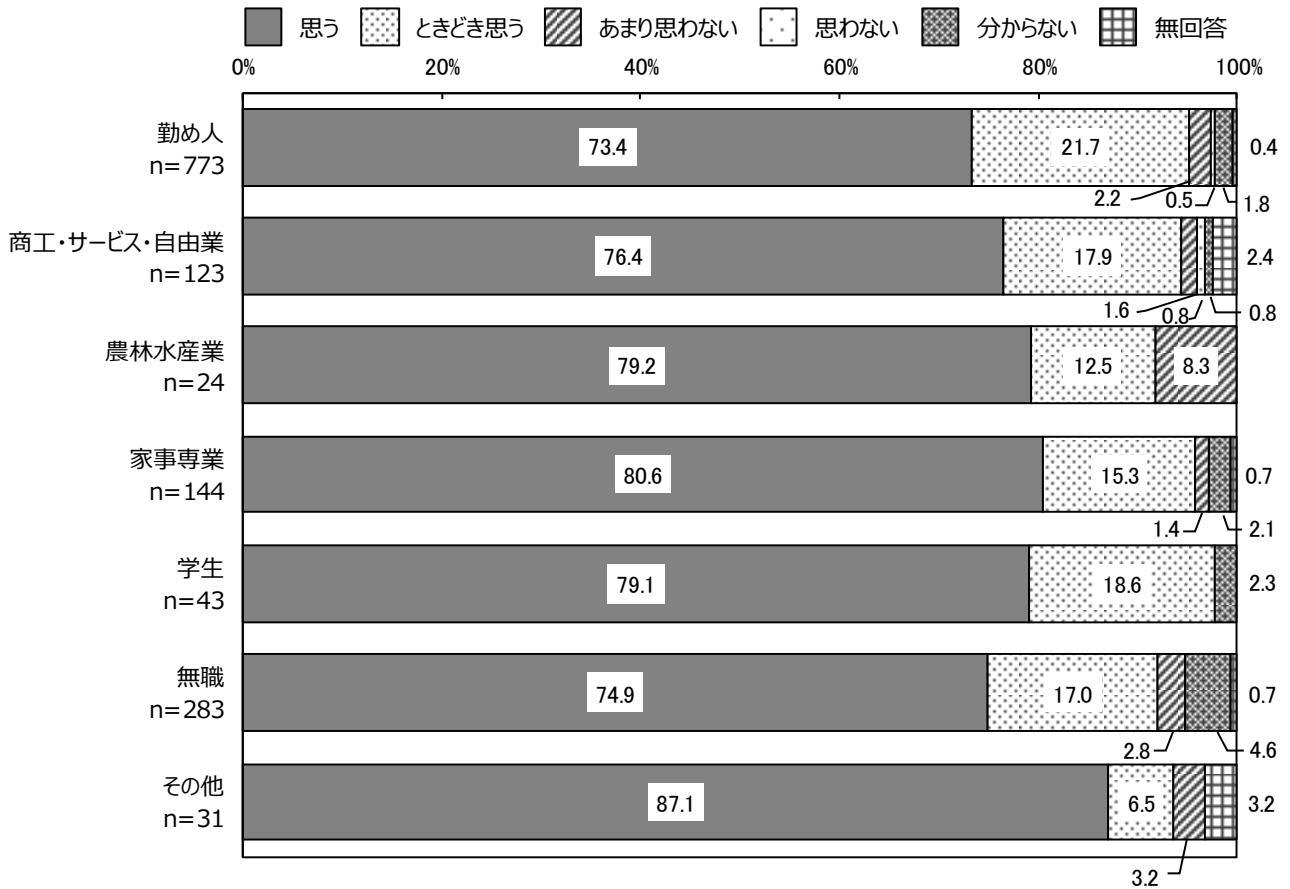


- 「思う」と「ときどき思う」を合わせた『重要である』は 94.3%となり、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『重要でない』の 2.6%を大きく上回った。2022 (令和4) 年度との比較では、『重要である』は 1.5 ポイント減少となった。
- 年代別で見ると、『重要である』はすべての年代で9割を超えて高い。40 歳代の 96.6%が最も高く、次いで 60 歳代の 95.8%となった。
- 職業別で見ると、『重要である』はすべての職業で9割を超えて高い。学生の 97.7%が最も高く、次いで家事専業の 95.9%となった。

【年代別】

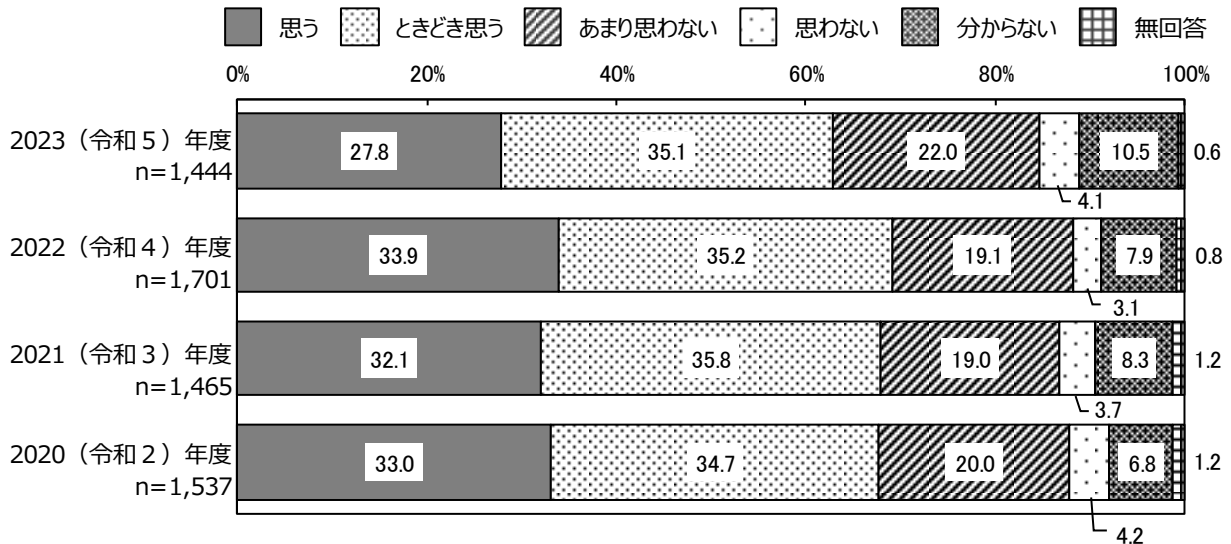


【職業別】



問19 あなたの周りでは、お互いの人権を守りながら生活できていると感じますか。  
(1つだけ○を付けてください)

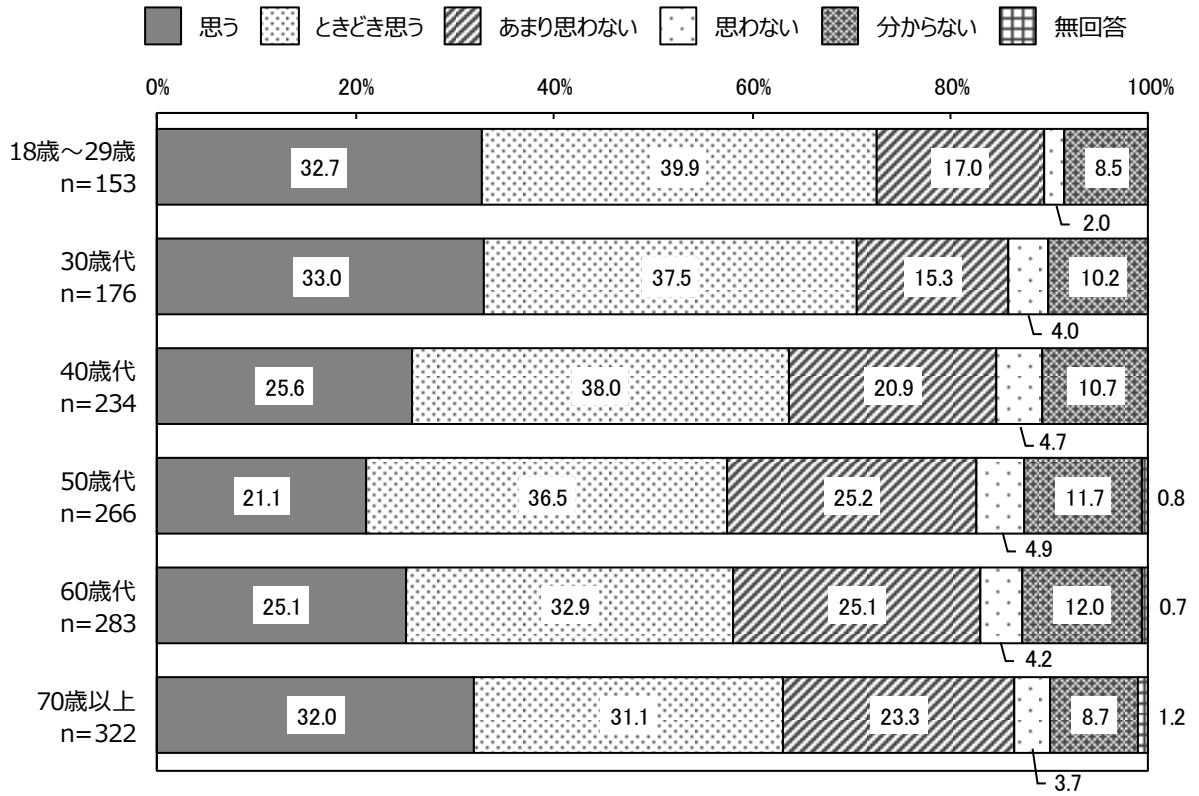
お互いの人権を守りながら『生活できていると思う』人は62.9%



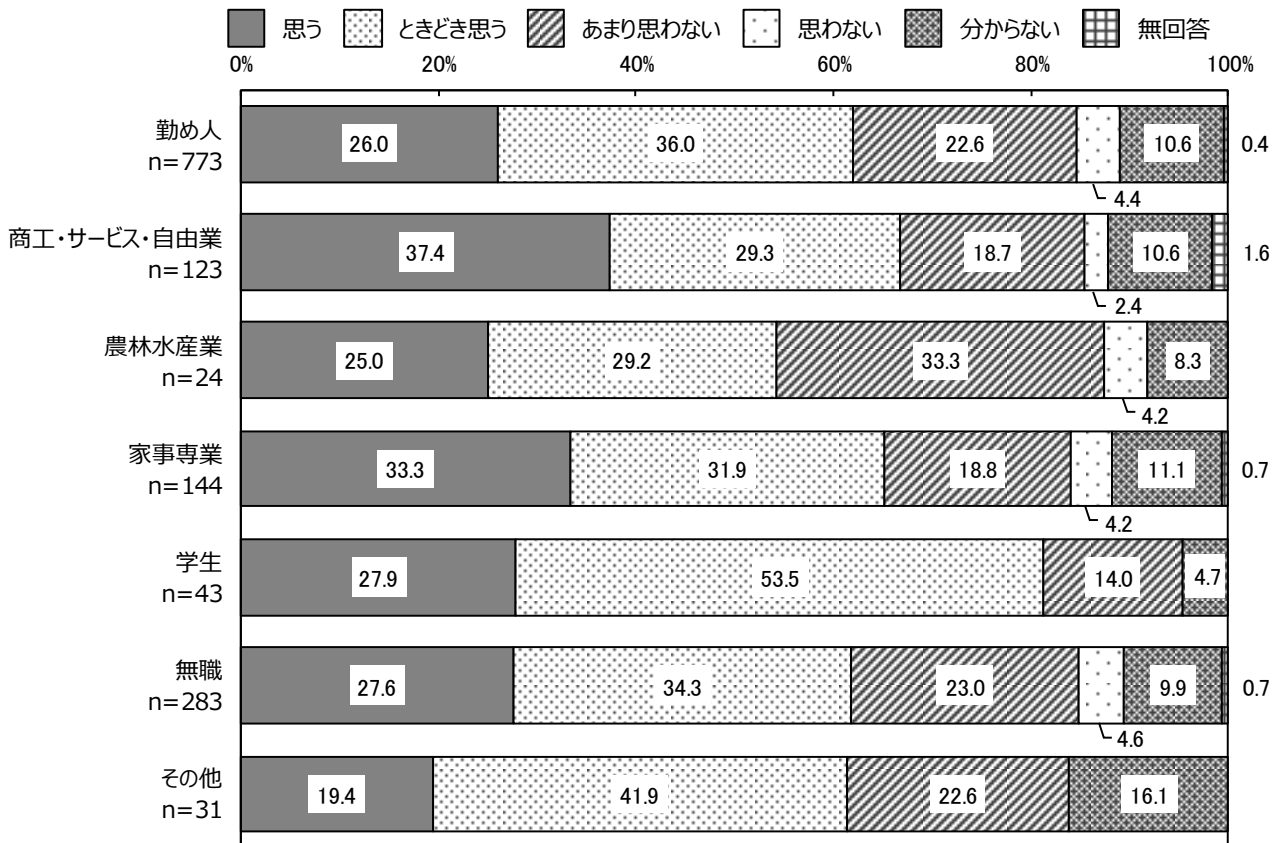
- 「思う」と「ときどき思う」を合わせた『生活できていると思う』は62.9%となり、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『生活できていると思わない』の26.1%を36.8ポイント上回った。2022(令和4)年度との比較では、『生活できていると思う』は6.2ポイント減少となった。
- 年代別で見ると、『生活できていると思う』と回答した割合は、18歳～29歳の72.6%が最も高く、次いで30歳代の70.5%となった。他の年代では7割を下回り、50歳代が57.6%と最も低い。
- 職業別で見ると、『生活できていると思う』と回答した割合は、学生が81.4%と最も高く、次いで商工・サービス・自由業が66.7%となった。最も低い農林水産業が54.2%となり、最も高い学生とは、27.2ポイントの差がみられた。



【年代別】

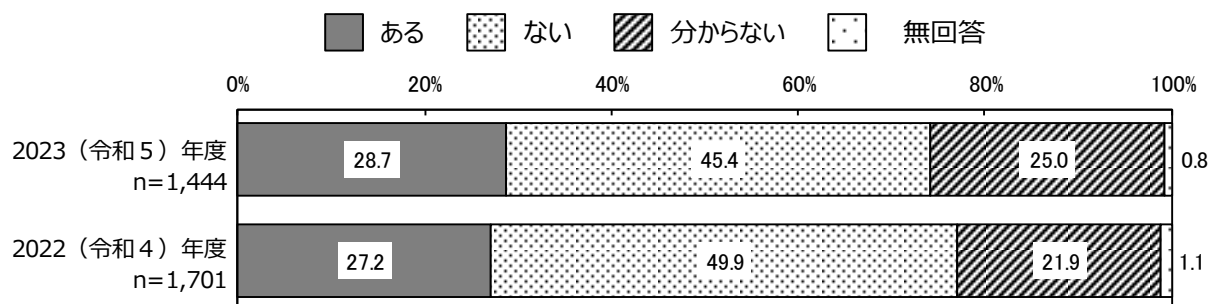


【職業別】



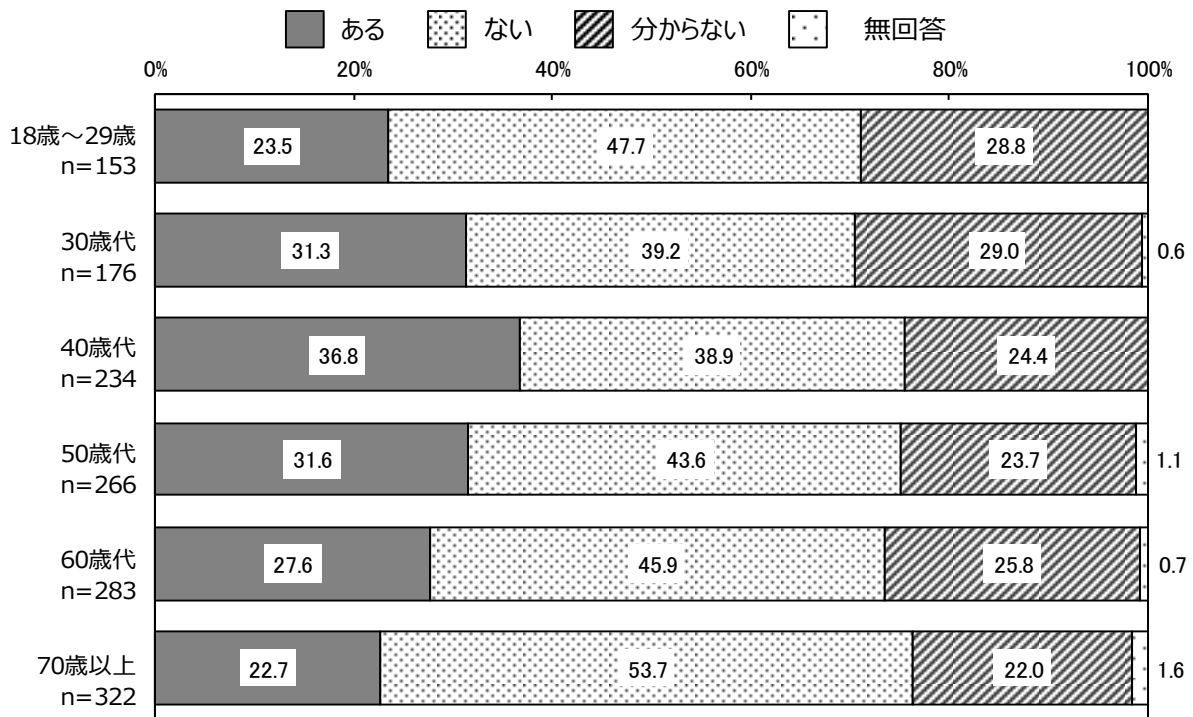
問 20 あなたは、日常生活の中で、あなた自身またはあなたの周りの方（家族や友人、職場の同僚など）の人権が侵害されたと感じたことはありますか。  
（1つだけ○を付けてください）

人権が侵害されたと感じたことが「ない」人は45.4%

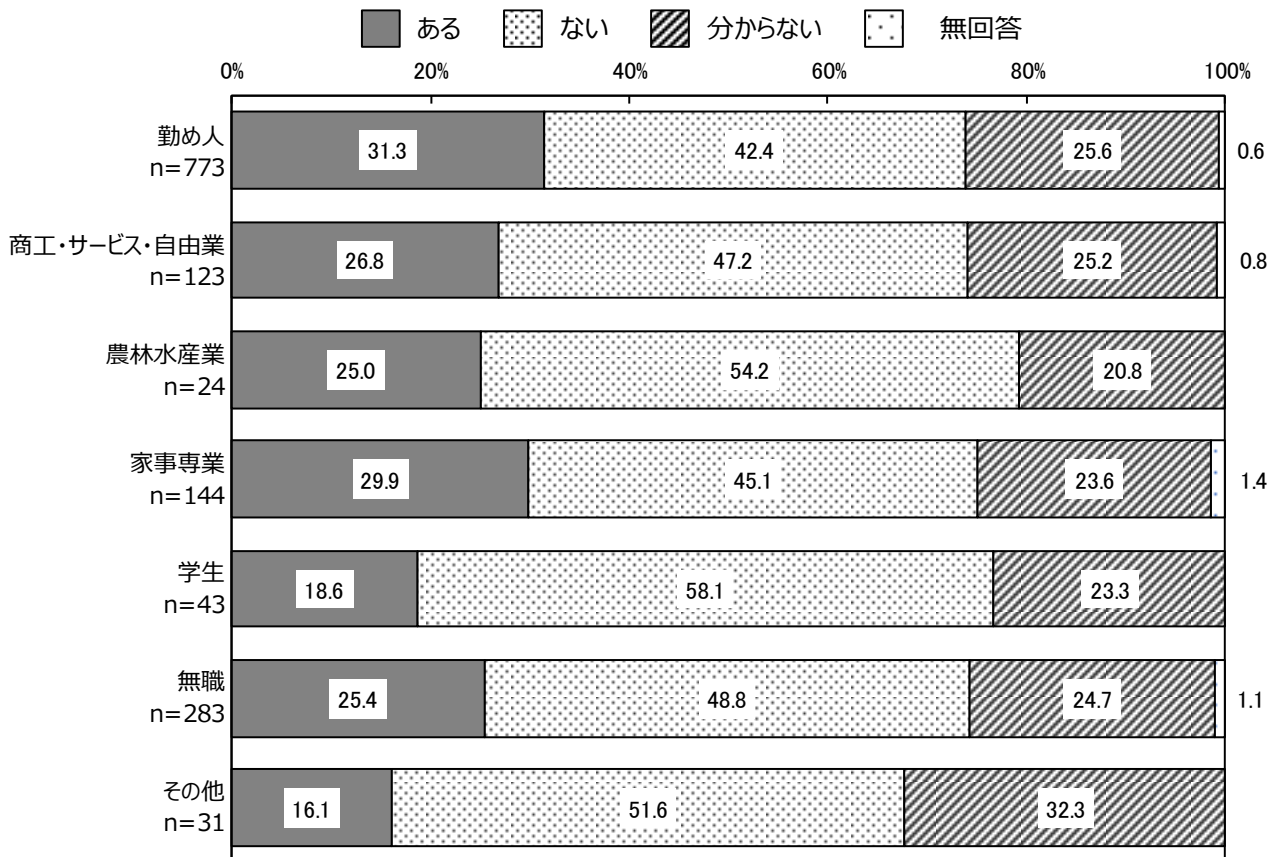


- 人権が侵害されたと感じたことは「ない」が45.4%と最も高く、次いで「ある」が28.7%、「分からない」が25.0%となった。2022（令和4）年度との比較では、「ない」が4.5ポイント減少、「ある」が1.5ポイント増加となった。
- 年代別で見ると、「ある」と回答した割合は40歳代の36.8%が最も高く、次いで50歳代の31.6%となった。「ない」と回答した割合は70歳以上の53.7%が最も高い。
- 職業別で見ると、「ある」は勤め人の31.3%が最も高くなっている。「ない」と回答した割合は学生の58.1%が最も高い。

【年代別】



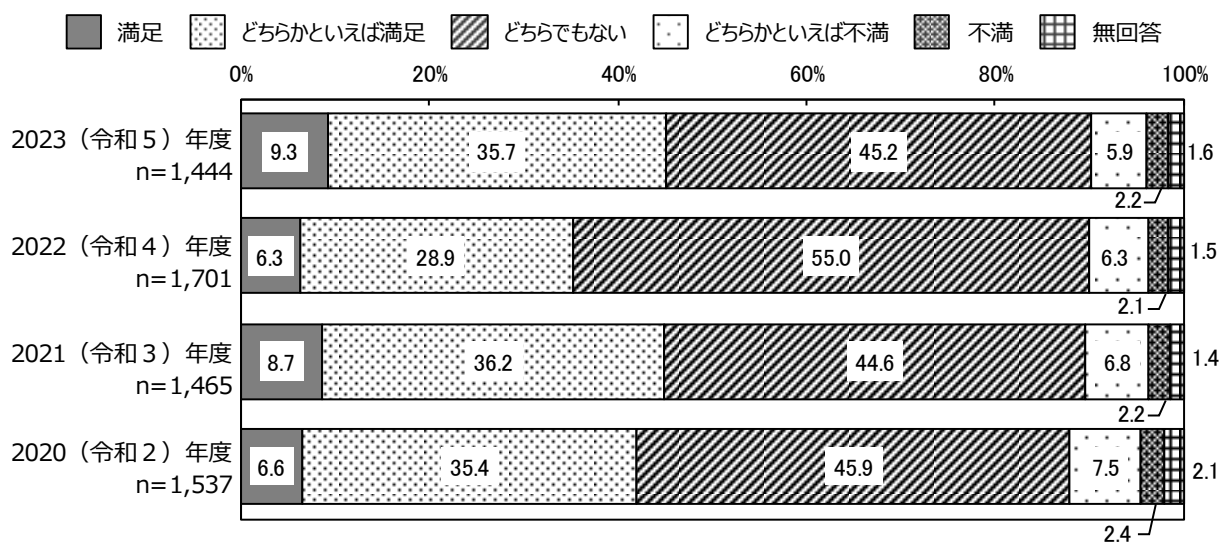
【職業別】



### 3-7 文化振興について

問 21 あなたは、音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組みについて『満足している』人は45.0%



- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は45.0%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は8.1%となり、『満足している』が『不満である』を36.9ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は45.2%を占めた。
- 年代別でみると、『満足している』と回答した割合は70歳以上の50.3%が最も高く、次いで30歳代の46.1%となった。最も低い60歳代では41.0%となり、最も高い70歳以上とは9.3ポイントの差がみられた。

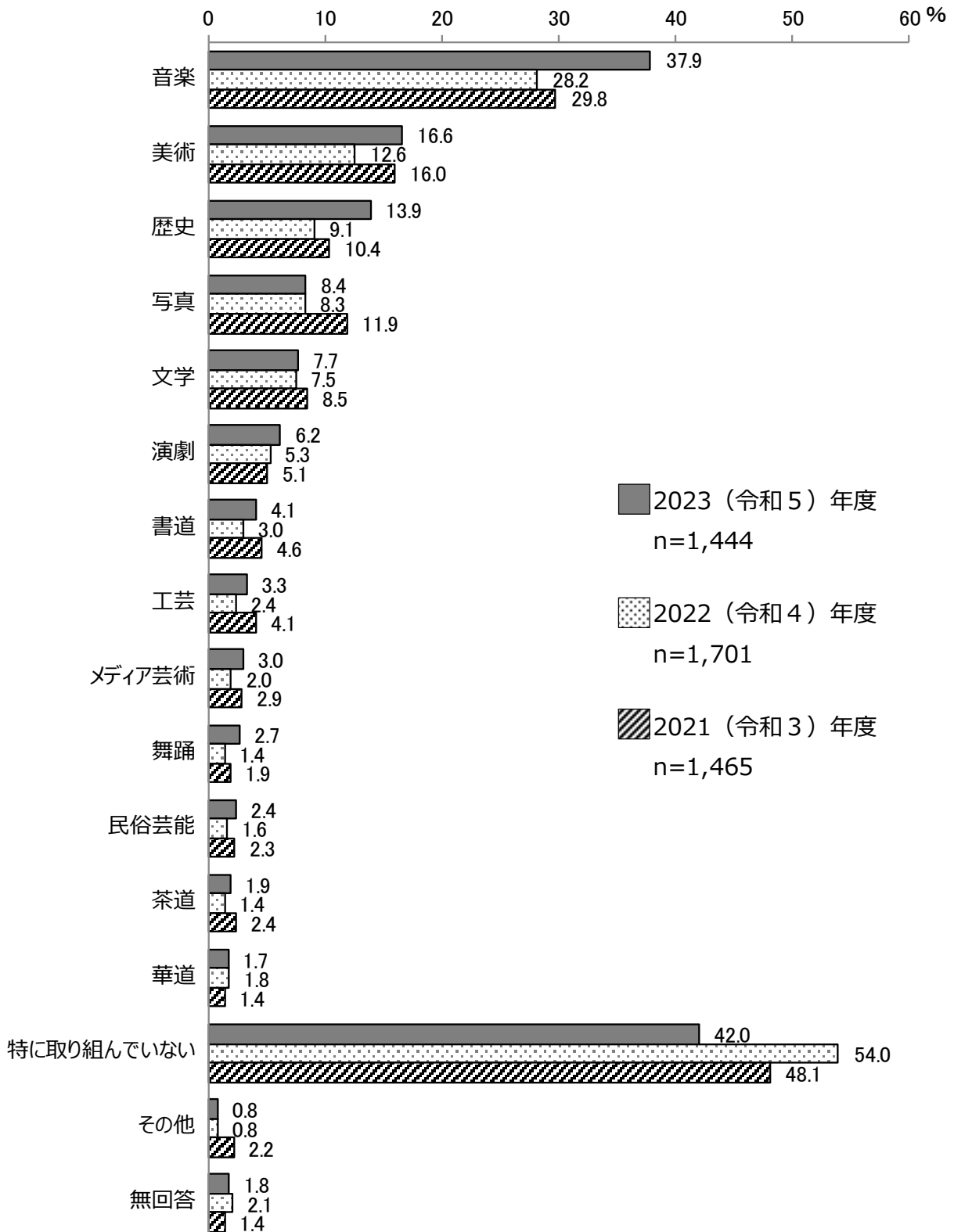
【年代別】

(単位：%)

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらでも ない	どちらかといえ ば不満	不満	無 回 答
年代	18歳～29歳 n=153	13.1	30.7	49.0	3.3	3.9	0.0
	30歳代 n=176	14.8	31.3	44.9	6.8	1.7	0.6
	40歳代 n=234	10.7	33.3	45.7	7.7	2.1	0.4
	50歳代 n=266	3.8	41.0	46.6	4.9	2.6	1.1
	60歳代 n=283	6.7	34.3	47.3	6.7	2.5	2.5
	70歳以上 n=322	9.9	40.4	40.1	5.6	0.9	3.1

問 22 あなたは、過去1年間にどのような文化芸術に取り組みましたか。鑑賞などサービスの受け手として楽しんだものを含みます。  
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

過去1年間に取り組んだ文化芸術は「音楽」が37.9%



- 取り組んだ芸術は、「音楽」が37.9%と最も高く、次いで「美術」が16.6%、「歴史」が13.9%となった。一方で、「特に取り組んでいない」については42.0%となった。2022（令和4）年度との比較では、最も差がみられたのは「特に取り組んでいない」が12.0ポイント減少、次いで「音楽」が9.7ポイント増加、「歴史」が4.8ポイント増加となった。
- 年代別でみると、40歳代以下で「音楽」が最も高い。「音楽」と「美術」以外の文化芸術はすべて2割以下となった。また、50歳代以上では「特に取り組んでいない」が4割を超えた。
- 職業別でみると、勤め人、商工・サービス・自由業、学生で「音楽」が最も高い。特に学生では62.8%と突出して高い。また、農林水産業と無職では「特に取り組んでいない」が5割以上となった。

【年代別・職業別】

(単位：%)

		音楽	美術	歴史	写真	文学	演劇	書道	工芸	メディア芸術	舞踊	民俗芸能	茶道	華道	特に取り組んでいない	その他	無回答
年代	18歳～29歳 n=153	51.6	15.0	11.1	14.4	12.4	9.8	3.3	2.0	5.2	3.3	0.0	0.7	0.7	34.0	0.7	0.7
	30歳代 n=176	45.5	16.5	15.3	14.8	11.4	8.0	4.5	2.3	4.5	1.7	3.4	2.3	1.1	36.9	0.0	1.1
	40歳代 n=234	45.3	21.8	16.7	9.4	9.0	5.6	6.8	2.6	3.8	2.1	3.8	1.3	0.0	38.0	0.4	0.0
	50歳代 n=266	38.0	13.5	15.4	6.8	6.4	5.6	3.4	3.4	2.6	1.1	1.5	2.6	1.9	45.1	0.8	1.5
	60歳代 n=283	32.9	16.6	14.5	5.3	7.4	6.0	2.8	3.9	2.1	4.9	3.5	2.1	1.8	44.9	1.4	1.1
	70歳以上 n=322	26.7	16.1	10.9	5.9	3.7	5.0	4.0	4.0	1.6	2.8	1.9	2.2	3.4	46.9	1.2	4.0
職業	勤め人 n=773	42.3	16.4	16.6	9.2	7.9	8.2	4.1	2.6	3.6	2.5	2.8	2.2	0.4	39.7	0.5	1.0
	商工・サービス・自由業 n=123	41.5	24.4	17.9	8.9	9.8	1.6	4.1	5.7	2.4	1.6	2.4	1.6	4.9	33.3	0.8	2.4
	農林水産業 n=24	33.3	12.5	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	50.0	0.0	4.2
	家事専業 n=144	34.7	18.1	9.0	7.6	7.6	4.9	8.3	4.9	2.8	4.2	2.1	2.8	4.9	44.4	1.4	1.4
	学生 n=43	62.8	20.9	16.3	11.6	18.6	11.6	4.7	2.3	2.3	4.7	2.3	0.0	2.3	25.6	2.3	0.0
	無職 n=283	24.7	12.7	8.5	6.7	5.3	3.9	2.1	2.8	1.8	2.1	1.4	1.8	2.1	53.7	1.1	3.2
	その他 n=31	32.3	19.4	12.9	9.7	6.5	6.5	3.2	3.2	3.2	9.7	3.2	0.0	3.2	35.5	3.2	0.0



【問 21 と問 22 の設問間クロス集計】

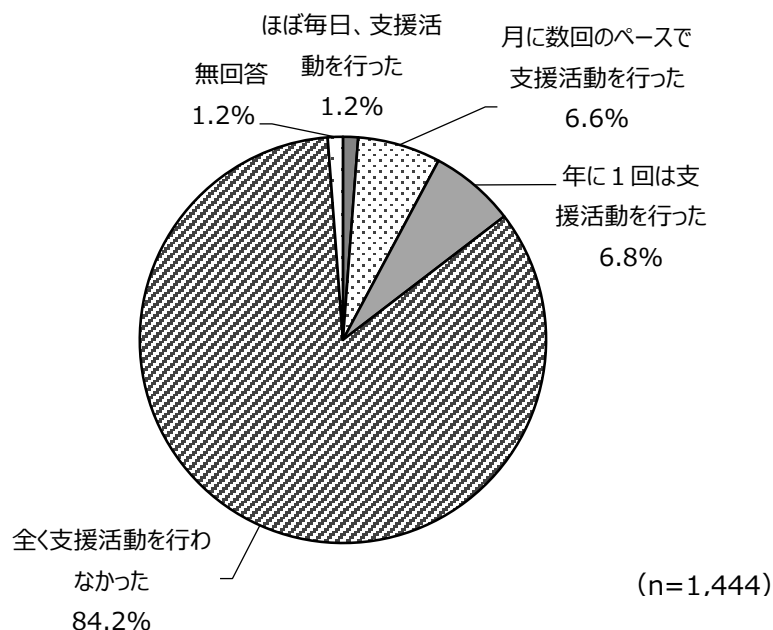
(単位：%)

		問21 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み					
		満足	どちらかといえば満足	どちらでもない	どちらかといえば不満	不満	無回答
問22 過去1年間に取り組んだ文化芸術	文学 n=111	15.3	35.1	36.9	6.3	6.3	0.0
	音楽 n=547	12.6	43.7	32.5	7.3	3.1	0.7
	美術 n=240	12.9	43.8	29.2	9.2	4.2	0.8
	写真 n=122	13.1	31.1	41.0	10.7	4.1	0.0
	演劇 n=90	11.1	43.3	35.6	5.6	2.2	2.2
	舞踊 n=39	23.1	38.5	25.6	10.3	2.6	0.0
	民俗芸能 n=35	22.9	54.3	14.3	8.6	0.0	0.0
	茶道 n=28	14.3	39.3	32.1	10.7	0.0	3.6
	華道 n=24	20.8	54.2	20.8	4.2	0.0	0.0
	書道 n=59	20.3	35.6	30.5	8.5	1.7	3.4
	工芸 n=47	14.9	42.6	34.0	6.4	0.0	2.1
	メディア芸術 n=43	25.6	30.2	39.5	2.3	2.3	0.0
	歴史 n=200	14.0	43.5	31.5	6.5	3.0	1.5
	その他 n=12	6.3	28.7	58.2	4.1	2.0	0.8

### 3-8 スポーツの推進について

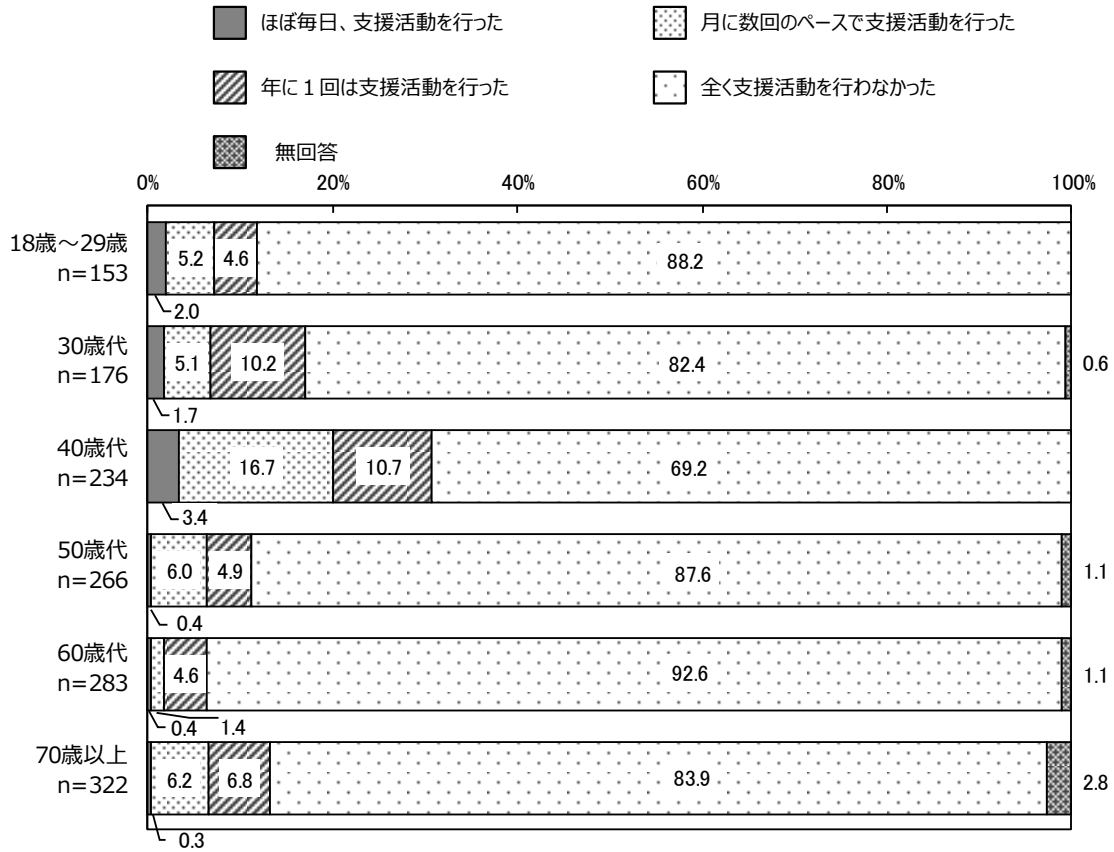
問23 あなたは、過去1年間にスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。  
(1つだけ○を付けてください)

スポーツ活動の支援を『年1回以上行った』人は14.6%

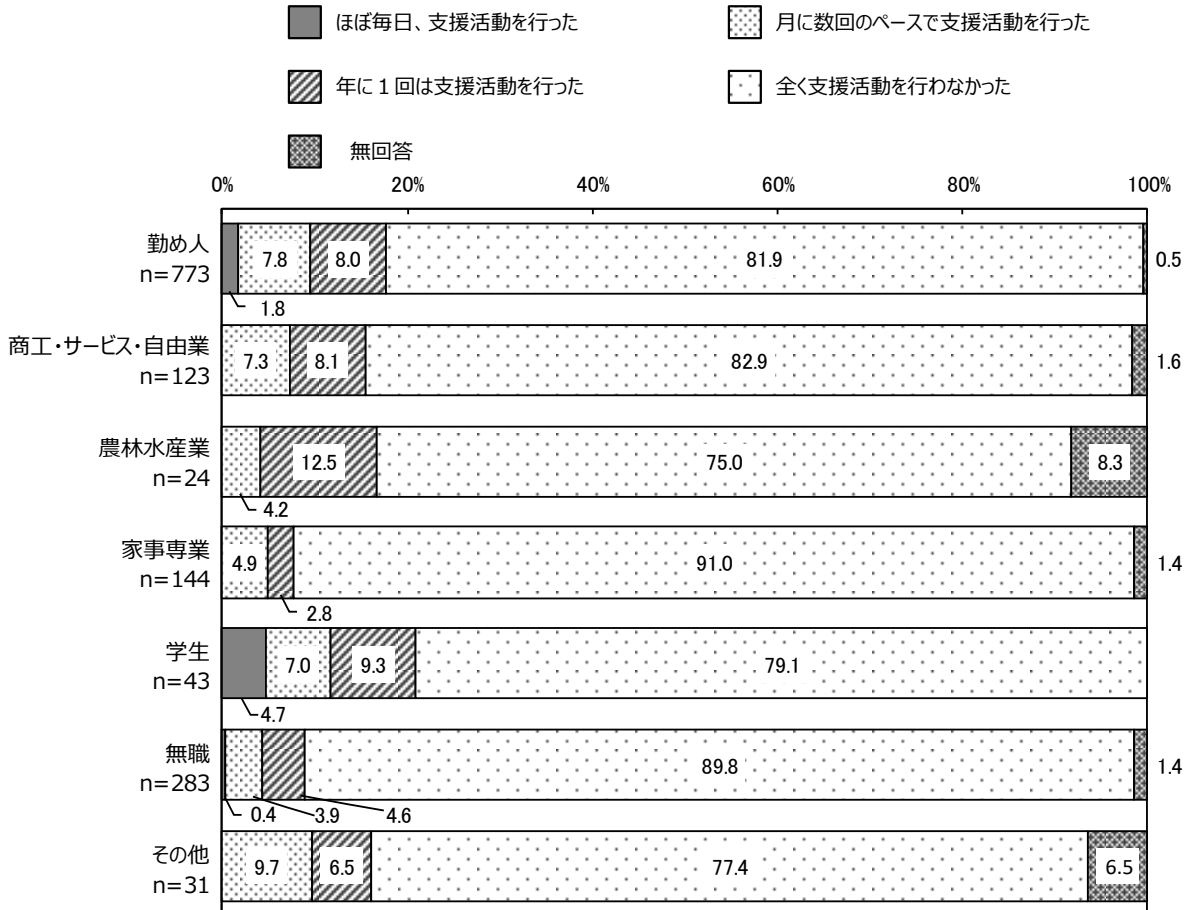


- 「ほぼ毎日、支援活動を行った」「月に数回のペースで支援活動を行った」「年に1回は支援活動を行った」を合わせた『年1回以上行った』は14.6%となり、「全く支援活動を行わなかった」の84.2%を大きく下回った。
- 年代別で見ると、すべての年代で「全く支援活動を行わなかった」が最も高い。一方で、40歳代では「ほぼ毎日、支援活動を行った」「月に数回のペースで支援活動を行った」「年に1回は支援活動を行った」の項目が他の年代と比べて最も高かった。
- 職業別で見ると、すべての職業で「全く支援活動を行わなかった」が最も高い。学生では「ほぼ毎日、支援活動を行った」が4.7%と他の職業と比べて最も高く、農林水産業では「年に1回は支援活動を行った」が12.5%と他の職業と比べて最も高かった。

【年代別】

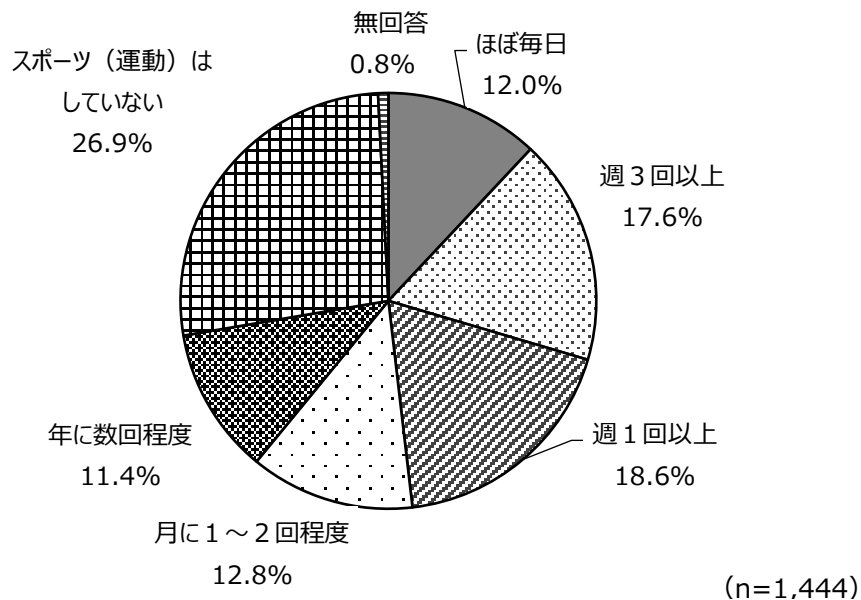


【職業別】



問 24 あなたは、過去1年間でスポーツ（運動）をどの程度行いましたか。  
（1つだけ○を付けてください）

スポーツ（運動）を『週1回以上』行った人は48.2%



- 「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」を合わせた『週1回以上』は48.2%となり、「月に1～2回程度」は12.8%、「年に数回程度」は11.4%となった。
- 年代別で見ると、18歳～29歳では「週1回以上」が24.2%と最も高く、それ以外の年代では「スポーツ（運動）はしていない」が最も高い。60歳代では「スポーツ（運動）はしていない」が36.7%と他の年代と比べて最も高かった。
- 職業別で見ると、学生以外では「スポーツ（運動）はしていない」が最も高く、学生では「ほぼ毎日」が32.6%と最も高い。農林水産業、家事専業、無職、その他では「スポーツ（運動）はしていない」が3割を超えた。

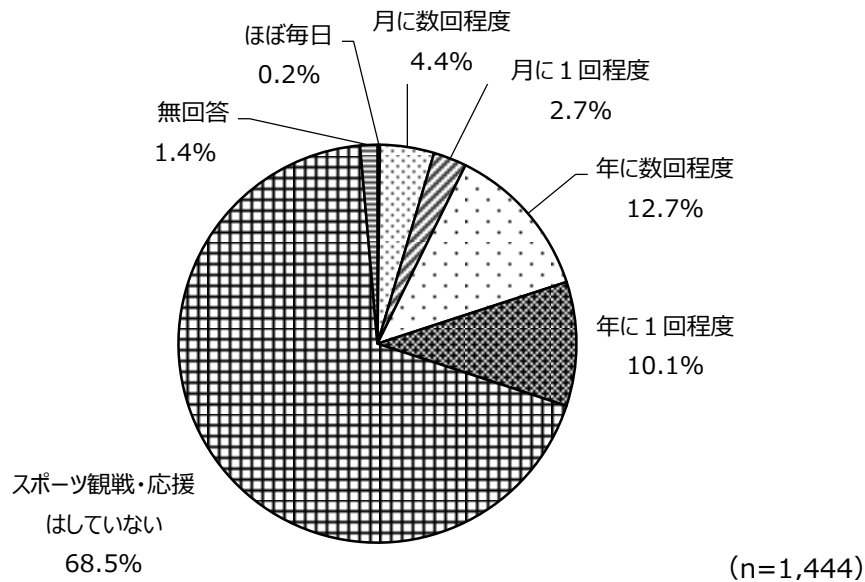
【年代別・職業別】

(単位：%)

		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月に1〜2回程度	年に数回程度	はスポーツ(運動)をしていない	無回答
年代	18歳～29歳 n=153	17.0	12.4	24.2	19.6	12.4	14.4	0.0
	30歳代 n=176	5.1	14.8	18.2	17.6	19.9	24.4	0.0
	40歳代 n=234	8.1	13.2	20.9	16.2	17.5	23.9	0.0
	50歳代 n=266	9.4	15.0	17.7	13.5	15.0	28.6	0.8
	60歳代 n=283	13.8	18.7	15.9	7.8	6.0	36.7	1.1
	70歳以上 n=322	16.5	26.1	17.7	8.4	3.7	26.1	1.6
職業	勤め人 n=773	8.4	14.7	19.9	15.8	15.4	25.4	0.4
	商工・サービス・自由業 n=123	17.1	15.4	16.3	13.0	11.4	26.0	0.8
	農林水産業 n=24	12.5	12.5	25.0	8.3	4.2	33.3	4.2
	家事専業 n=144	9.7	24.3	16.7	9.0	8.3	31.3	0.7
	学生 n=43	32.6	14.0	18.6	23.3	7.0	4.7	0.0
	無職 n=283	17.7	22.6	17.7	5.7	3.9	31.4	1.1
	その他 n=31	12.9	25.8	6.5	9.7	9.7	32.3	3.2

問 25 あなたは、過去1年間で実際に会場に出向いたスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。(1つだけ○を付けてください)

スポーツ観戦・応援を『年1回以上』行った人は30.1%



- 「ほぼ毎日」「月に数回程度」「月に1回程度」「年に数回程度」「年に1回程度」を合わせた『年1回以上』は30.1%となり、「スポーツ観戦・応援はしていない」の68.5%を下回った。
- 年代別で見ると、すべての年代で「スポーツ観戦・応援はしていない」が最も高い。18～29歳では「年に数回程度」「年に1回程度」がともに15.7%と他の年代と比べて高く、40歳代では「月に数回程度」が11.1%、「月に1回程度」が6.8%と他の年代と比べて高かった。
- 職業別で見ると、すべての職業で「スポーツ観戦・応援はしていない」が最も高い。「スポーツ観戦・応援はしていない」を除くと、無職以外では「年に数回程度」が最も高く、無職では「年に1回程度」が8.1%と最も高くなった。

【年代別・職業別】

(単位：%)

		ほぼ毎日	月に数回程度	月に1回程度	年に数回程度	年に1回程度	ない	スポーツ観戦・応援はしていない	無回答
年代	18歳～29歳 n=153	0.7	4.6	2.0	15.7	15.7	61.4	0.0	
	30歳代 n=176	0.0	5.7	1.1	11.9	9.1	71.0	1.1	
	40歳代 n=234	0.0	11.1	6.8	15.0	10.7	56.4	0.0	
	50歳代 n=266	0.4	4.9	3.4	12.8	10.9	66.5	1.1	
	60歳代 n=283	0.0	1.4	0.4	9.5	8.1	79.2	1.4	
	70歳以上 n=322	0.3	0.6	2.5	12.7	9.0	71.7	3.1	
職業	勤め人 n=773	0.3	6.0	3.2	14.1	11.6	64.2	0.6	
	商工・サービス・自由業 n=123	0.0	3.3	1.6	15.4	7.3	71.5	0.8	
	農林水産業 n=24	0.0	0.0	4.2	25.0	8.3	58.3	4.2	
	家事専業 n=144	0.0	2.1	2.1	8.3	7.6	79.2	0.7	
	学生 n=43	0.0	9.3	4.7	16.3	16.3	53.5	0.0	
	無職 n=283	0.4	1.1	2.1	6.7	8.1	79.2	2.5	
	その他 n=31	0.0	6.5	0.0	22.6	6.5	54.8	9.7	

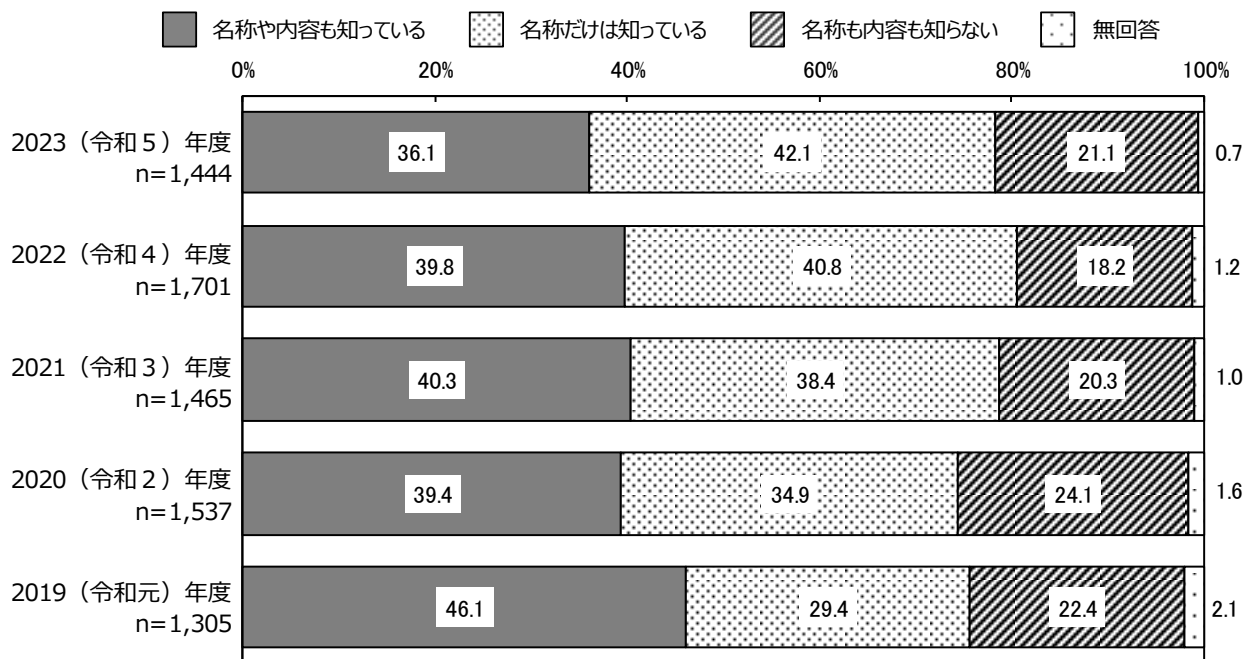
### 3-9 ユニバーサルデザイン・男女共同参画について

問 26 あなたは「ユニバーサルデザイン※」を知っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

※ ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全、安心で、快適な暮らしができるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていきこうとする考え方のことです。

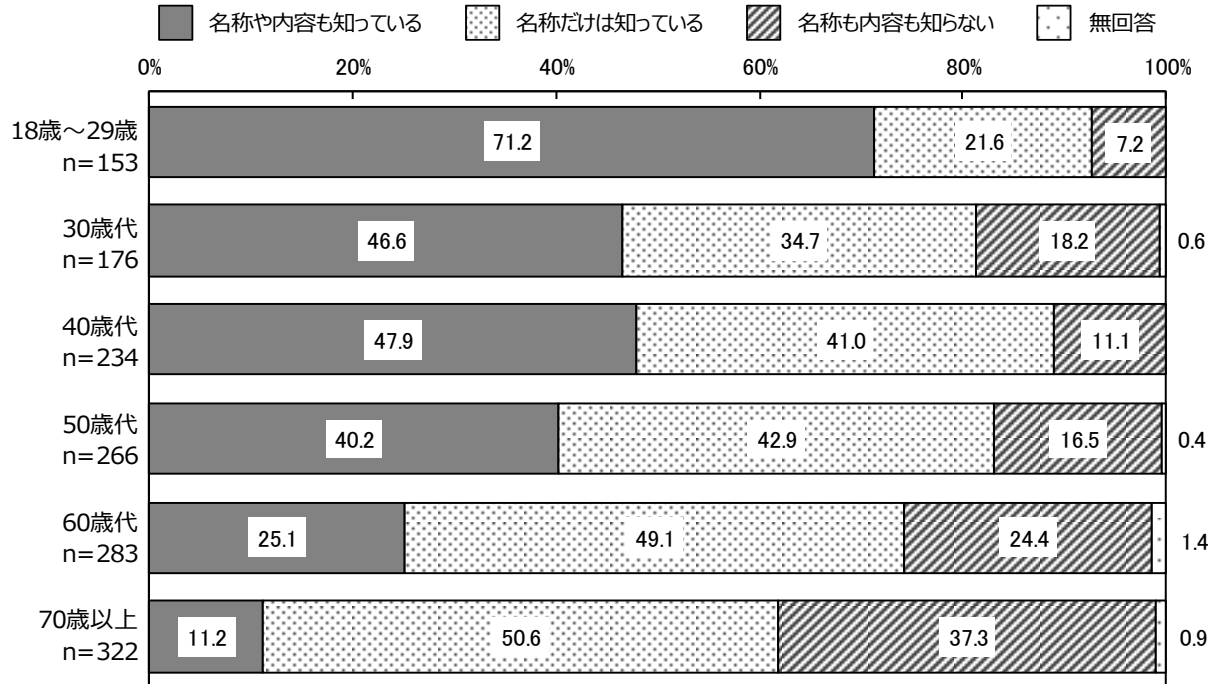
「ユニバーサルデザイン」を『知っている』人は 78.2%



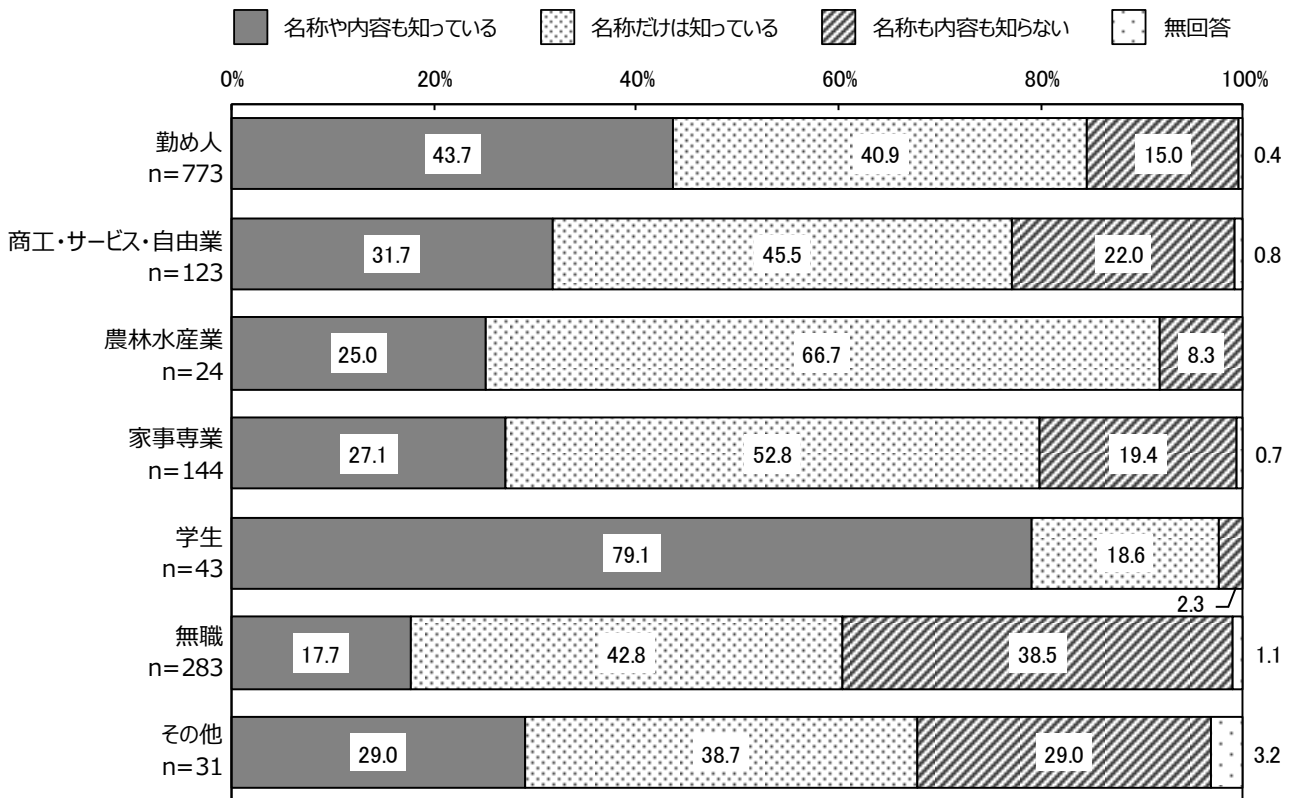
- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせたユニバーサルデザインを『知っている』は 78.2%となり、2022 (令和4) 年度と比較して 2.4 ポイントの減少となった。ユニバーサルデザインの理解度である「名称や内容も知っている」は 36.1%となり、2022 (令和4) 年度と比較して 3.7 ポイントの減少となった。
- 年代別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は 18 歳～29 歳が 71.2%と最も高く、40 歳代の 47.9%、30 歳代の 46.6%と続いた。年代が高くなるほど「名称や内容も知っている」割合が低くなる傾向がみられ、70 歳以上では 11.2%となった。
- 職業別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は、学生が 79.1%と最も高く、次いで勤め人の 43.7%となった。最も低い無職では 17.7%となり、最も高い学生とは 61.4 ポイントの差がみられた。



【年代別】



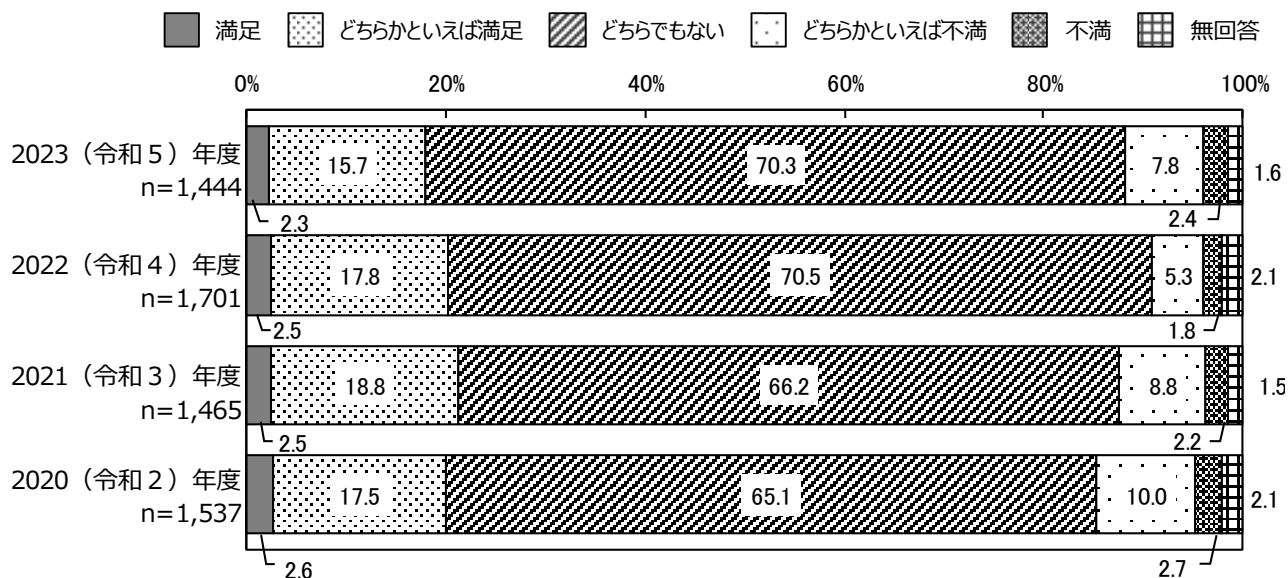
【職業別】



問 27 あなたは浜松市のユニバーサルデザインによるまちづくり※についてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

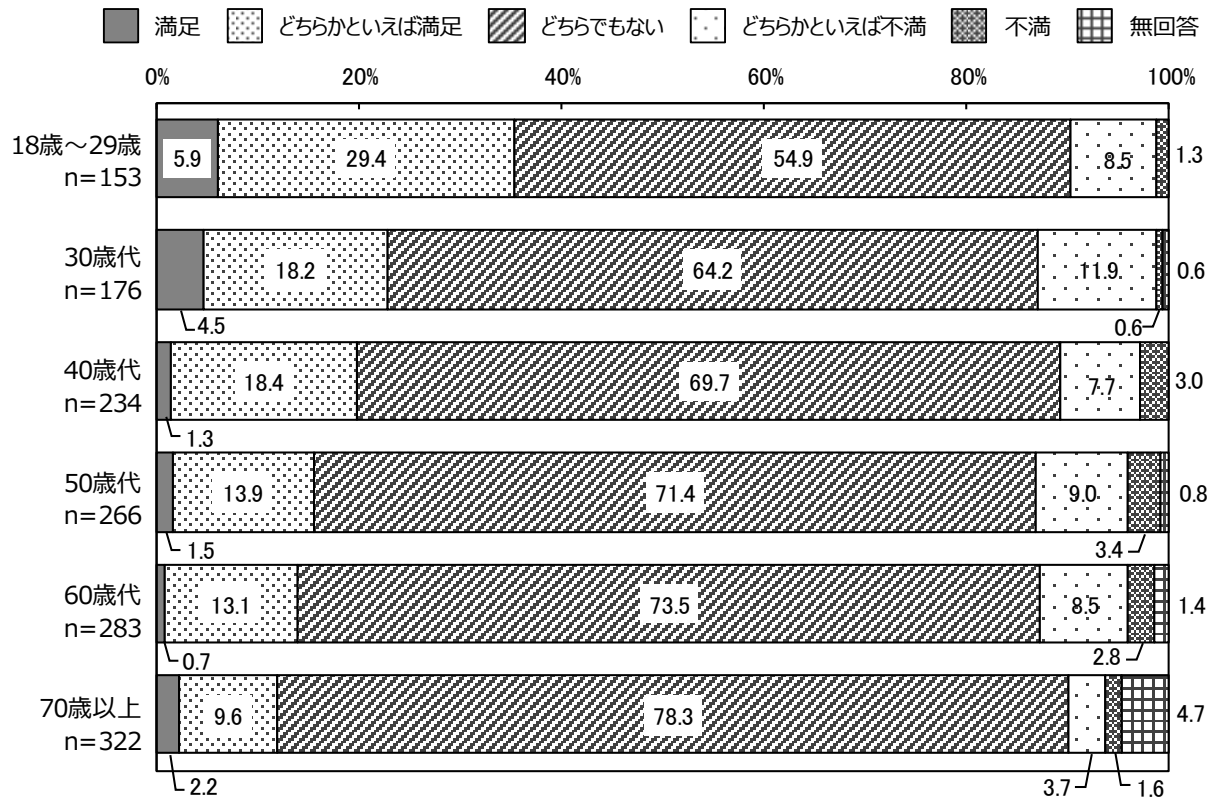
※ 浜松市では、施設や道路などにユニバーサルデザインを取り入れた環境を整備するとともに、市政情報や防災情報などの身近な生活情報を誰もが容易に受け取れるよう、さまざまな取り組みを行っています。

ユニバーサルデザインによるまちづくりに『満足している』人は18.0%

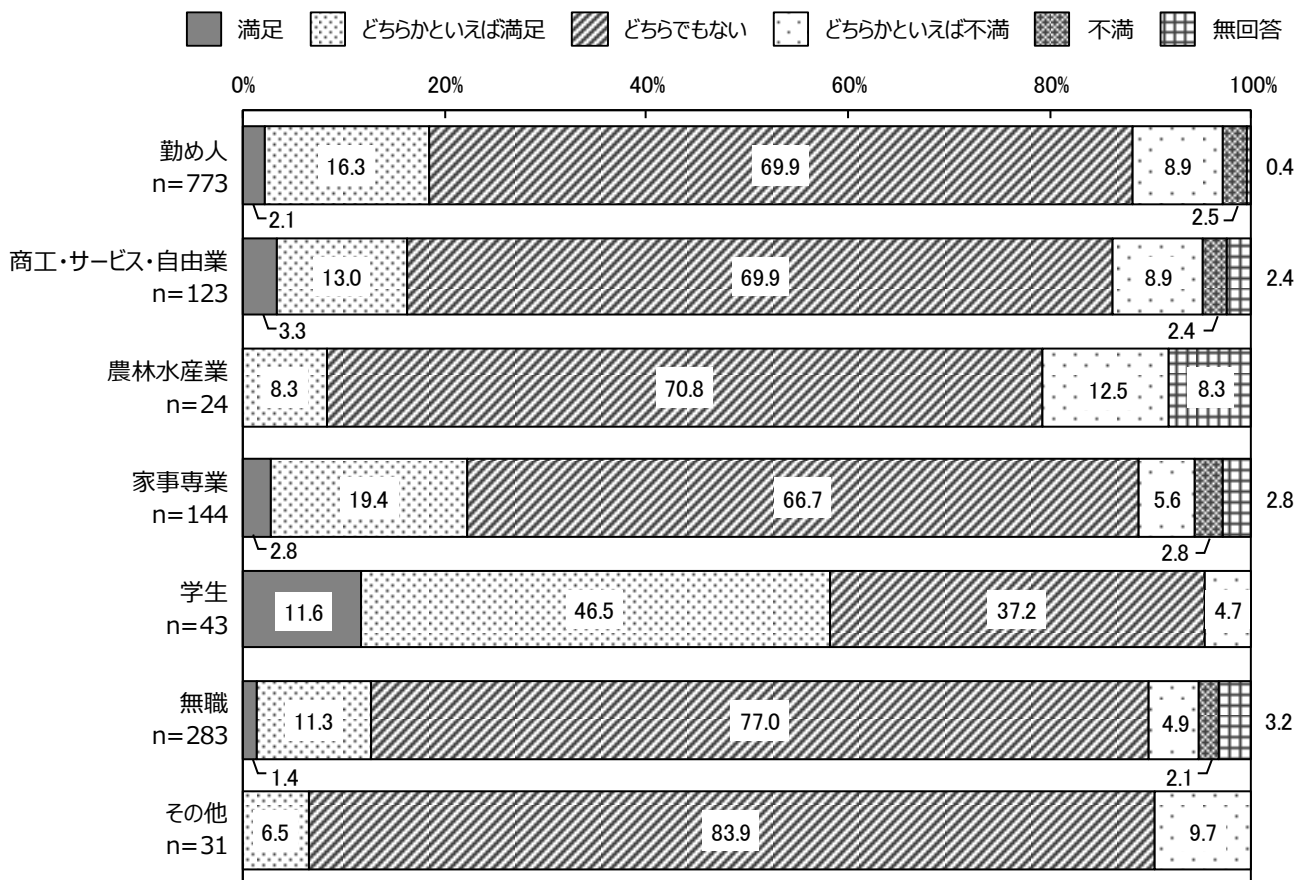


- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は18.0%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は10.2%となり、『満足している』が『不満である』を7.8ポイント上回り、2022(令和4)年度との比較では、『満足している』は2.3ポイントの減少となった。一方で「どちらでもない」は70.3%を占めた。
- 年代別で見ると、『満足している』と回答した割合は18歳～29歳の35.3%が最も高く、次いで30歳代が22.7%と続き、年代が高くなるほど『満足している』割合が低くなる傾向にある。
- 職業別で見ると、『満足している』と回答した割合は学生が58.1%と最も高く、次いで家事専業が22.2%となった。他の職業では2割を下回った。
- ユニバーサルデザインという名称は広く認知が進んできていることから、ユニバーサルデザインが一般的となり、改めて意識する機会が減少し関心が低下していることが推測される。今後は改めてユニバーサルデザインに対する認知や理解を深め、関心を広めていく取り組みが必要である。

【年代別】

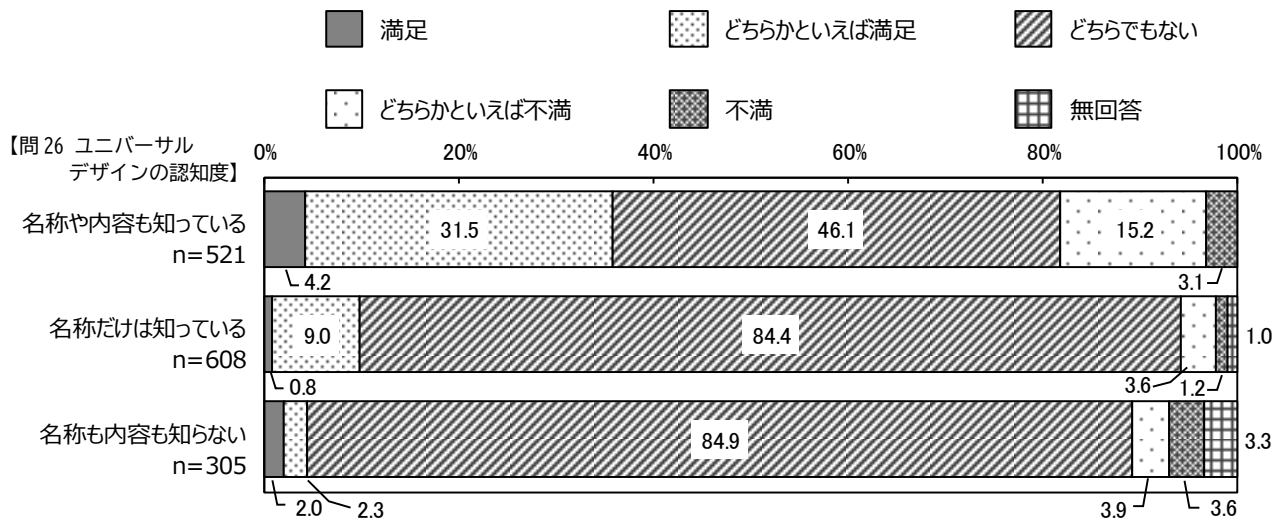


【職業別】



【問 26 と問 27 の設問間クロス集計】

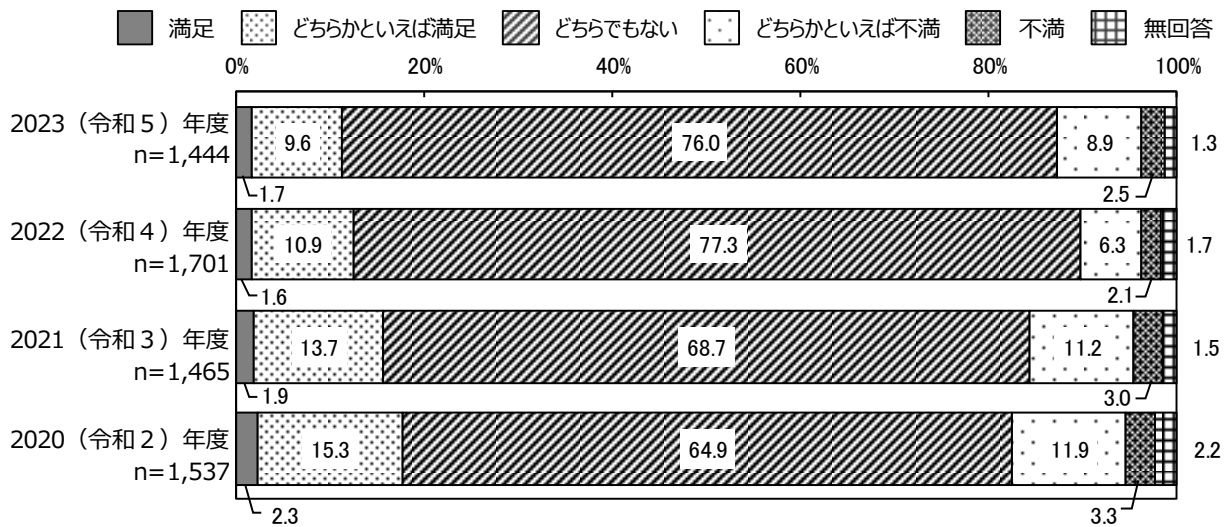
【問 27 ユニバーサルデザインによるまちづくりに対する満足度】



問 28 あなたは浜松市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組み<sup>※</sup>についてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

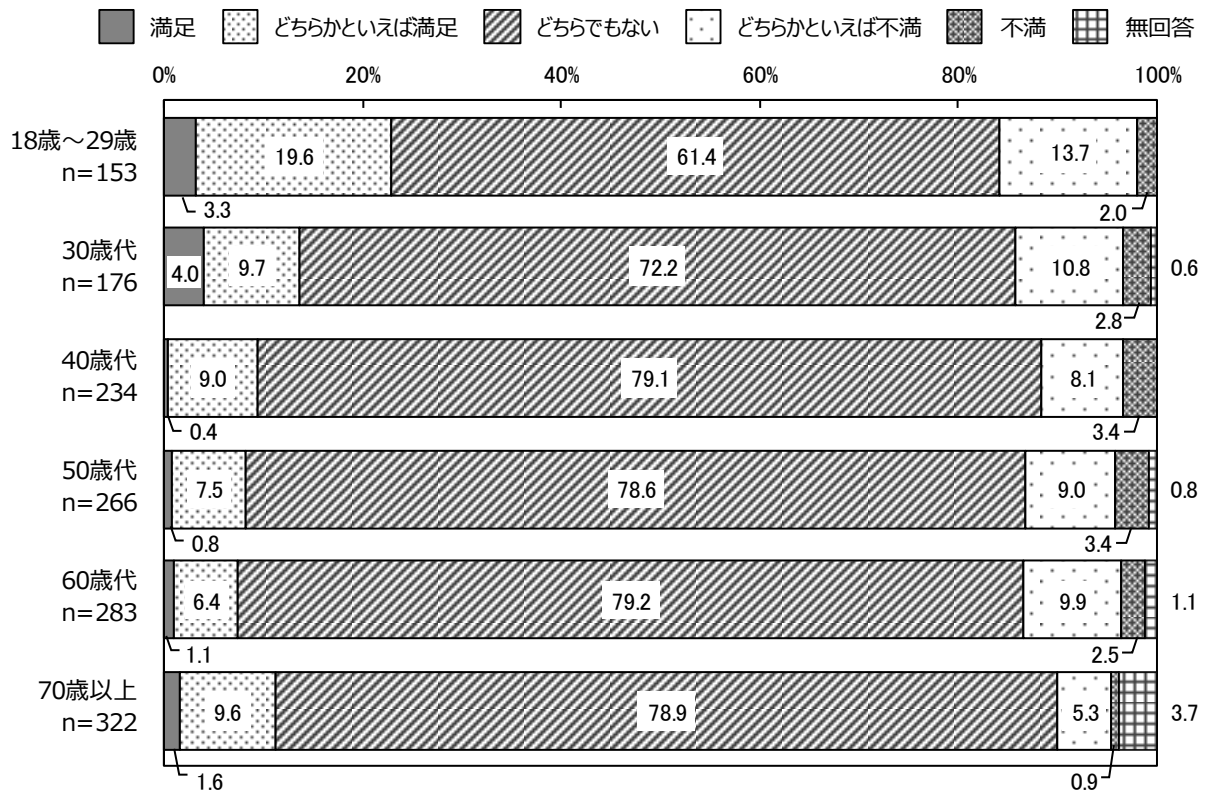
※ 浜松市では、男女共同参画を推進するための啓発講座や人材・団体育成支援、情報発信、相談事業など、さまざまな取り組みを行っています。

男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて『満足している』人は11.3%



- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は11.3%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は11.4%となり、『満足している』が『不満である』を0.1ポイント下回った。一方で「どちらでもない」は76.0%を占めた。2022(令和4)年度との比較では、『満足している』は1.2ポイント減少、『不満である』は3.0ポイント増加、「どちらでもない」は1.3ポイント減少となった。
- 年代別でみると、『満足している』と回答した割合は18歳～29歳の22.9%が最も高く、次いで30歳代が13.7%となった。最も低い60歳代が7.5%となり、最も高い18歳～29歳とは、15.4ポイントの差がみられた。
- 「どちらでもない」が76.0%と非常に大きな割合を占めることから、男女共同参画社会が身近なものとして感じられていないなどの理由が推察される。また、年代別において、『満足している』割合が18歳～29歳で最も高いのに対し、30歳代から60歳代にかけて年代が高くなるほど低い傾向があることから、若年層からの意識啓発を行うとともに、固定的性別役割分担意識が比較的強く残っていると推測される中高年層への意識啓発を図る取り組みを進める必要がある。

【年代別】

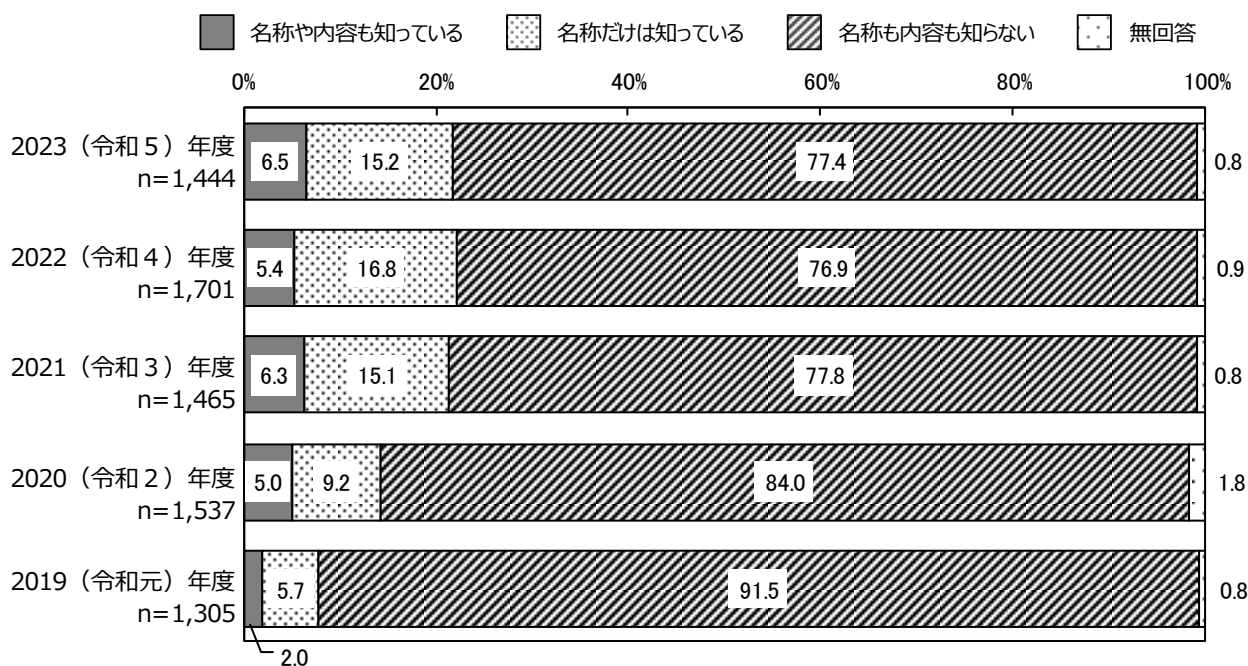


### 3-10 消費生活について

問 29 あなたは、「エシカル消費※」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

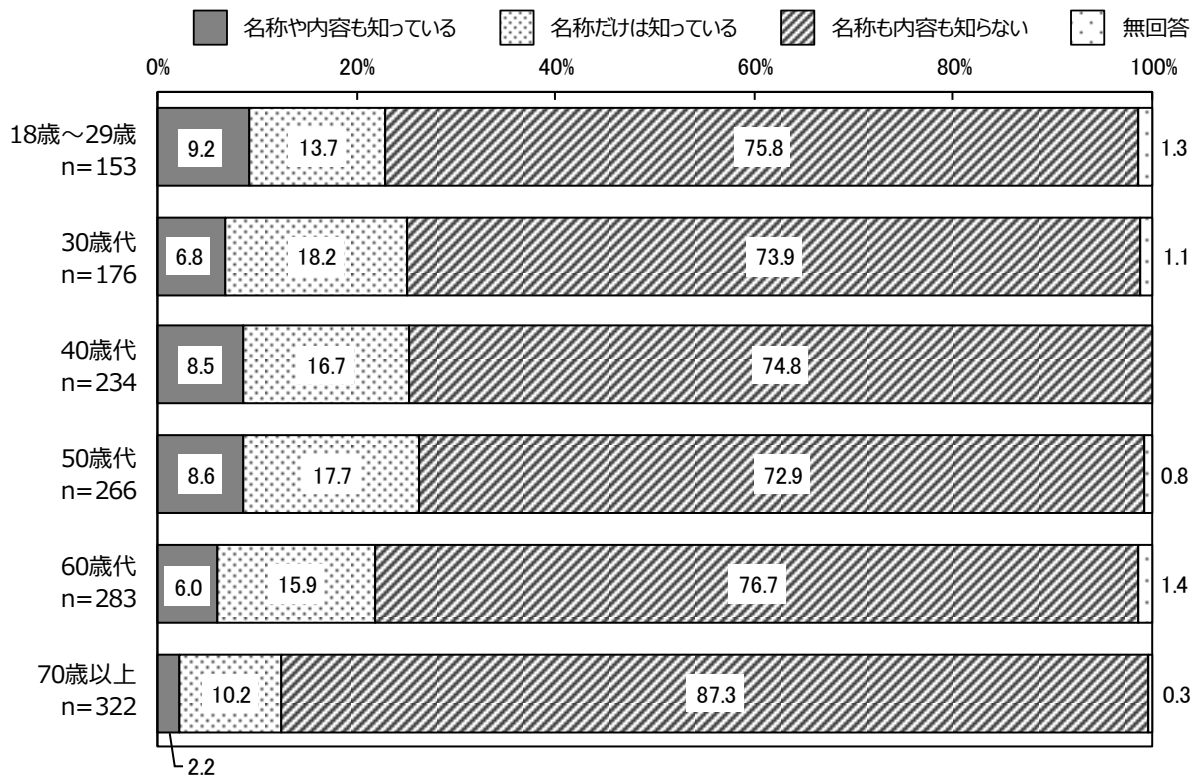
※エシカル消費とは、人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを選んで買い物をする事です。

「エシカル消費」を『知っている』人は21.7%

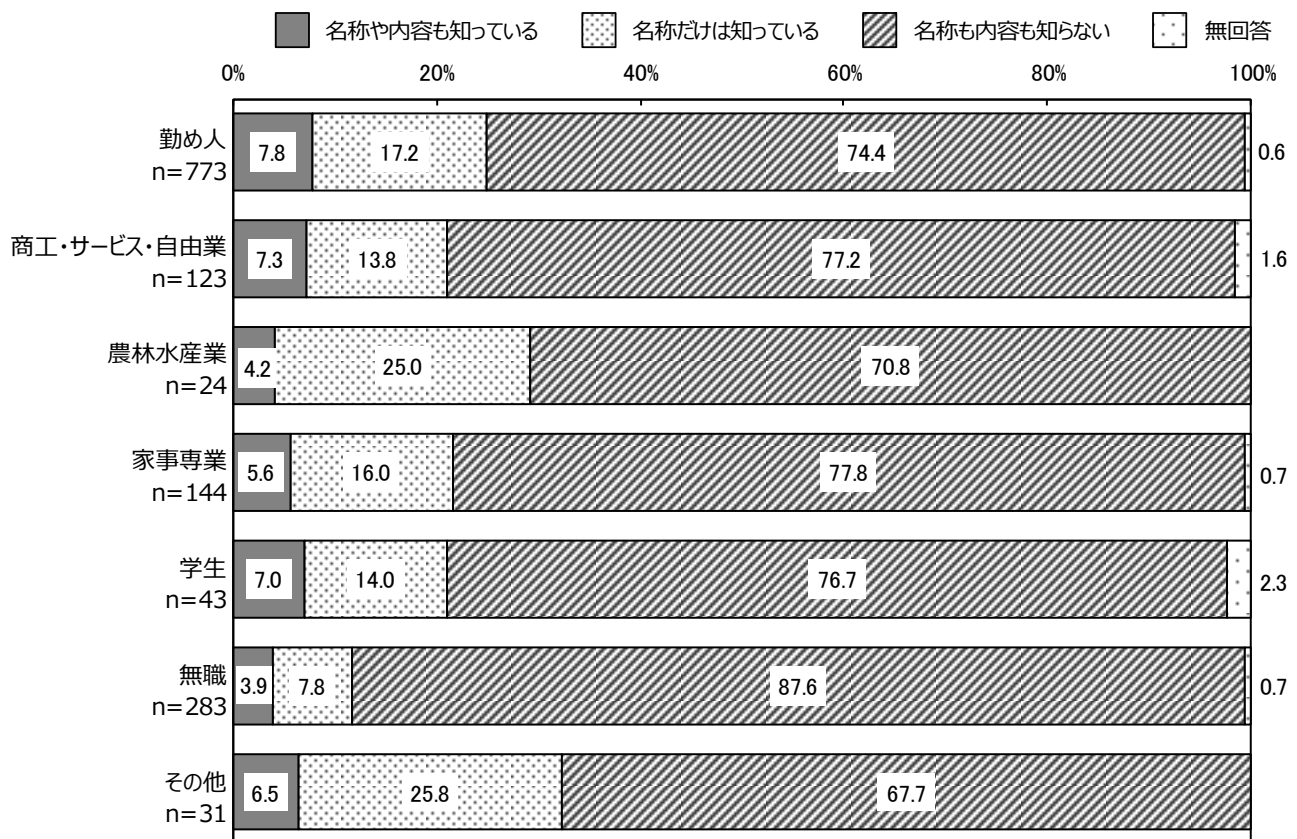


- 「名称や内容も知っている」が6.5%、「名称だけは知っている」が15.2%、「名称も内容も知らない」が77.4%となった。「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は21.7%となった。2022(令和4)年度との比較では、『知っている』は0.5ポイント減少となった。
- 年代別でみると、『知っている』は50歳代の26.3%が最も高く、次いで40歳代の25.2%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は70歳以上で87.3%と唯一8割を超えた。
- 職業別でみると、『知っている』は農林水産業の29.2%が最も高く、次いで勤め人の25.0%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は無職で8割を超えた。

【年代別】



【職業別】



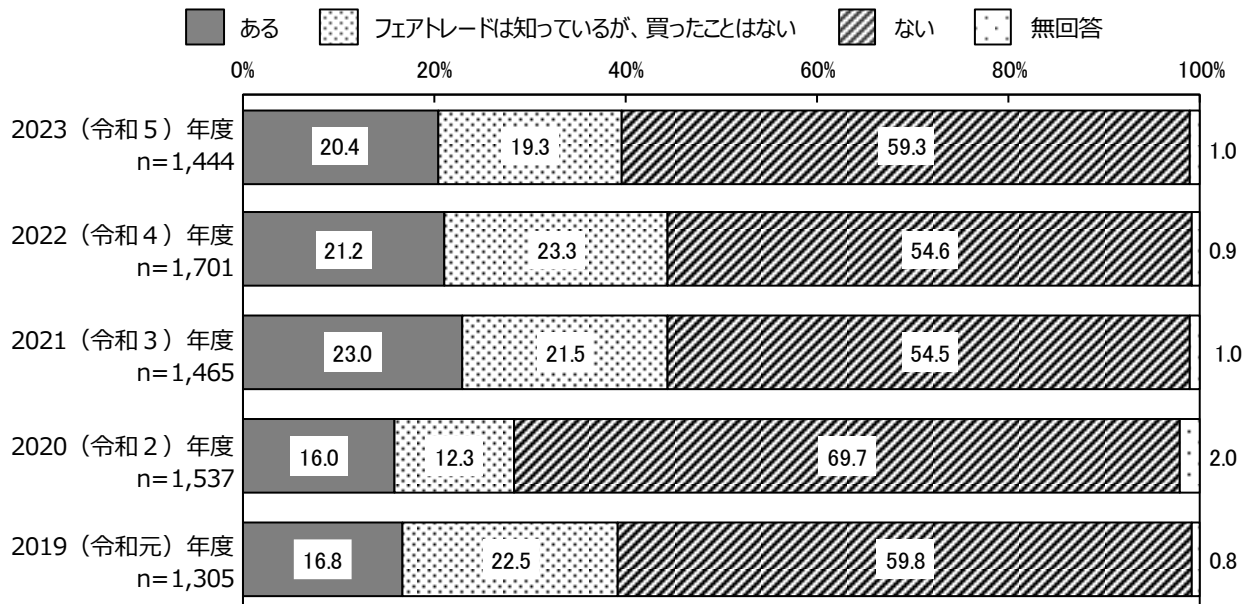


問 30 あなたは、フェアトレード※商品を買ったことがありますか。

(1つだけ○を付けてください)

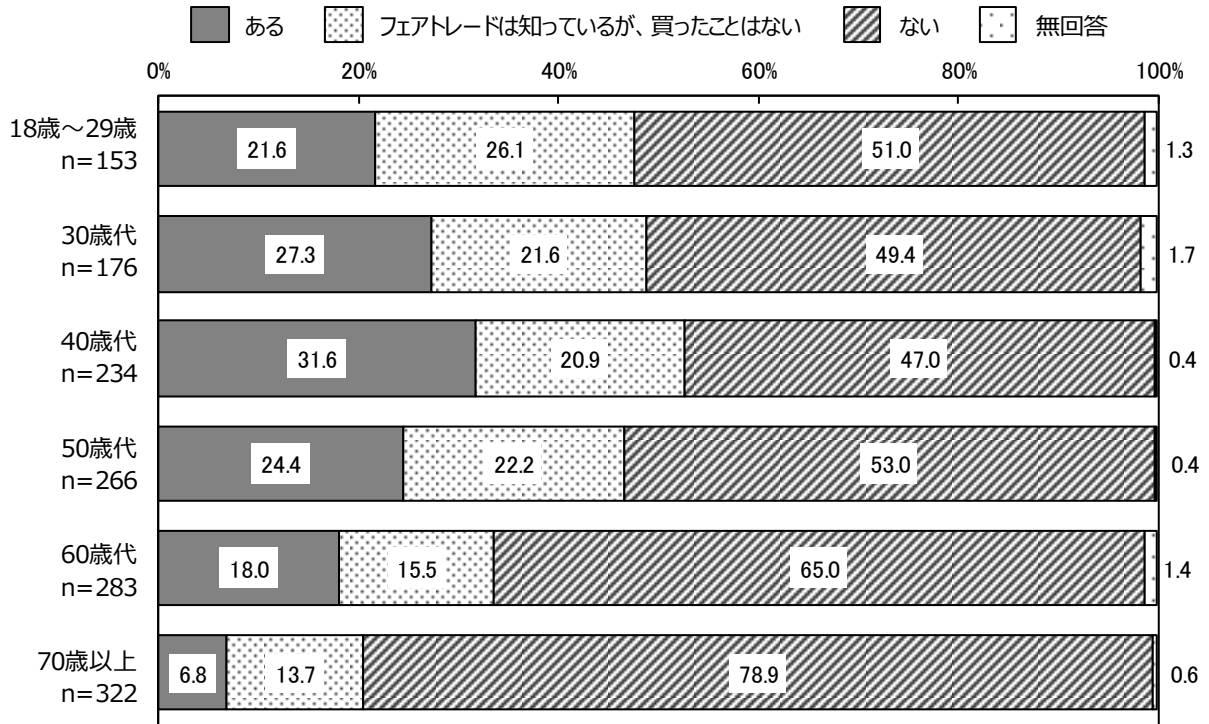
※ フェアトレードとは、開発途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取り引き」する「貿易のしくみ」により、立場の弱い小規模生産者や労働者の生活改善と自立を目指す取り組みです。

フェアトレード商品を買ったことが「ある」人は 20.4%

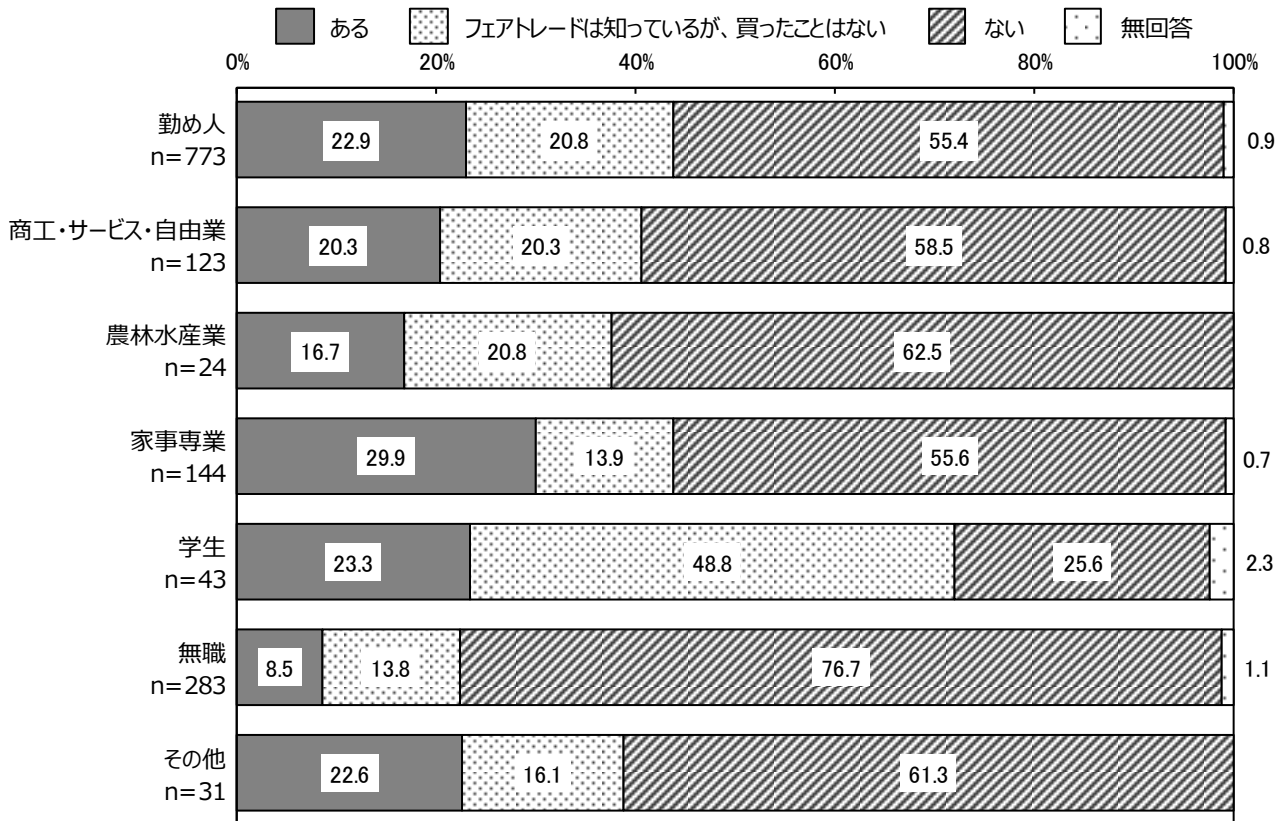


- 買ったことが「ある」が 20.4%、「フェアトレードは知っているが、買ったことはない」が 19.3%であり、この2項目を合わせたフェアトレードについての『認知度』は 39.7%となった。一方で、買ったことが「ない」は 59.3%となった。2022 (令和4) 年度との比較では、『認知度』は 4.8 ポイント低下した。
- 問 29 の「エシカル消費」の認知度の低さもあり、8 割弱で購入経験がないという回答となった。認知度は 60 歳代以上や、無職といった属性で 4 割を下回り、特に低くなっている。
- 年代別で見ると、『認知度』は 40 歳代の 52.5%が最も高く、次いで 30 歳代の 48.9%となった。40 歳代以上は年代が高いほど低くなる傾向がある。「ない」と回答した割合は 70 歳以上の 78.9%が最も高い。
- 職業別で見ると、『認知度』は学生の 72.1%が突出して高く、次いで勤め人の 43.7%となった。「ない」と回答した割合は学生を除いた職業で 5 割を超えた。

【年代別】



【職業別】

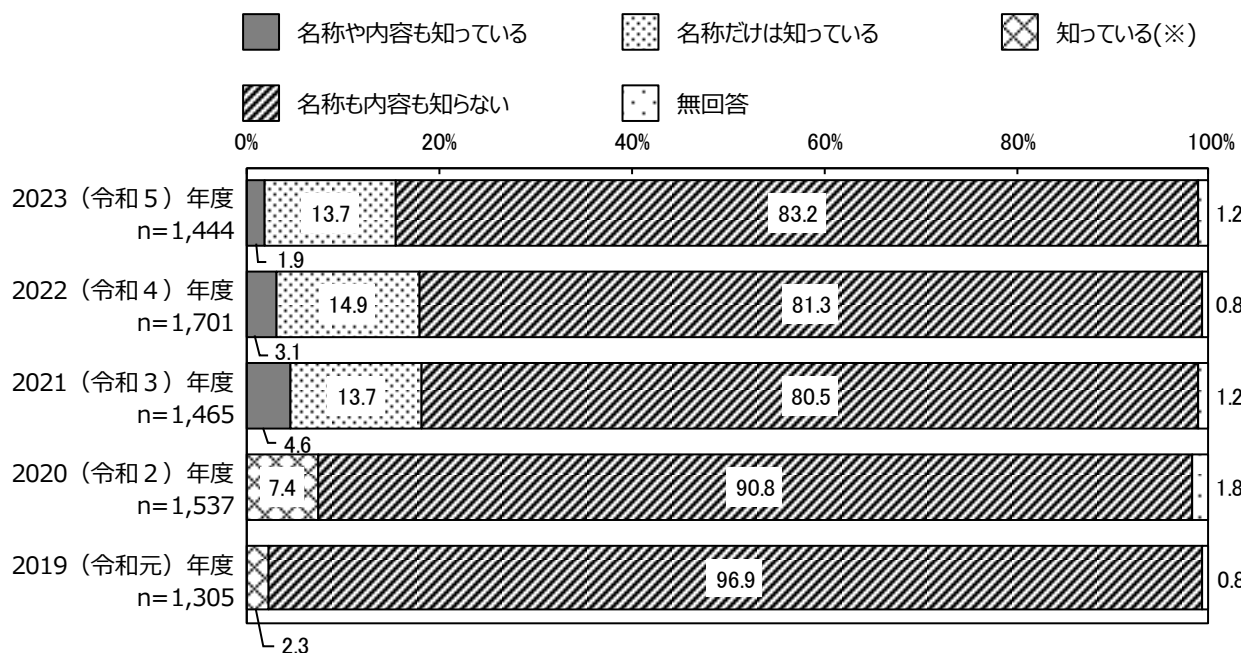


問 31 浜松市がフェアトレードタウン<sup>※</sup>であることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

※ フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレードの輪を広げていく自治体のことです。

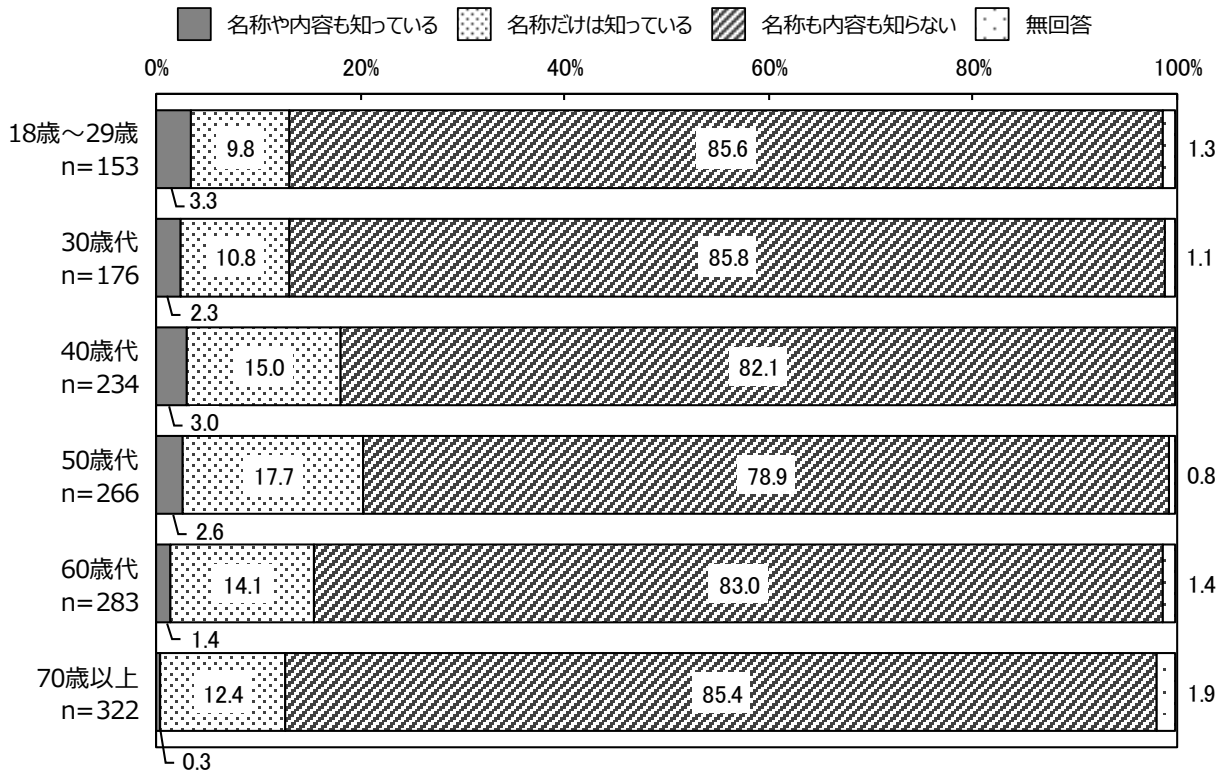
浜松市がフェアトレードタウンであることを『知っている』人は 15.6%



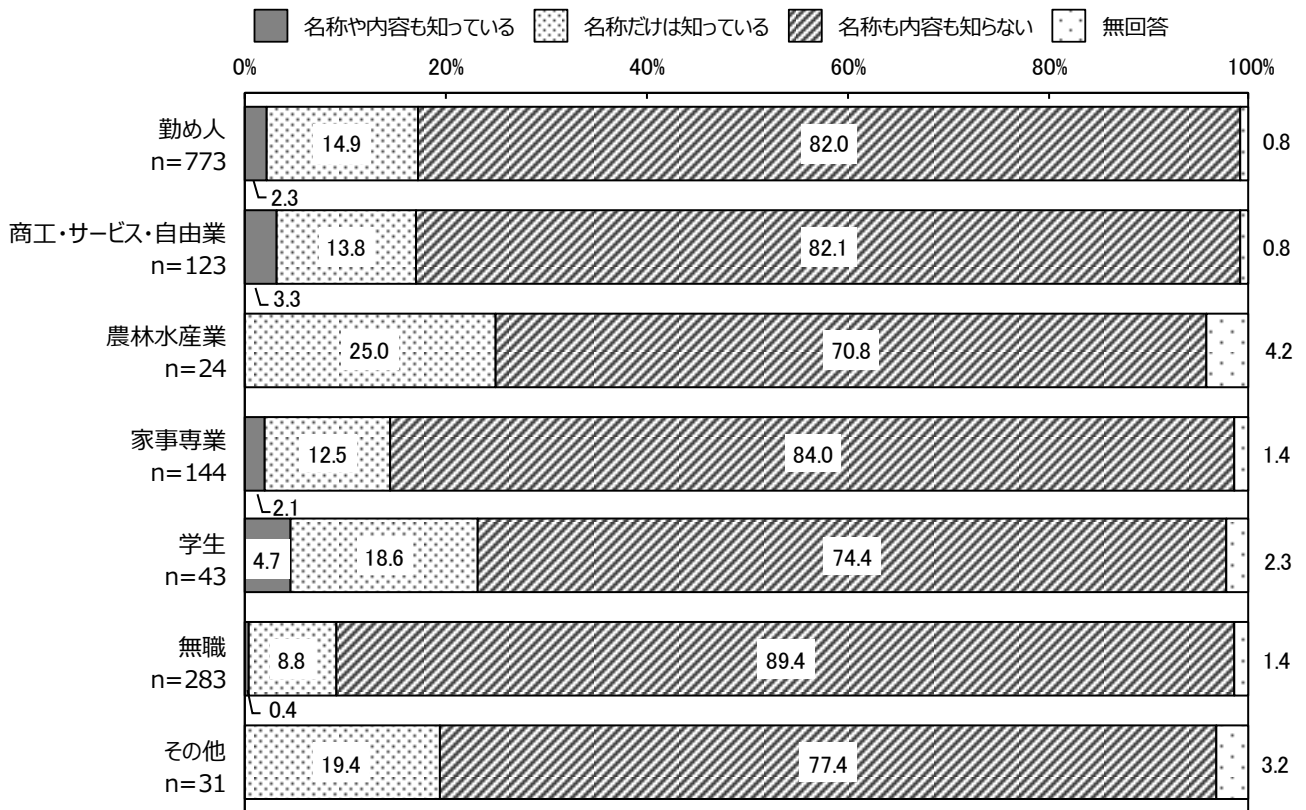
※ 2020 (令和2) 年度調査、2019 (令和元) 年度調査では、「名称や内容も知っている」「名称だけは知っている」が「知っている」に集約されている。

- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は 15.6% となり、「名称も内容も知らない」の 83.2% を大きく下回った。2022 (令和4) 年度との比較では、『知っている』が 2.4 ポイント低下した。
- 年代別で見ると、『知っている』は 50 歳代の 20.3% が最も高く、次いで 40 歳代の 18.0% となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合はすべての年代で 7 割を超え、30 歳代の 85.8% が最も高い。
- 職業別で見ると、『知っている』は農林水産業の 25.0% が最も高く、次いで学生の 23.3% となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合はすべての職業で 7 割を超え、無職の 89.4% が最も高い。
- 2019 (令和元) 年度から 2021 (令和3) 年度にかけて増加傾向だった認知度に歯止めがかかり、問 29 の「エシカル消費」の認知度と同様に、浜松市がフェアトレードタウンである認知度も全体で約 2 割と低くなっている。

【年代別】

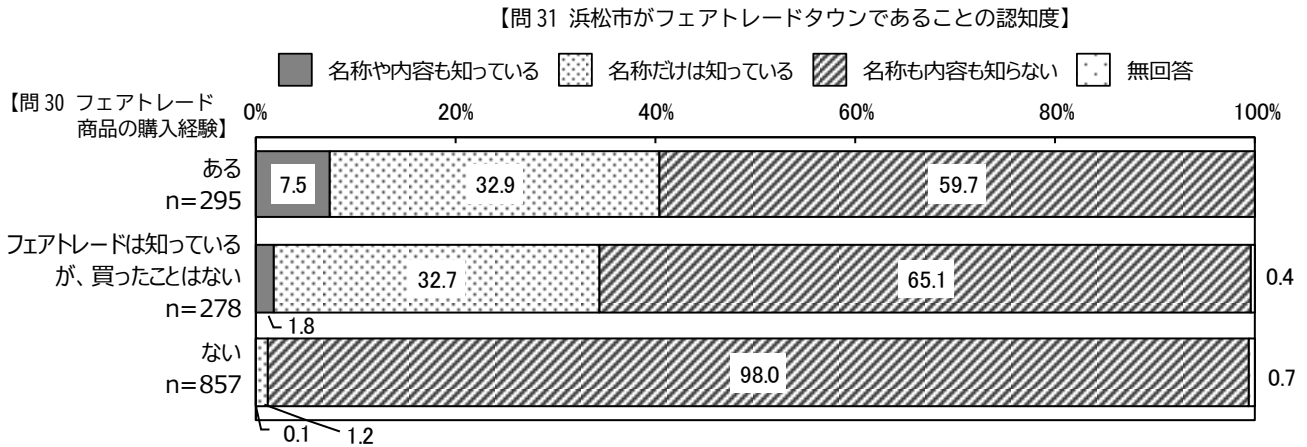


【職業別】



【問 30 と問 31 の設問間クロス集計】

- 問 30 の購入経験別にみると、『知っている』の割合は、購入経験が「ある」の場合では 40.4%、「フェアトレードは知っているが、買ったことはない」では 34.5%となっている。一方で購入経験が「ない」では 1.3%にとどまった。



### 3-11 みどりについて

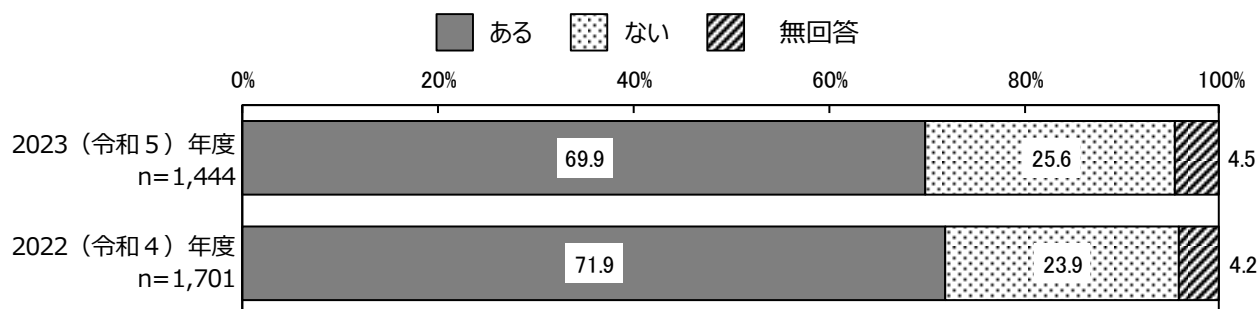
問 32 あなたは、次世代に残したいと思うみどり\*がありますか。

(「ある」に○を付けた方は、特に残したいと思うものを具体的に記入してください)

※ 湖や川などの自然や、公園なども含みます。

※ 参考：赤石山脈、猪鼻湖、遠州灘の海岸林、旧東海道松並木、県立森林公園、佐鳴湖、天竜川、天竜美林、富塚椎ノ木谷、浜名湖、浜名湖ガーデンパーク、浜松城公園、姫街道松並木、フラワーパーク、フルーツパーク、万葉の森公園、都田川桜堤、都田総合公園、雄踏総合公園、四ツ池公園、その他身近なみどり など

次世代に残したいと思うみどりが「ある」人は 69.9%

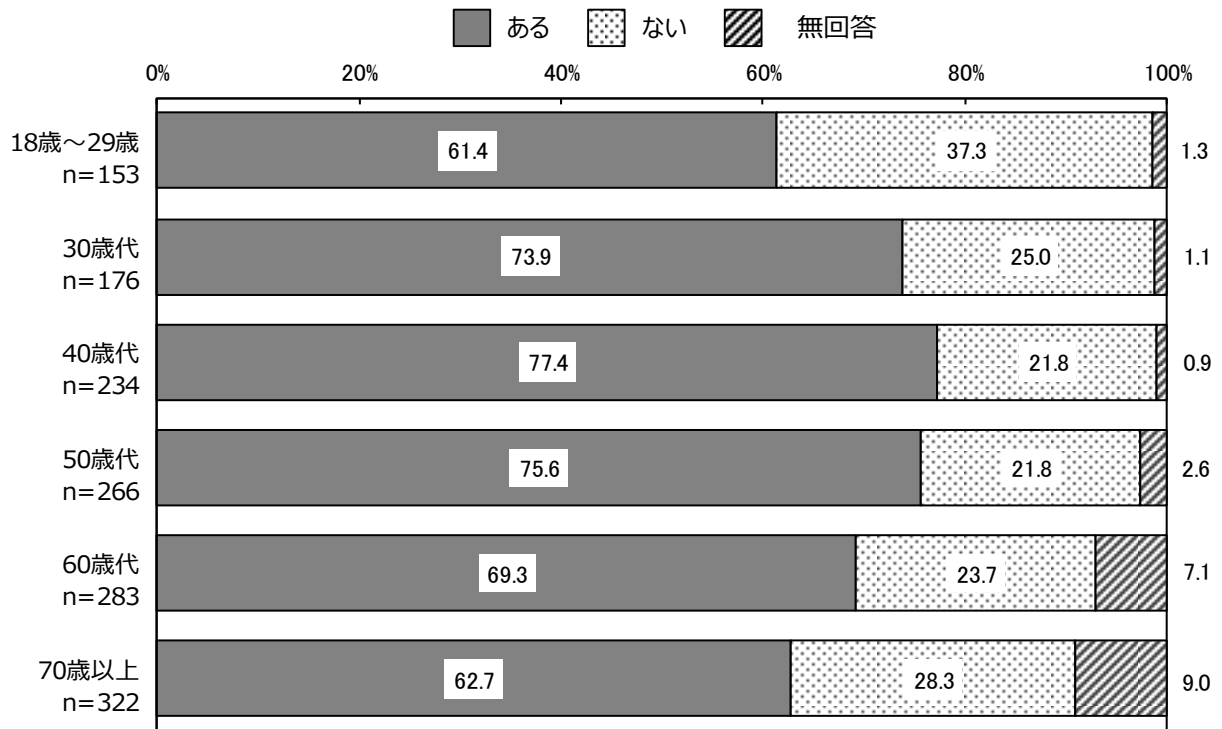


- 次世代に残したいと思うみどりが「ある」が 69.9%、「ない」が 25.6%となった。
- 年代別でみると、「ある」は 40 歳代の 77.4%が最も高く、次いで 50 歳代の 75.6%となった。18 歳～29 歳と 70 歳以上では 6 割台前半と、他の年代と比較してやや低い。「ない」と回答した割合は、18 歳～29 歳の 37.3%が最も高い。
- 職業別でみると、「ある」は農林水産業の 79.2%が最も高く、次いで家事専門の 78.5%となった。「ない」と回答した割合は、無職の 33.2%が最も高い。

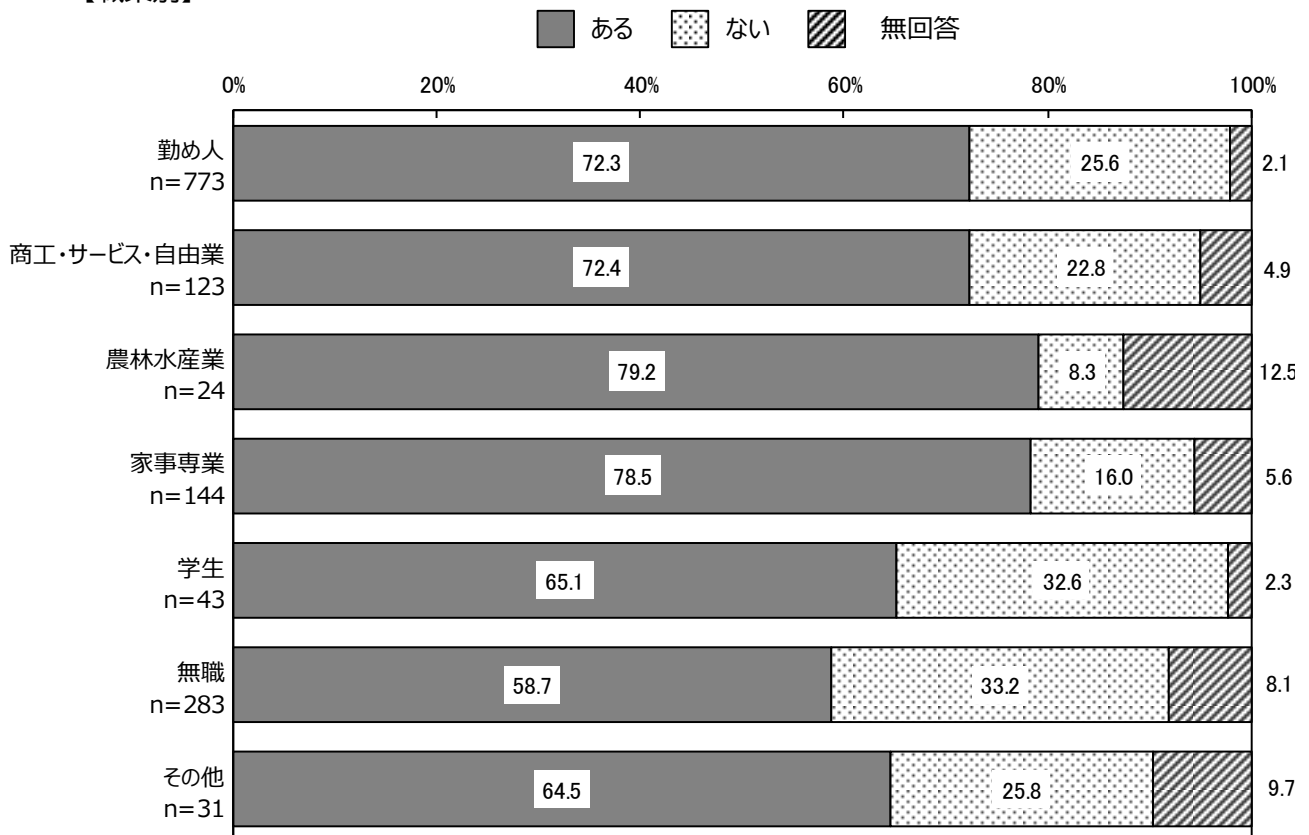
なお、具体的な名称としては、以下の回答が多数あった。(件数が多い順・複数回答あり)

- 浜名湖ガーデンパーク
- 浜名湖
- 浜松城公園
- 佐鳴湖
- 県立森林公園
- フラワーパーク
- 天竜川
- 天竜美林
- 遠州灘の海岸林
- 旧東海道松並木

【年代別】

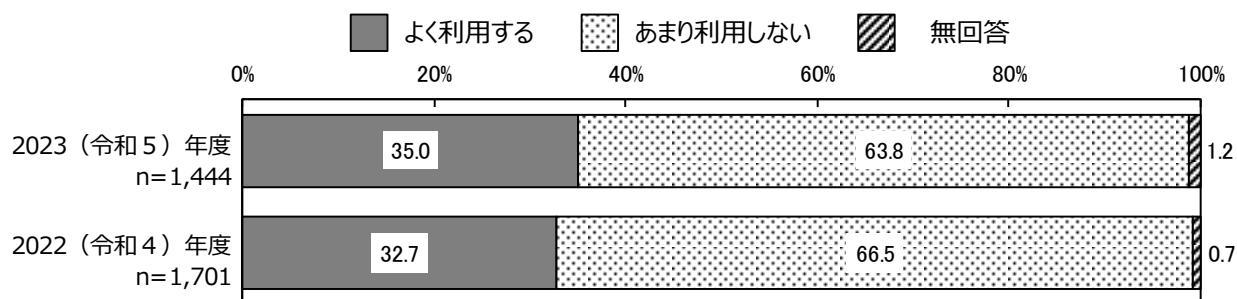


【職業別】



問 33 あなたは、市内の公園を利用しますか。(1つだけ○を付けてください)

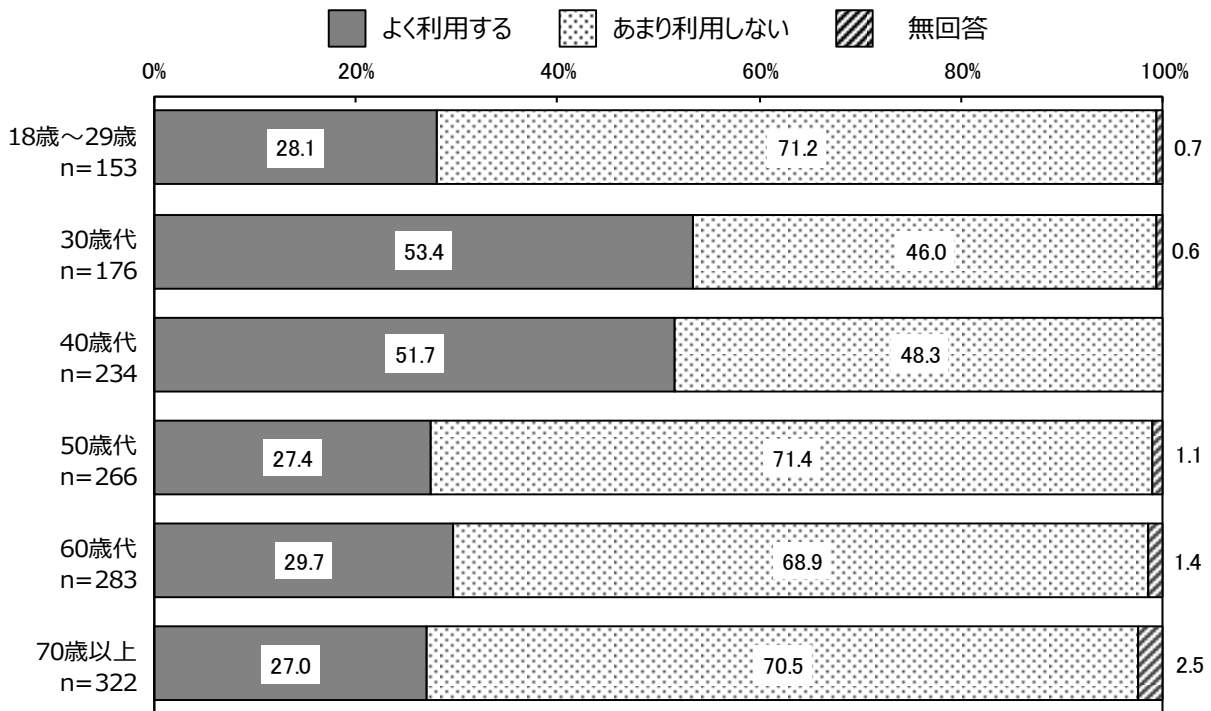
市内の公園を「よく利用する」人は 35.0%



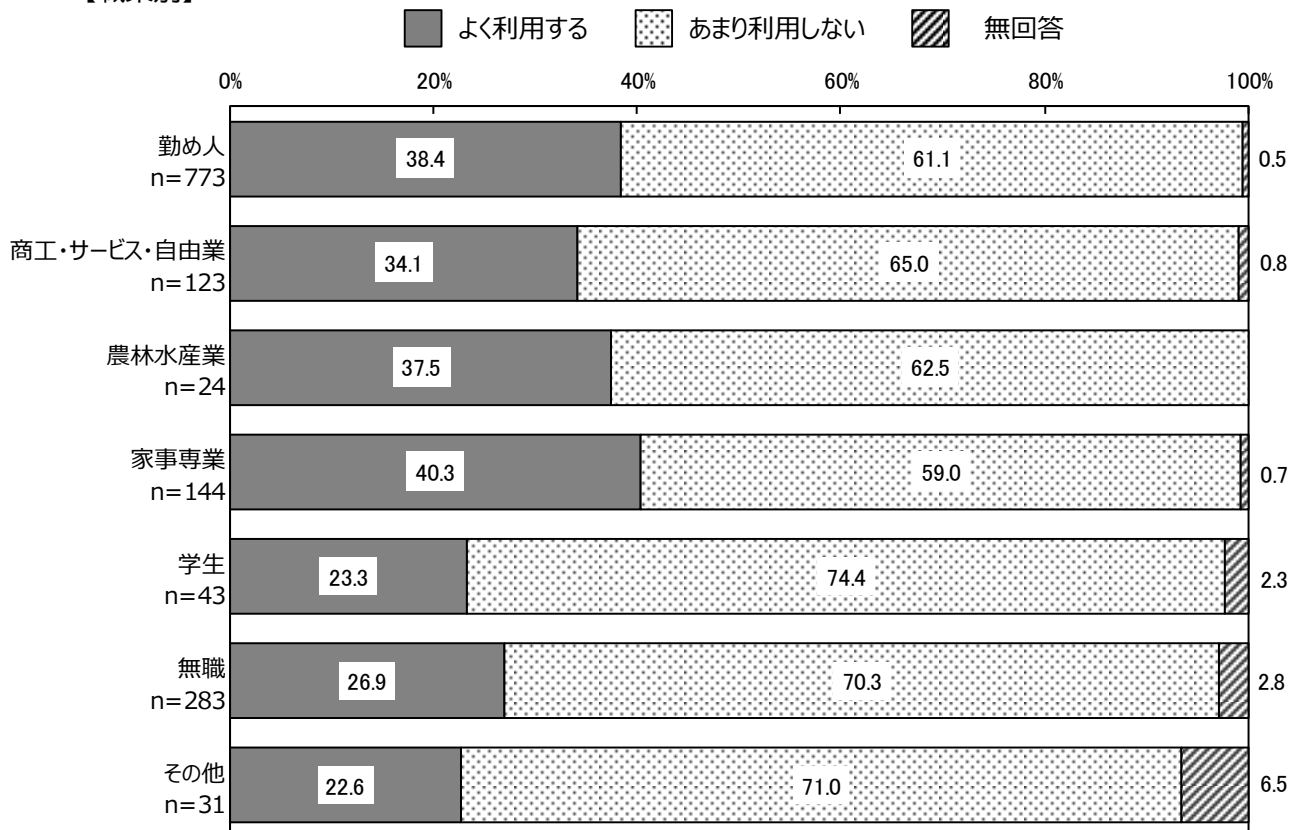
- 「よく利用する」が 35.0%、「あまり利用しない」が 63.8%となった。
- 年代別で見ると、「よく利用する」と回答した割合は、30 歳代の 53.4%が最も高く、次いで 40 歳代の 51.7%となった。他の年代では 2 割台となった。「あまり利用しない」と回答した割合は、50 歳代が 71.4%と最も高い。
- 職業別で見ると、「よく利用する」と回答した割合は、家事専業が 40.3%と最も高く、次いで勤め人が 38.4%となった。「あまり利用しない」と回答した割合は、学生が 74.4%と最も高い。



【年代別】

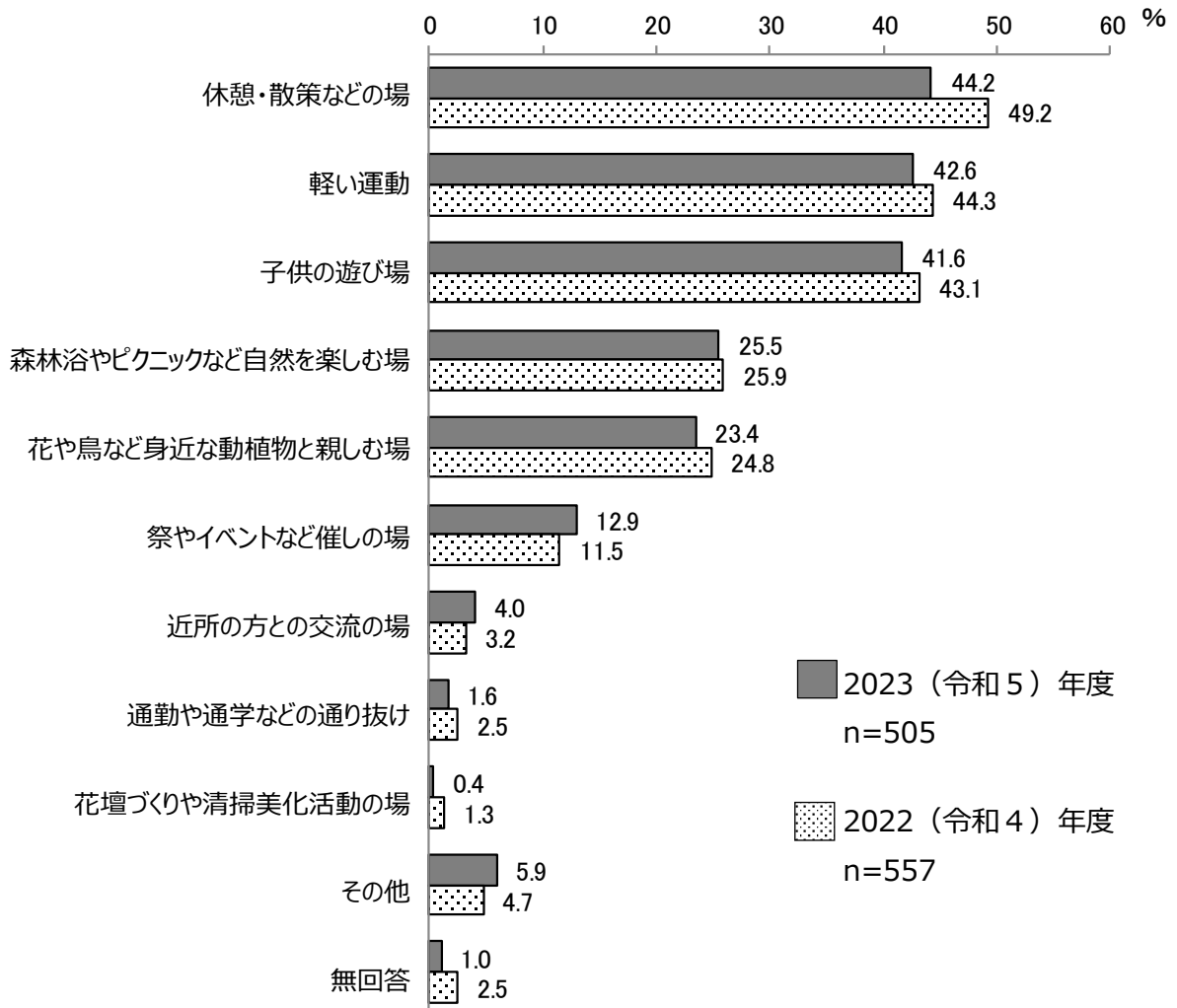


【職業別】



問34 問33で「1.よく利用する」と回答された方にお聞きします。主にどのような目的で利用しますか。(3つまで○を付けてください)

市内の公園の利用目的は「休憩・散策などの場」が44.2%



- 「休憩・散策などの場」が44.2%と最も高く、次いで「軽い運動」が42.6%、「子供の遊び場」が41.6%となった。
- 年代別で見ると、18歳～29歳、60歳代以上では「休憩・散策などの場」、30歳代から40歳代では「子供の遊び場」、50歳代では「軽い運動」がそれぞれ最も高い。30歳以上では年齢が高いほど「花や鳥など身近な動植物と親しむ場」割合が高い傾向がみられ、70歳以上では39.1%となった。
- 職業別で見ると、勤め人では「子供の遊び場」、商工・サービス・自由業、農林水産業、家事専業、学生、その他では「休憩・散策などの場」、無職では「軽い運動」がそれぞれ最も高い。

【年代別・職業別】

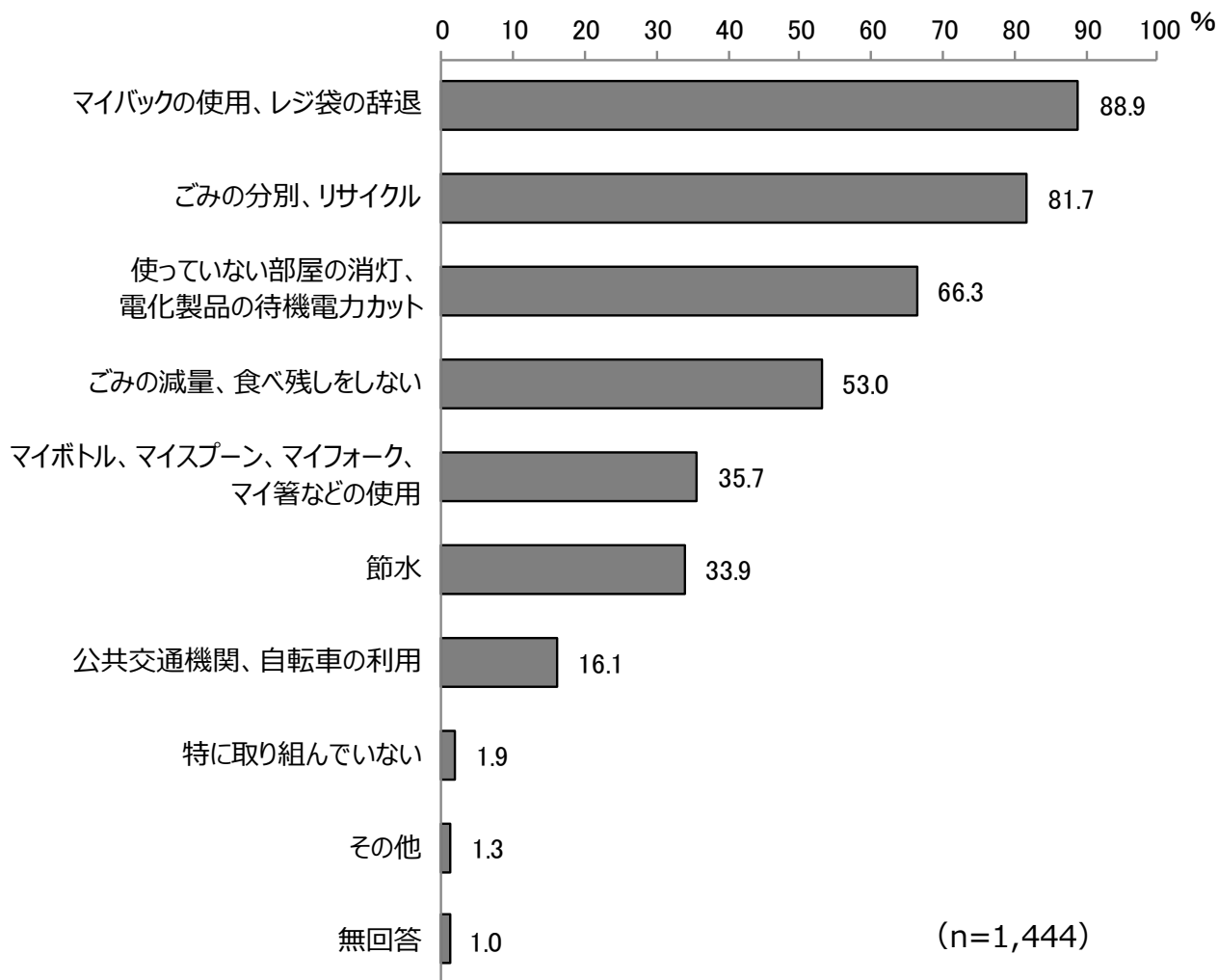
(単位：%)

		休憩・散策などの場	軽い運動	子供の遊び場	森林浴やピクニックなど自然を楽しむ場	親や鳥など身近な動植物と楽しむ場	祭やイベントなど催しの場	近所の方との交流の場	通勤や通学などの通り抜け	花壇づくりや清掃美化活動の場	その他	無回答
年代	18歳～29歳 n=43	51.2	44.2	20.9	23.3	18.6	9.3	7.0	4.7	2.3	9.3	0.0
	30歳代 n=94	21.3	29.8	78.7	30.9	12.8	11.7	1.1	0.0	0.0	3.2	2.1
	40歳代 n=121	37.2	35.5	59.5	25.6	12.4	16.5	3.3	0.0	0.0	4.1	1.7
	50歳代 n=73	46.6	50.7	27.4	27.4	23.3	5.5	2.7	2.7	0.0	12.3	0.0
	60歳代 n=84	61.9	47.6	23.8	23.8	38.1	14.3	2.4	3.6	0.0	1.2	0.0
	70歳以上 n=87	55.2	52.9	16.1	20.7	39.1	13.8	9.2	1.1	1.1	9.2	1.1
職業	勤め人 n=297	37.0	39.7	48.5	25.9	16.8	13.1	2.0	1.7	0.3	5.7	1.3
	商工・サービス・自由業 n=42	47.6	40.5	38.1	40.5	26.2	9.5	2.4	0.0	0.0	4.8	0.0
	農林水産業 n=9	55.6	44.4	33.3	22.2	22.2	22.2	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0
	家事専業 n=58	51.7	29.3	46.6	27.6	41.4	13.8	6.9	1.7	0.0	1.7	0.0
	学生 n=10	70.0	60.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0
	無職 n=76	56.6	60.5	19.7	18.4	31.6	9.2	6.6	1.3	1.3	7.9	1.3
	その他 n=7	85.7	57.1	14.3	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0

### 3-12 環境活動の実践について

問 35 あなたは、日常生活でどのような環境によい行動を実践していますか。  
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

日常生活で実践している環境によい行動は「マイバックの使用、レジ袋の辞退」が 88.9%



- 「マイバックの使用、レジ袋の辞退」が 88.9%と最も高く、次いで「ごみの分別、リサイクル」が 81.7%、「使っていない部屋の消灯、電化製品の待機電力カット」が 66.3%となった。
- 年代別で見ると、すべての年代で「マイバックの使用、レジ袋の辞退」が最も高い。特に 60 歳代以上は高く、9 割を超えた。「ごみの分別、リサイクル」は年代が高いほど割合が高くなる傾向がある。
- 職業別で見ると、すべての職業で「マイバックの使用、レジ袋の辞退」が最も高い。学生では節水が 25.6%と他の職業と比べて最も低い一方で、「公共交通機関、自転車の利用」は 48.8%と最も高くなった。

【年代別・職業別】

(単位：%)

		マイバツクの使用、レジ袋の辞退	ごみの分別、リサイクル	電化製品の待機電力カット、使っていない部屋の消灯、	ごみの減量、食べ残しをしない	マイボトル、マイ箸などの使用	マイフオルク、マイスプーン、	節水	公共交通機関、自転車の利用	特に取り組んでいない	その他	無回答
年代	18歳～29歳 n=153	83.0	59.5	54.9	48.4	32.7	24.2	25.5	3.3	1.3	0.0	
	30歳代 n=176	88.1	73.3	65.9	52.3	43.8	25.0	15.3	1.7	1.7	0.6	
	40歳代 n=234	88.5	81.6	64.5	47.4	35.5	23.1	12.8	2.6	0.9	0.0	
	50歳代 n=266	89.5	85.0	68.0	54.1	41.0	33.8	11.3	1.5	0.4	0.8	
	60歳代 n=283	90.5	87.6	67.5	50.5	37.5	36.4	17.0	2.1	1.8	1.1	
	70歳以上 n=322	91.3	89.4	70.8	62.1	27.6	49.7	18.0	1.2	1.9	2.2	
職業	勤め人 n=773	89.3	79.2	64.0	48.8	39.3	27.0	13.6	1.8	0.8	0.4	
	商工・サービス・自由業 n=123	87.8	85.4	68.3	54.5	32.5	42.3	12.2	1.6	4.1	0.8	
	農林水産業 n=24	91.7	87.5	45.8	54.2	20.8	45.8	4.2	8.3	0.0	0.0	
	家事専業 n=144	97.2	91.7	75.7	64.6	41.0	47.2	15.3	0.0	2.1	0.7	
	学生 n=43	76.7	62.8	46.5	60.5	30.2	25.6	48.8	4.7	2.3	0.0	
	無職 n=283	86.2	84.5	70.7	58.0	27.2	42.4	21.6	2.1	1.4	2.5	
	その他 n=31	90.3	83.9	74.2	51.6	41.9	35.5	12.9	3.2	0.0	3.2	

【問 35 と問 36 の設問間クロス集計】

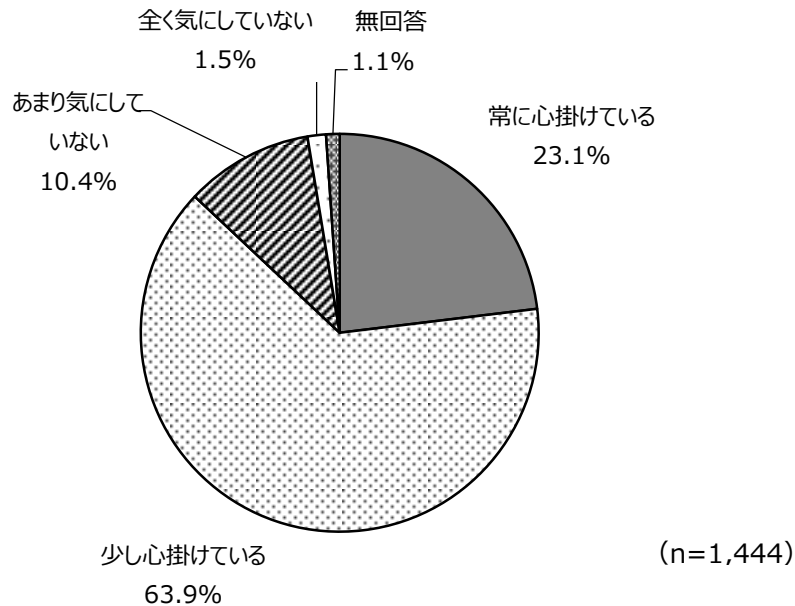
- 問 36 の環境のことを心掛けている程度別でみると、「常に心掛けている」では「マイバックの使用、レジ袋の辞退」が 94.3%と最も高く、環境のことを心掛けている程度が高いほど割合が高い傾向がある。また、「全く気にしていない」では「特に取り組んでいない」が 28.6%となり、環境のことを心掛けている程度全体の中で最も高くなった。

(単位：%)

		問35 日常生活で実践している環境により行動									
		マイバックの使用、レジ袋の辞退	ごみの分別、リサイクル	電化製品の待機電力カット、使っていない部屋の消灯、	ごみの減量、食べ残しをしない	マイボトル、マイ箸などの使用	節水	公共交通機関、自転車の利用	特に取り組んでいない	その他	無回答
問 36 環境のことをどの程度心掛けて生活しているか	常に心掛けている n=333	94.3	93.7	80.5	74.8	50.5	61.3	26.1	0.3	2.7	0.6
	少し心掛けている n=924	91.8	84.0	66.8	51.1	34.1	28.2	13.5	0.3	1.1	0.0
	あまり気にしていない n=150	70.0	52.7	42.7	24.0	21.3	14.7	12.0	11.3	0.0	0.0
	全く気にしていない n=21	66.7	47.6	23.8	23.8	4.8	9.5	14.3	28.6	0.0	0.0

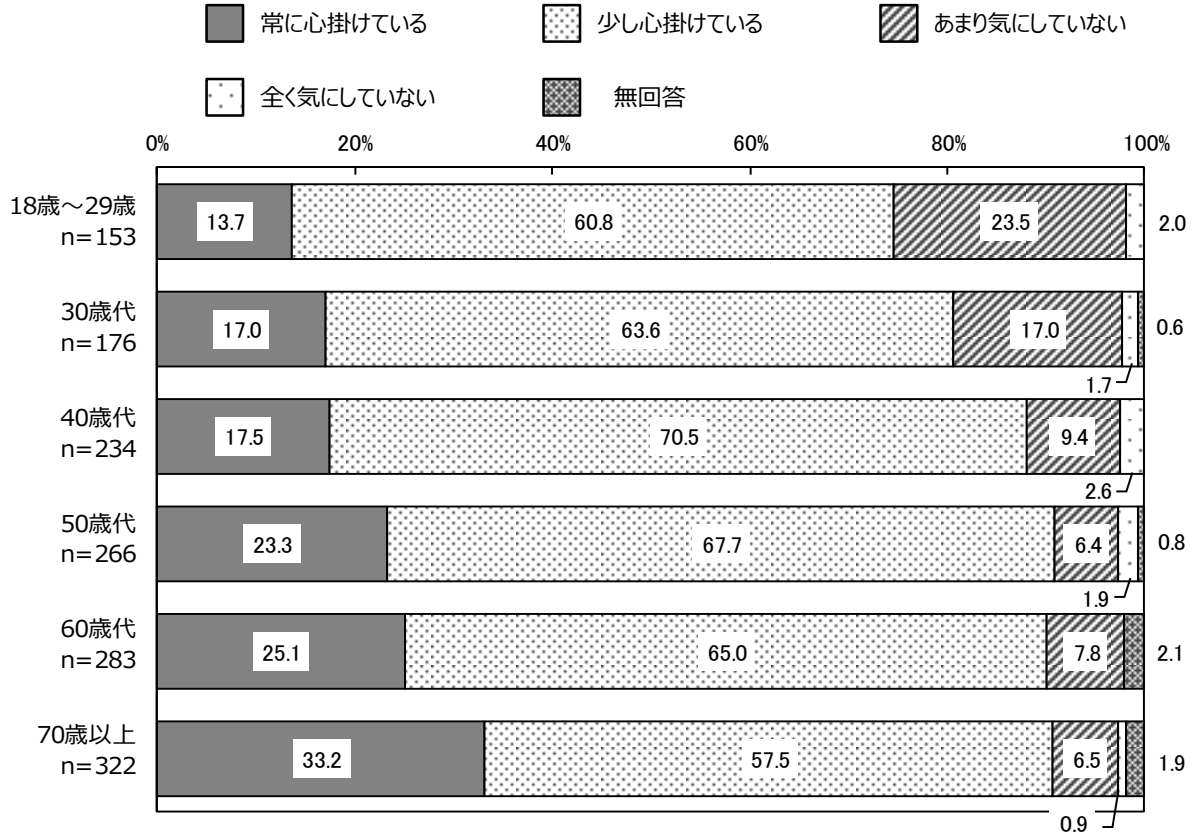
問 36 あなたは日常の中で、環境のことをどの程度心掛けて生活していますか。  
(1つだけ○を付けてください)

環境のことを心掛けて生活しているかは「少し心掛けている」が 63.9%

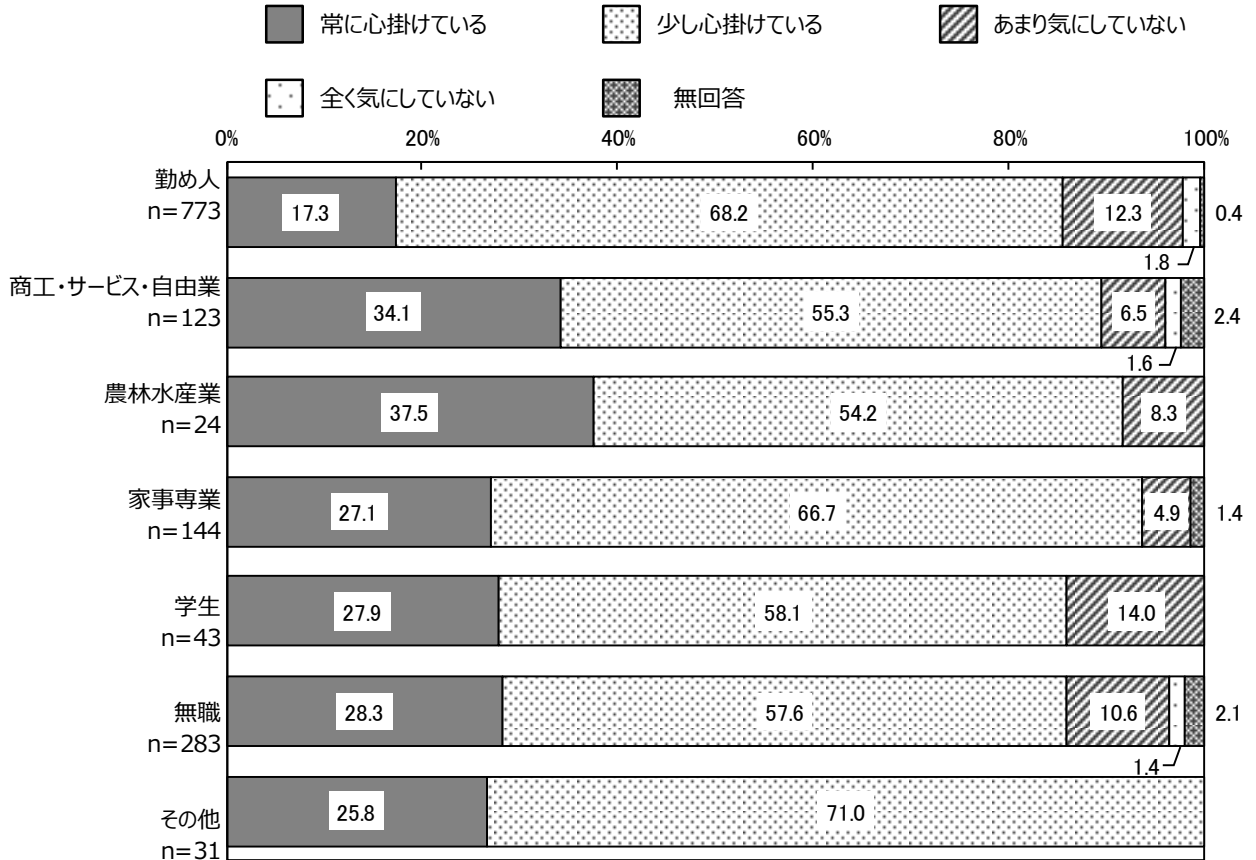


- 「少し心掛けている」が 63.9%と最も高く、次いで「常に心掛けている」が 23.1%、「あまり気にしていない」が 10.4%となった。
- 年代別でみると、すべての年代で「少し心掛けている」が最も高い。「常に心掛けている」は 70 歳以上で 33.2%と最も高く、年代が高くなるほど割合が高い傾向がある。一方で「あまり気にしていない」は 18 歳～29 歳で 23.5%と最も高く、18 歳～29 歳から 50 歳代にかけて年代が高くなるほど割合が低い傾向がある。
- 職業別でみると、すべての職業で「少し心掛けている」が最も高い。「常に心掛けている」は 農林水産業が 37.5%と他の職業と比べて最も高く、勤め人が 17.3%と最も低い。商工・サービス・自由業においても 3 割を超えている。

【年代別】



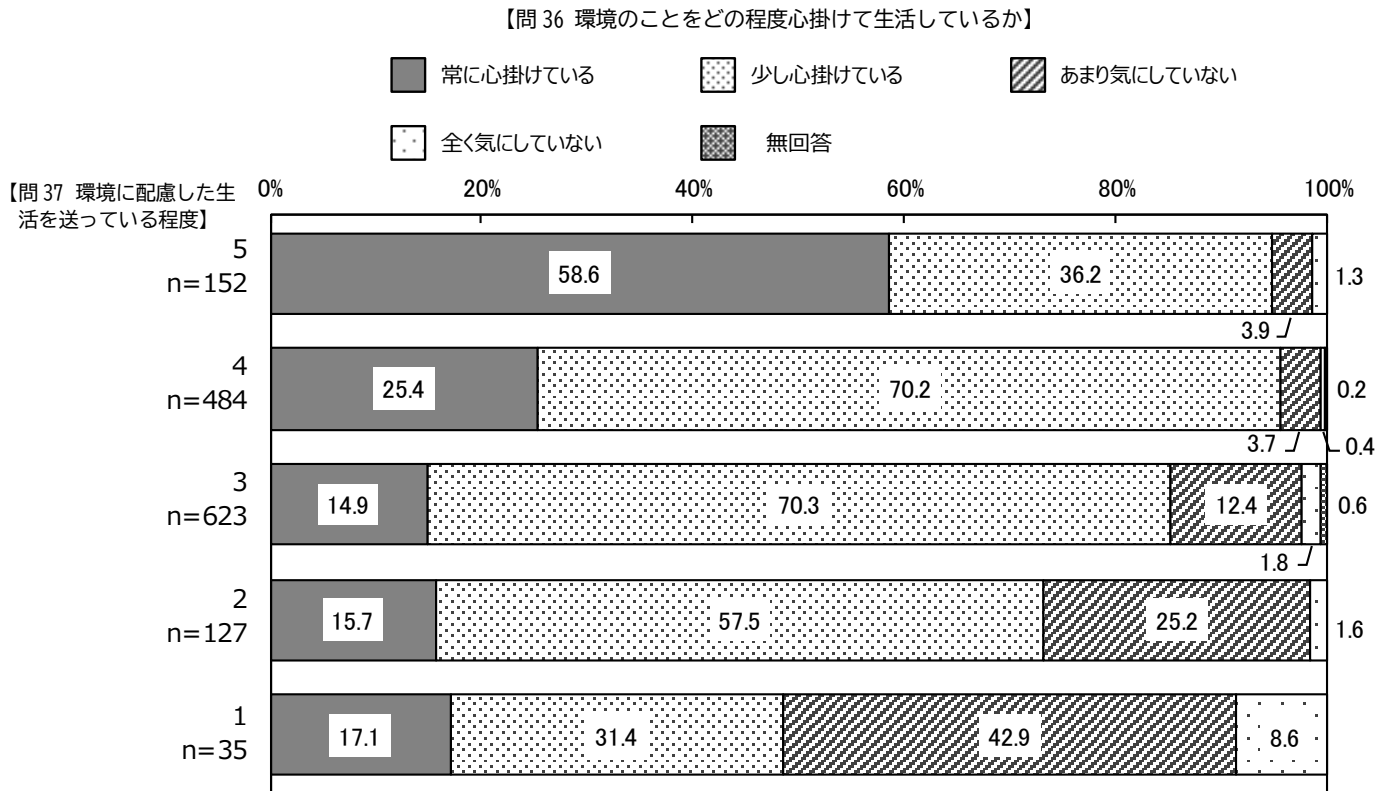
【職業別】





【問 36 と問 37 のクロス集計】

- 問 37 の環境に配慮した生活を送っている程度別でみると、「常に心掛けている」は「5」で 58.6%と最も高い。「あまり気にしていない」は「1」で 42.9%と最も高く、「4」から「1」に程度が下がるほど割合が高くなる傾向にある。

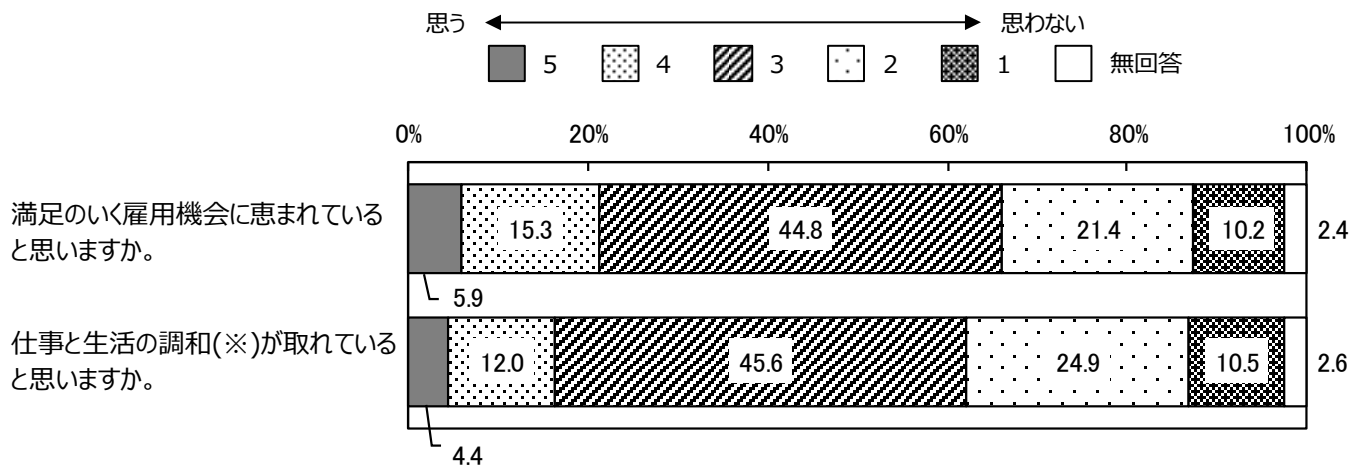


## 4 浜松市戦略計画 2023 について

問 37 あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

### 【若者がチャレンジできるまち】

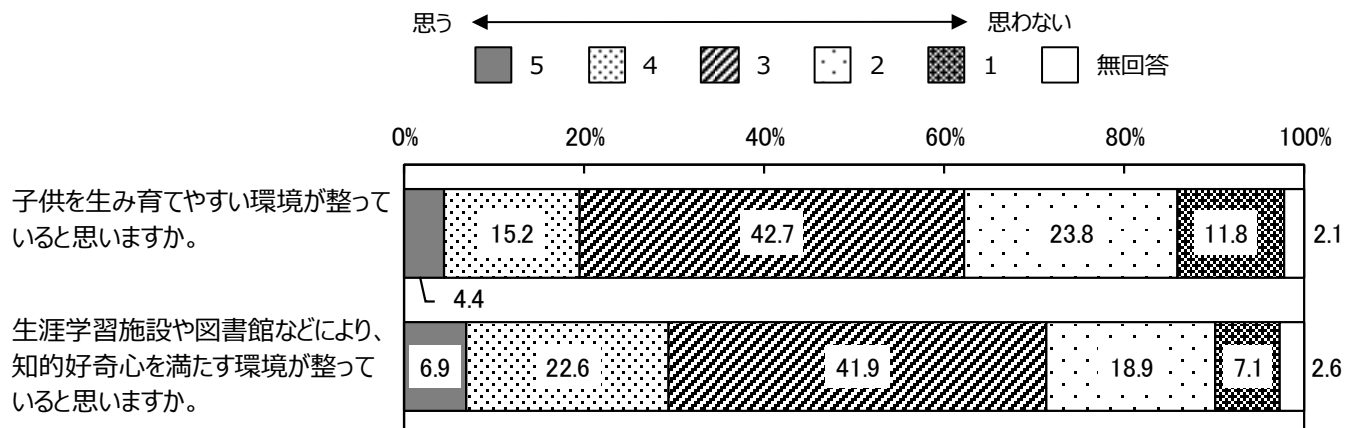
n = 1,444



※ 仕事と家事・育児・介護などと両立すること。

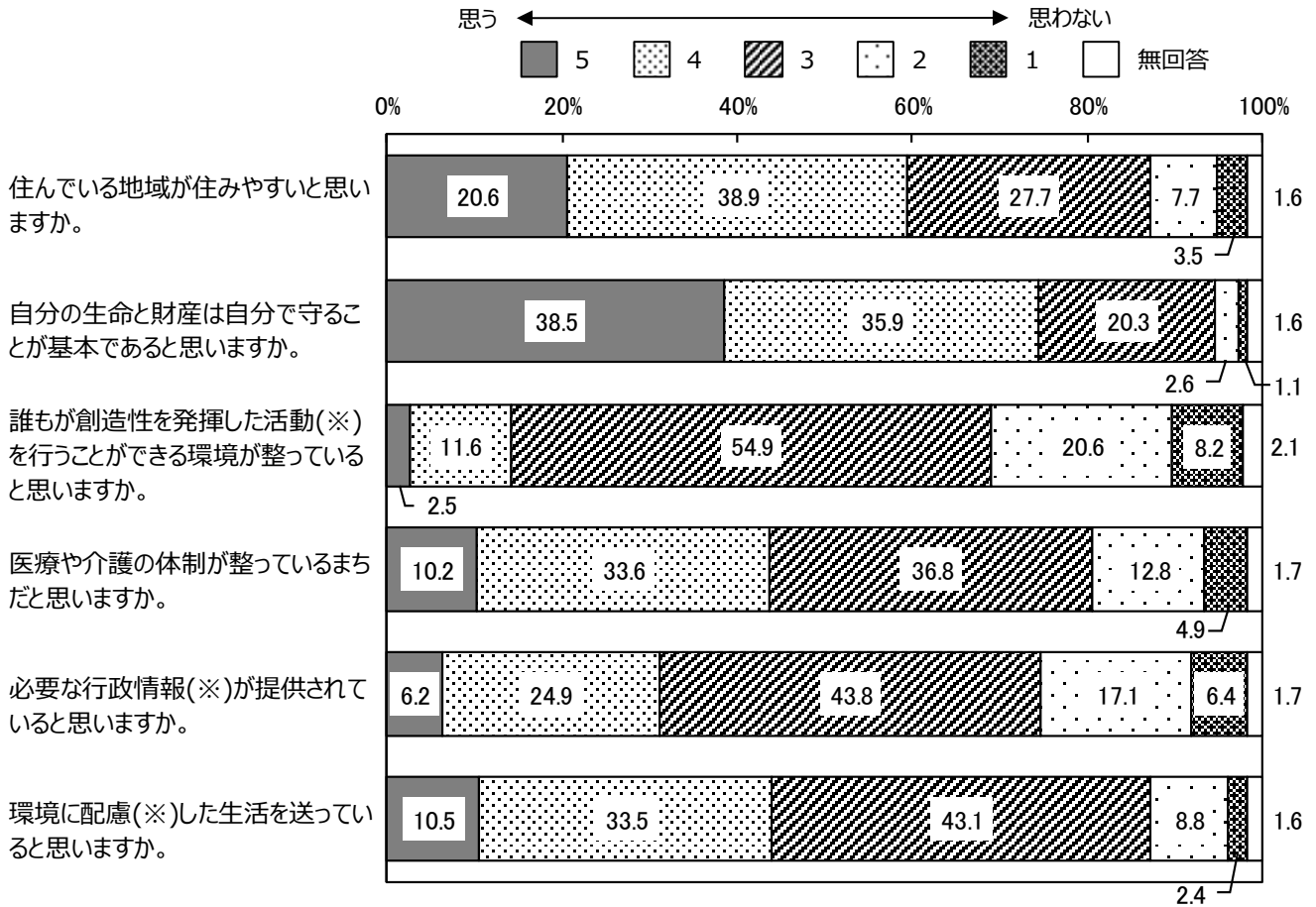
### 【子育て世代を全力で応援するまち】

n = 1,444



【持続可能で創造性あふれるまち】

n = 1,444



※ 創造性を発揮した活動：固有の文化や産業などの地域資源を生かし、新たな価値やまちの魅力を生み出していく活動。

※ 行政情報：各種申請手続き、イベント、事業、予算など浜松市からの情報。

※ 環境に配慮：ごみの減量、リサイクルの推進、消費する電力の削減など。

- 評価が「4」と「5」を合わせた『思う』の割合が最も高かった項目は、「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の74.4%だった。最も低かったのは「誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。」の14.1%だった。
- 2022（令和4）年度と比較すると、10項目中6項目が上昇となった。最も上昇したのは「環境に配慮した生活を送っていると思いますか。」の8.7ポイントであった。一方で最も下降したのは「住んでいる地域が住みやすいと思いますか。」で2.6ポイント減少した。

【2022（令和4）年度調査との比較（プラス幅が大きい順）】

（単位：％）

	2023（令和5）年度 結果（A）	2022（令和4）年度 結果（B）	差 （A-B）
環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	44.0	35.3	8.7
誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	14.1	10.0	4.1
満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	21.2	18.1	3.1
必要な行政情報が提供されていると思いますか。	31.1	30.5	0.6
自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	74.4	74.1	0.3
生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	29.5	29.2	0.3
仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	16.4	17.2	▲ 0.8
医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	43.8	45.2	▲ 1.4
子供を生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	19.6	21.4	▲ 1.8
住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	59.5	62.1	▲ 2.6

※ A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『思う』の割合

- 上位3項目のうち、「満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。」は2年連続で上昇した。また、「環境に配慮した生活を送っていると思いますか。」と「誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。」の項目は、前回は下降したが、今回の調査では上昇となった。前回上昇となった「医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。」は下降に転じた。

※ 次ページの【性別・年代別・行政区別】の表は、評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど思う度合が高くなる指数である。

【性別・年代別・行政区別】

◎=6点以上 \* = 4点以下 (単位:点)

		若者がチャレンジできるまち		子育て世代を全力で応援するまち		持続可能で創造性あふれるまち					
		満足していますか。	仕事の調和が取れていますか。	子供を育てやすい環境が整っていますか。	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていますか。	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていますか。	医療や介護の体制が整っていると思いますか。	必要な行政情報が提供されていると思いますか。	環境に配慮した生活を送っていると思いますか。
性別	女性	4.6	4.3	4.5	5.2	◎6.7	◎7.8	4.6	5.8	5.3	◎6.2
	男性	4.7	4.4	4.3	4.9	◎6.6	◎7.8	4.3	5.9	5.0	5.9
	その他	5.0	5.0	*0.0	*2.5	*2.5	*2.5	*0.0	*0.0	*0.0	*0.0
	選べない	*2.8	*3.8	*2.2	4.1	5.9	◎7.8	*3.4	4.1	*3.4	4.1
年代	10歳代	5.5	5.6	5.0	◎6.3	◎8.1	◎7.7	5.8	◎6.9	◎6.0	◎6.7
	20歳代	4.7	4.4	*3.9	5.0	◎6.4	◎7.5	4.7	5.5	4.8	5.9
	30歳代	4.9	4.4	4.1	5.3	◎6.7	◎7.5	4.3	5.8	5.3	5.7
	40歳代	4.8	4.3	4.2	5.4	◎6.9	◎7.4	4.5	5.7	5.2	5.8
	50歳代	4.3	4.1	4.5	4.8	◎6.6	◎7.8	4.2	5.6	5.1	◎6.0
	60～64歳	4.3	4.3	4.3	4.6	◎6.6	◎7.8	4.2	5.6	4.9	◎6.0
	65～69歳	*4.0	*3.9	*3.8	4.4	5.9	◎7.8	4.1	5.6	4.6	5.6
	70～74歳	5.0	4.7	5.0	5.2	◎6.9	◎8.1	4.8	5.9	5.3	◎6.4
75歳以上	5.0	4.8	5.1	5.6	◎6.8	◎8.2	4.9	◎6.6	◎6.1	◎7.0	
行政区	中区	4.8	4.6	4.7	5.4	◎7.2	◎7.7	4.7	◎6.3	5.5	◎6.2
	東区	4.6	4.5	4.5	5.1	◎6.6	◎7.7	4.5	5.7	5.2	5.9
	西区	4.6	4.1	4.4	5.1	◎6.3	◎7.8	4.4	5.6	5.3	5.9
	南区	4.4	4.4	*4.0	4.8	◎6.6	◎7.6	4.4	5.7	5.0	◎6.0
	北区	4.6	4.4	4.3	5.3	◎6.6	◎7.9	4.4	5.8	5.0	◎6.2
	浜北区	4.7	4.2	4.3	4.9	◎6.6	◎7.8	4.5	5.7	5.0	5.9
	天竜区	*4.0	*3.6	*3.8	4.1	4.8	◎7.8	*3.5	4.2	4.1	5.7

- 性別・年代別・行政区別でみると、「その他」と「10歳代」以外の属性で「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の指数が最も高い。
- 2022(令和4)年度と比較すると、「環境に配慮した生活を送っていると思いますか。」では「65～69歳」を除いた属性で増加となった。最も増加したのは「住んでいる地域が住みやすいと思いますか。」の「10歳代」で1.1ポイント増加となり、最も減少したのは「住んでいる地域が住みやすいと思いますか。」の「20歳代」で1.1ポイント減少した。



## 付録 調査票

---





# 【調査票】 令和5年度 市民アンケート調査（第50回）

## ～「市政運営」について～

問1 次にあげる取り組みについて、あなたは、どの程度満足していると感じていますか。  
また、今後の取り組みとしてはどの程度重要だと思いますか。各項目の満足度、今後の重要度それぞれについて、1～5のうちから1つずつ選び○を付けてください。

取り組み	選択肢									
	①現在の満足度					②今後の重要度				
	満 足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不 満	重 要	や や 重 要	あ ま り 重 要 で は な い	重 要 で は な い	分 か ら な い	
(例) ○○に関する取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
①【地域活性】 魅力発信による交流拡大、にぎわいの創出など地域活性の取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
②【地域活性】 伝統・文化、スポーツ振興の取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③【産業振興】 さまざまな産業の成長促進など産業振興の取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④【移住・定住支援】 UIJターン、移住・定住支援の取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤【子育て】 出会い、結婚、出産、子育ての取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑥【教育】 安心して学ぶことができる教育・環境支援の取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑦【くらし】 健康の保持・増進など健康長寿への取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑧【安心・安全】 災害に強いまちづくりの取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑨【安心・安全】 道路整備、交通安全対策などの取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑩【持続可能な都市】 行政の効率化など行財政改革の取り組み	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

## ～あなたはご存じですか？～

問2 次の項目について、あなたはご存じですか。1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

<p>① 市制記念日 ※浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。</p>	<p>1 知っている</p>		<p>2 知らない</p>
<p>② 生物多様性 ※生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。全ての生き物には違い（「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」）があり、互いにつながり合い支え合って生きています。</p>	<p>1 名称や内容 ある程度 知っている</p>	<p>2 名称は 聞いたことが ある</p>	<p>3 名称も内容も 知らない</p>
<p>③ 浜松市公式ヘルスケアアプリ「はままつ健幸クラブ」 ※浜松市では「予防・健幸都市」の実現を目指す中、2022（令和4）年10月から「はままつ健幸クラブ」の運用を開始しました。毎日の歩数計測のほか、指定する健康イベントへの参加などでポイントがたまり、抽選で浜松市の特産品などが当たります。</p>	<p>1 名称や内容 を知っており、 使用している</p>	<p>2 名称は 聞いたことが ある</p>	<p>3 名称も内容も 知らない</p>
<p>④ SDGs (Sustainable Development Goals) ※2015（平成 27）年に開催された国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標」のことで、2030（令和 12）年までに達成すべき17の国際社会共通の目標です。 ※貧困や飢餓、経済成長、気候変動など、21世紀の世界が抱える問題を、世界中の人々、企業などが連携して解決することを目指しています。</p> 	<p>1 名称や内容も 知っている</p>	<p>2 名称だけは 知っている</p>	<p>3 名称も内容も 知らない</p>

## ～SDGsの達成に向けて～

浜松市は、SDGsの達成に向けて先進的な取り組みを行っている自治体として国より、「SDGs未来都市」に選ばれ、再生可能エネルギー、林業や多文化共生など、SDGsの達成に向けた取り組みを行っています。 ※本アンケートの各設問に、関連するSDGsのアイコンを表示しています。

### 《FSC森林認証について》



11 住み続けられるまちづくりを  
12 つくる責任 つかう責任  
13 気候変動に具体的な対策を  
15 陸の豊かさを守ろう  
関連事業：森林認証推進事業、  
FSC認証材利用拡大推進事業

浜松市では、国際的な認証制度であるFSC森林認証に基づく持続可能かつ適切な森林経営と、天竜材・天竜材製品の流通・販路拡大に取り組んでいます。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、関連施設（有明体操競技場、選手村ビレッジプラザなど）に浜松市の「FSC森林認証」の森林から生産された木材が使用されました。

問3 あなたは「F S C森林認証※」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている      2. 名称だけは知っている      3. 名称も内容も知らない

※「F S C森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

問4 あなたは「F S C森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積（約 49,538ha※）を有していることをご存じですか。 ※2023（令和5）年4月1日現在

(1つだけ○を付けてください)

1. 知っている      2. 知らない

### 《カーボンニュートラルについて》



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
13 気候変動に具体的な対策を  
関連事業：太陽光発電の導入ほか

浜松市では、脱炭素社会の実現に向け、市民や事業者の皆さまと一体となった再生可能エネルギー（R E（アールイー）：Renewable Energy）の導入拡大などにより、2050（令和 32）年までに「二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指す「ゼロカーボンシティ」に向けた取り組みを推進しています。

問5 あなたは「カーボンニュートラル※」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている      2. 名称だけは知っている      3. 名称も内容も知らない

※温室効果ガスの排出量と森林などが吸収する温室効果ガスの吸収量を相殺し、地域全体で実質ゼロにする取り組みです。

※浜松市でも、国が目指す 2050 年脱炭素社会の実現のため脱炭素政策を推進し、持続可能な社会の構築を進めていきます。

問6 あなたは、浜松市が行っているカーボンニュートラルの取り組みのうち、力を入れるべきものはどれだと考えますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- |                             |                  |
|-----------------------------|------------------|
| 1. 再生可能エネルギーの導入             | 2. 省エネルギー設備の普及   |
| 3. 住宅のZ E H（ゼッチ）化※          | 4. 電気自動車（E V）の普及 |
| 5. 3 R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進 | 6. 食品ロスの削減       |
| 7. 森林経営や植林による二酸化炭素の吸収促進     | 8. 分からない         |

※ZEHとはネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略語で「エネルギー収支を実質ゼロ以下にする家」のことです。

問7 あなたのご家庭では、省エネルギー性能の高い住宅や「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用など）、電気自動車（E V）を導入していますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- |               |                  |                 |
|---------------|------------------|-----------------|
| 1. Z E H住宅    | 2. 太陽光発電設備       | 3. 太陽熱利用設備      |
| 4. 蓄電池        | 5. エネファーム        | 6. V 2 H対応型充電設備 |
| 7. 電気自動車（E V） | 8. その他の再エネ・省エネ設備 |                 |
| 9. 今後、導入予定    | 10. 導入する予定はない    |                 |

問8 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー由来の電気※」などを利用する予定はありますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 既に、再生可能エネルギー由来の電気などを利用している
2. 今後、再生可能エネルギー由来の電気などを利用する予定である
3. 利用する予定はない
4. 未定

※電力会社が提供しているいわゆる「CO<sub>2</sub>フリープラン」など、再生可能エネルギー由来の電気などを利用することで家庭の脱炭素化（CO<sub>2</sub>排出量削減）ができます。

## 《多文化共生について》



4 質の高い教育をみんなに  
10人や国の不平等をなくそう  
17 パートナリシップで目標を達成しよう  
関連事業：外国人の子供の教育支援、国際交流連携推進事業、国際理解教育講座ほか

浜松市には2023（令和5）年4月1日時点で約27,000人の外国人が住んでいます。こうした中で、浜松市は多様性を生かした社会を築くために取り組んでいます。また、国際的な繋がりを通して都市の魅力を高めています。

問9 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みについてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらでもない
4. どちらかといえば不満
5. 不満

問10 あなたは、浜松市が行っている国際化の取り組みのうち、最も力を入れるべきものはどれだと考えますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 海外の都市や国際機関などとの連携
2. 国際協力・国際貢献
3. 市内企業の海外進出・販路開拓支援
4. 海外からの観光インバウンドの推進
5. 国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催
6. 国際的な市民交流の支援

問11 姉妹都市や友好都市などの世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらでもない
4. どちらかといえば不満
5. 不満

## 《デジタルを活用したまちづくりについて》



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

関連事業：デジタル・スマートシティ推進ほか

浜松市では、全ての市民が安全・安心で幸せに暮らし続けることができる持続可能な都市を築くため、デジタルを活用したまちづくりを推進しています。

問 12 あなたは、2022（令和4）年7月に「デジタルを活用したまちづくり推進条例」を策定するなど、浜松市が「デジタルを活用したまちづくり」に取り組んでいることをご存じですか。

（1つだけ○を付けてください）

1. 取り組みを実施していることや、その取り組み内容もある程度は知っている
2. 取り組みを実施していることは聞いたことがあるが、取り組み内容まではよく分からない
3. 知らない

問 13 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのようにお考えですか。

（3つまで○を付けてください）

1. 暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる
2. キャッシュレスによる買い物・送金・納付などで生活が便利になる
3. 対面ではなくリモートワークなどで仕事や暮らしの交流がしやすくなる
4. 仕事や趣味、市民活動などの場面でさまざまな人とつながることができる
5. 産業や観光の国内外への情報発信が広がって市場が開拓され活性化し地域経済が豊かになる
6. 中山間地域でのオンライン診療、画像診断など医療の地域格差を緩和することができる
7. オンライン授業など、子供や学生の教育方法に選択肢ができる
8. 個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある
9. デジタル化が進むことについていけない
10. デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる
11. 人と人との対面での直接的な交流が少なくなる
12. 大都市圏のIT企業に資本が集中する
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問 14 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのような分野に先端技術やデータを活用すべきだとお考えですか。

（3つまで○を付けてください）

1. 健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など）
2. 防災・安全（センサーを活用した高齢者の見守りなど）
3. 教育・子育て（オンラインでの子育て相談など）
4. 交通（自動運転・ドローン配送など）
5. 観光・商業（人流データを活用した観光施策など）
6. エネルギー・環境・ごみ（利用データを活用したエネルギーの効率的な運用など）
7. 農林業（ドローンによる農薬散布など）
8. 産業（データやAIを活用した工場の生産性向上など）
9. 文化・スポーツ・生涯学習（スマートフォンの講習など）
10. 労働（テレワークの促進など）
11. 移住・定住（オンラインでの移住相談など）
12. 市役所の各種手続き（行政手続きのオンライン化など）
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

## 《歩きスマホについて》



11 住み続けられるまちづくりを  
関連事業：安全な生活基盤づくりの推進

浜松市では、市民が安全・安心に生活できるように道路が適正かつ持続的に保全され、交通事故や災害が少ない都市を実現するため、安全な生活基盤づくりの推進に取り組んでいます。

問 15 あなたは、あなた以外の人の「歩きスマホ※」で危険や迷惑を感じたことはありますか。  
(1つだけ○を付けてください)

- |       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. 分からない |
|-------|-------|----------|

※スマートフォンや携帯電話、タブレットを注視しながら走ったり歩いたりすることを指します。

問 16 問 15 で「1. ある」と回答された方にお聞きます。どこでそのように感じましたか。  
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- |            |          |            |
|------------|----------|------------|
| 1. 歩道など道路上 | 2. 公園    | 3. 駅の構内    |
| 4. 公共施設内   | 5. 商業施設内 | 6. その他 ( ) |

問 17 あなたは、公共の場所での「歩きスマホ」を制限するの必要を感じますか。  
(1つだけ○を付けてください)

- |       |       |            |
|-------|-------|------------|
| 1. 必要 | 2. 不要 | 3. どちらでもよい |
|-------|-------|------------|

## 《人権について》



16 平和と公正をすべての人に  
関連事業：人権啓発事業ほか

人権は「誰もが幸せに生きていく権利」で身近で大切なものです。浜松市では、お互いの人権が尊重された「思いやりあふれる社会の実現」に向けた取り組みを進めています。

問 18 あなたは、人権は重要なことだと思いますか。  
(1つだけ○を付けてください)

- |       |           |            |         |          |
|-------|-----------|------------|---------|----------|
| 1. 思う | 2. ときどき思う | 3. あまり思わない | 4. 思わない | 5. 分からない |
|-------|-----------|------------|---------|----------|

問 19 あなたの周りでは、お互いの人権を守りながら生活できていると感じますか。  
(1つだけ○を付けてください)

- |       |           |            |         |          |
|-------|-----------|------------|---------|----------|
| 1. 思う | 2. ときどき思う | 3. あまり思わない | 4. 思わない | 5. 分からない |
|-------|-----------|------------|---------|----------|

問 20 あなたは、日常生活の中で、あなた自身またはあなたの周りの方(家族や友人、職場の同僚など)の人権が侵害されたと感じたことはありますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. 分からない |
|-------|-------|----------|

## 《文化振興について》



4 質の高い教育をみんなに  
関連事業：市民音楽文化振興事業ほか

浜松市では、「文化で市民の幸せを創り出す都市」を目標に定め、誰もが気軽に多様な文化を楽しむことができ、暮らしの豊かさや都市の活力につながるまちづくりを推進しています。

問 21 あなたは、音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらでもない 4. どちらかといえば不満 5. 不満

問 22 あなたは、過去1年間にどのような文化芸術に取り組みましたか。鑑賞などサービスの受け手として楽しんだものを含みます。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 文学 2. 音楽 3. 美術 4. 写真 5. 演劇 6. 舞踊  
7. 民俗芸能 8. 茶道 9. 華道 10. 書道 11. 工芸 12. メディア芸術  
13. 歴史 14. 特に取り組んでいない 15. その他(具体的に： )

## 《スポーツの推進について》



3 すべての人に健康と福祉を  
関連事業：スポーツの普及・活性化事業ほか

浜松市では、「スポーツ文化都市 浜松」の実現を目指し、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」のそれぞれに目標を設定して、スポーツの推進に取り組んでいます。

問 23 あなたは、過去1年間にスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。

スポーツイベントや各種競技の大会におけるボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小・中学校、高校、大学の部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

1. ほぼ毎日、支援活動を行った 2. 月に数回のペースで支援活動を行った  
3. 年に1回は支援活動を行った 4. 全く支援活動を行わなかった

問 24 あなたは、過去1年間でスポーツ(運動)をどの程度行いましたか。

身体を動かすことを目的としたもの(ウォーキングや階段上り下りなど)から本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

1. ほぼ毎日 2. 週3回以上 3. 週1回以上  
4. 月に1~2回程度 5. 年に数回程度 6. スポーツ(運動)はしていない

問 25 あなたは、過去1年間で実際に会場に出向いたスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。  
プロスポーツだけでなく、地域のスポーツ活動や少年団などの観戦・応援も含まれます。

(1つだけ○を付けてください)

- |           |           |                    |
|-----------|-----------|--------------------|
| 1. ほぼ毎日   | 2. 月に数回程度 | 3. 月に1回程度          |
| 4. 年に数回程度 | 5. 年に1回程度 | 6. スポーツ観戦・応援はしていない |

## 《ユニバーサルデザイン・男女共同参画について》



3 すべての人に健康と福祉を  
4 質の高い教育をみんなに  
5 ジェンダー平等を実現しよう  
関連事業：ユニバーサルデザイン推進事業、  
男女共同参画推進事業ほか

浜松市では、誰もが安全、安心で快適に暮らすことができる「思いやりの心が結ぶ優しいまち」の実現を目指し、ユニバーサルデザインや男女共同参画社会※の推進に取り組んでいます。

※男女共同参画社会とは、男女が共に、対等の立場で、自らの意志によって社会のあらゆる分野に参画できる社会のことです。

問 26 あなたは「ユニバーサルデザイン※」を知っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |                |               |               |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 名称や内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 名称も内容も知らない |
|----------------|---------------|---------------|

※ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全、安心で快適な暮らしができるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていかうとする考え方のことです。

問 27 あなたは浜松市のユニバーサルデザインによるまちづくり※についてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |       |               |            |               |       |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらでもない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|

※浜松市では、施設や道路などにユニバーサルデザインを取り入れた環境を整備するとともに、市政情報や防災情報などの身近な生活情報を誰もが容易に受け取れるよう、さまざまな取り組みを行っています。

問 28 あなたは浜松市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組み※についてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |       |               |            |               |       |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらでもない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|

※浜松市では、男女共同参画を推進するための啓発講座や人材・団体育成支援、情報発信、相談事業など、さまざまな取り組みを行っています。



## 《消費生活について》



12 つくる責任 つかう責任  
関連事業：エシカル消費（フェアトレードなど）の普及・啓発ほか

浜松市では、私たちの消費行動が、現在およびこれからの社会・経済や環境に影響を及ぼすことを自覚して、よりよい社会にしようとする「消費者市民社会」の形成に取り組んでいます。

問 29 あなたは、「エシカル消費※」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている      2. 名称だけは知っている      3. 名称も内容も知らない

※エシカル消費とは、人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを選んで買い物をする事です。

問 30 あなたは、フェアトレード※商品を買ったことがありますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. ある      2. フェアトレードは知っているが、買ったことはない      3. ない

※フェアトレードとは、開発途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取り引き」する「貿易のしくみ」により、立場の弱い小規模生産者や労働者の生活改善と自立を目指す取り組みです。

問 31 あなたは、浜松市がフェアトレードタウン※であることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている      2. 名称だけは知っている      3. 名称も内容も知らない

※フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレードの輪を広げていく自治体のことです。

## 《みどりについて》



11 住み続けられるまちづくりを  
関連事業：災害に強いまちづくりの推進

浜松市では、多様なみどりを生かし、「みどりによってまちづくりの課題解決に貢献する」「みどり生活を愉しむ」ことで持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

問 32 あなたは、次世代に残したいと思うみどり※がありますか。

(「ある」に○を付けた方は、特に残したいと思うものを具体的に記入してください)

1. ある      具体的に：  
2. ない

※湖や川などの自然や、公園なども含みます。

※参考：赤石山脈、猪鼻湖、遠州灘の海岸林、旧東海道松並木、県立森林公園、佐鳴湖、天竜川、天竜美林、富塚椎ノ木谷、浜名湖、浜名湖ガーデンパーク、浜松城公園、姫街道松並木、フラワーパーク、フルーツパーク、万葉の森公園、都田川桜堤、都田総合公園、雄踏総合公園、四ツ池公園、その他身近なみどり など





最後にあなたのことについて記入してください。

(項目別に1つだけ○を付けてください)

性別	1. 女性	2. 男性	3. その他	4. 選べない
年齢	1. 10歳代 4. 40歳代 7. 65～69歳	2. 20歳代 5. 50歳代 8. 70～74歳	3. 30歳代 6. 60～64歳 9. 75歳以上	
国籍・地域	1. 日本 4. ベトナム	2. ブラジル 5. その他( )	3. フィリピン	
職業	1. 勤め人 3. 農林水産業(自営・家族従事者) 4. 家事専業 6. 無職	2. 商工・サービス・自由業(自営・家族従事者) 5. 学生 7. その他( )		
居住年数	あなたは浜松市(合併前の旧市町村当時からも含みます)に住んで何年になりますか 1. 3年未満 2. 3年以上5年未満 3. 5年以上10年未満 4. 10年以上20年未満 5. 20年以上			
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上			
居住形態	あなたのお住まいは 1. 持ち家(一戸建て) 2. 持ち家(集合住宅) 3. 借家 4. 賃貸アパート・賃貸マンション 5. 公営住宅 6. 社宅・寮 7. その他			
行政区	あなたがお住まいの行政区は 1. 中区 2. 東区 3. 西区 4. 南区 5. 北区 6. 浜北区 7. 天竜区  行政区が分からない場合は、町名をご記入ください → ( )			

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、9月15日(金)までにご投函ください。





# 令和5年度 市民アンケート調査 報告書

2024（令和6）年1月発行

発 行	浜松市 企画調整部 広聴広報課
住 所	〒430-8652 浜松市中央区元城町103番地の2
電 話	053-457-2023
F A X	053-457-2028
U R L	<a href="https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp">https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp</a>